

# 平成 29 年度全国学力・学習状況調査結果 分析報告書

平 成 2 9 年 1 2 月  
三 重 県 教 育 委 員 会

## 目 次

平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果・分析について……………		1
調査の概要……………		2
<b>第 1 章 三重県全体概況</b>		
1	教科に関する調査結果の概要	
	平均正答率……………	3
	平均無解答率……………	4
2	児童生徒・学校質問紙調査結果の概要	
	児童生徒質問紙調査結果の概要	
	(1) 生活習慣の状況……………	5
	(2) 自尊感情・自己肯定感……………	7
	(3) 学習習慣……………	9
	(4) 地域との関わり……………	10
	学校質問紙調査結果の概要	
	(1) 学校での組織的な取組……………	11
	(2) 全国学力・学習状況調査等を活用した取組……………	13
	(3) 実践推進校の状況……………	15
	(4) コミュニティ・スクール、学校支援地域本部……………	15
3	平成 26 年度小学校第 6 学年、平成 29 年度中学校第 3 学年の同一児童生徒の調査結果	
	平均正答率・平均無解答率……………	16
	領域、観点、問題形式別分析……………	17
	「みえの学力向上県民運動」主な関連指標……………	18
<b>第 2 章 教科に関する調査結果の分析</b>		
1	小学校	
	平均正答率による学校の分布……………	20
	正答数の度数分布……………	21
	領域、観点、問題形式別分析……………	22
2	中学校	
	平均正答率による学校の分布……………	23
	正答数の度数分布……………	24
	領域、観点、問題形式別分析……………	25
3	みえの子どもたちの経年的な課題……………	26
<b>第 3 章 質問紙調査結果の分析</b>		
1	児童生徒の自尊感情・自己肯定感に関する状況……………	32
2	児童生徒の携帯電話・スマートフォン等の使用時間に関する状況……………	33
3	児童生徒の家庭学習に関する状況……………	34
4	児童生徒の読書習慣に関する状況……………	36
5	主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に関する状況……………	37
6	学校の組織的な取組に関する状況（目標の提示・振り返り活動）……………	39
7	地域との関わりに関する状況……………	41
8	学校と児童生徒との意識の差の状況……………	42

<b>第4章 県内の取組</b>	
1	課題の改善が見られた学校の効果的な取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
2	三重県と全国との取組の比較・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
3	家庭学習習慣・読書習慣の定着が見られる学校の取組・・・・・・・・・・ 47
4	学校の取組事例
	JSLカリキュラムを活用したどの子にもわかる授業づくり [いなべ市立阿下喜小学校]・・ 48
	自分の考えを確かめ、伝え、つながり、高め合う授業づくり [津市立安濃小学校]・・ 49
	聴き合い、学び合い、よく考えて行動する子どもの育成 [紀宝町立井田小学校]・・ 50
	数学科における習熟度別少人数指導の実践 [大紀町立大宮中学校]・・ 51
	言語活動を意識した授業づくり [伊賀市立柘植中学校]・・ 52
<b>第5章 「みえの学力向上県民運動」主な関連指標（三重県の経年比較）・・・・・・・・・・ 53</b>	
<b>第6章 今後の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57</b>	
<b>第7章 市町等別調査結果・分析と今後の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59</b>	

<b>用語の説明</b>
<b>みえの学力向上県民運動セカンドステージとは</b>
<p>三重県・三重県教育委員会では、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を認識し、教育力を高めながら一体となって子どもたちの学力を育んでいくため、平成24年度からみえの学力向上県民運動を展開してきました。平成27年度末の総括において、当運動を一層充実発展させることとし、昨年度からの4年間を「みえの学力向上県民運動セカンドステージ」と位置付け展開しています。セカンドステージでは、学校では授業改善等の取組を深め、家庭・地域では生活習慣・学習習慣・読書習慣の確立等の取組を広げ、家庭の状況により、対応が難しい問題については、地域による学習支援や居場所づくりなどにより、地域で支えるという方向性を基本としながら取組を進めています。</p> <p>子どもたちの希望と未来を支える学力を育んでいくため、教育関係者のみならず、全ての県民が教育の当事者としての自覚を持ち、それぞれの役割を果たし、子どもたちと向き合っていきます。</p>
<b>肯定的な回答とは</b>
<p>質問紙調査の項目の多くは、4段階の選択肢の形式で回答するものです。それらの項目において、上位の選択肢番号1と2を、「肯定的な回答」としています。例えば、「読書は好きですか」の選択肢「1.当てはまる」「2.どちらかといえば、当てはまる」「3.どちらかといえば、当てはまらない」「4.当てはまらない」で、肯定的な回答とは、「1.当てはまる」「2.どちらかといえば、当てはまる」と回答したものを指します。</p>
<b>A層、B層、C層、D層とは</b>
<p>各教科の児童生徒を正答数の大きい順に整列し、人数比率により25%刻みで上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層と4つの層に分けたものを指します。</p>
<b>PDCAサイクルとは</b>
<p>「PDCAサイクル」は、Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（見直し）の頭文字を取ったもので、児童生徒の学力の向上という目標に対して、学校が指導計画を作成し（P）、その指導計画に基づいた授業改善を実践し（D）、児童生徒が目標どおりの変容をしたかを評価（C）、取組全体を見直す（A）という一連のサイクルをいいます。</p>

# 平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果・分析について

三重県教育委員会

平成 29 年 12 月

平成 29 年 4 月に実施された「平成 29 年度全国学力・学習状況調査」の結果が、8 月 28 日に文部科学省から公表されました。

本県では、全国の平均正答率を上回ったのは中学校数学 A のみにとどまりましたが、中学校 3 年生は小学校 6 年生時（平成 26 年度）の調査の結果と比べると、全教科で大きく改善しています。また、平均無解答率も、小中学校あわせて 8 教科中 6 教科で全国平均よりも低く、子どもたちの最後まで頑張ろうとする姿が見られ、「やればできる」という思いが形になってきています。

一方で、国語では、「引用したり要約したりして書くこと」「根拠に基づいて自分の考えを書くこと」に、算数・数学では、「割合」「図形」に経年的に課題が見られます。また、質問紙調査結果から、授業において子どもたちが自ら課題を解決するための主体的な学びや、家庭での学習時間やスマホの使用時間、読書習慣に引き続き課題が見られます。

今回の結果を踏まえ、各学校においては、子どもたちが「わかった」「できた」と実感できる教育実践を教職員が一丸となってさらに積み上げていくことが、また、家庭・地域においては、生活習慣、学習習慣、読書習慣の確立に向けた取組を広げていくことが大切です。

子どもたちの学力が向上することは、自尊感情・自己肯定感やチャレンジする力を高め、将来の夢を実現するための可能性や選択肢を広げることに繋がります。私たち大人一人一人は、子どもたちのために、そのやる気や頑張りに応えられるよう取り組んでいく必要があります。

現在、三重の子どもたちの夢や希望をかなえる学力を育んでいくことができるよう、県・市町等教育委員会、学校・家庭・地域が一体となって「みえの学力向上県民運動セカンドステージ」に取り組んでいます。子どもたちの豊かな未来の実現に向け、引き続き県民の皆様方の御理解・御協力をよろしくお願いいたします。

## ～全ては「子どもたちの笑顔」のために～

※調査結果の取扱いについては、文部科学省が示す実施要領における「5（5）調査結果の取扱いに関する配慮事項」をご覧ください。（P. 59 に抜粋して掲載しています。）



## 調査の概要

以下、1～4については、文部科学省が示す「平成29年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」に基づく

### 1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 調査の対象学年

- ・小学校第6学年及び中学校第3学年の原則として全児童生徒を対象とする。
- ・特別支援学校小学部第6学年及び中学部第3学年の原則として全児童生徒を対象とする。
- ・ただし、特別支援学校及び小中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒のうち、調査の対象となる教科について、以下に該当する児童生徒は、調査の対象としないことを原則とする。
  - (1) 下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒
  - (2) 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科の内容の指導を受けている児童生徒

### 3 調査の内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、算数・数学）

A：主として「知識」に関する問題	B：主として「活用」に関する問題
<ul style="list-style-type: none"><li>・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 など</li></ul>

#### (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

### 4 調査実施日

平成29年4月18日（火）

### 5 調査を実施した学校・児童生徒数〔三重県：公立〕

#### 【小学校調査】

	対象学校数	実施学校数(実施率)	児童数
小学校	358	356 (99.4%)	約15,500人

※学校数には、義務教育学校前期課程、県立特別支援学校を含む。

#### 【中学校調査】

	対象学校数	実施学校数(実施率)	生徒数
中学校	158	157 (99.4%)	約16,300人

※学校数には、義務教育学校後期課程、県立特別支援学校を含む。

# 第1章 三重県全体概況

## 1 教科に関する調査結果の概要

平均正答率 【関連：第2章 P.20～】

**8教科中7教科で全国の平均正答率を下回りました。中学校では数学Aで全国の平均正答率を上回りました。**

中学校においては、平均正答率が昨年度と比べて全教科で全国との差が改善されました。

一方、小学校においては、3教科で全国の平均正答率との差が大きくなるなど課題が見られます。

	H19		H20		H21		H22		H24		H25		H26		H27		H28		H29		
	平均正答率		平均正答率		平均正答率		平均正答率の95%信頼区間 (平均正答率の推計値±誤差の幅)		平均正答率の95%信頼区間 (平均正答率の推計値±誤差の幅)		平均正答率		平均正答率		平均正答率		平均正答率		平均正答率		
	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	
小学校	国語A	81.7	80.6	65.4	62.9	69.9	67.8	83.2~83.5 (83.3±0.2)	80.9~82.5 (81.7±0.8)	81.4~81.7 (81.6±0.2)	79.0~80.2 (79.6±0.6)	62.7	60.3	72.9	69.6	70.0	68.0	72.9	71.7	74.8	73.6
		◎<-1.1>		<-2.5>		<-2.1>		<-1.6>		<-2.0>		<-2.4>		<-3.3>		<-2.0>		<-1.2>		<-1.2>	
	国語B	62.0	60.0	50.5	47.1	50.5	46.9	77.7~78.0 (77.8±0.2)	74.2~76.2 (75.2±1.0)	55.4~55.8 (55.6±0.2)	51.8~53.5 (52.7±0.9)	49.4	46.7	55.5	52.5	65.4	65.3	57.8	58.1	57.5	57.0
		<-2.0>		<-3.4>		<-3.6>		<-2.6>		<-2.9>		<-2.7>		<-3.0>		<-0.1>		◎<+0.3>* ↗		<-0.5>	
	算数A	82.1	81.1	72.2	70.9	78.7	76.0	74.0~74.4 (74.2±0.2)	71.5~73.4 (72.4±1.0)	73.1~73.5 (73.3±0.2)	71.4~73.0 (72.2±0.8)	77.2	75.8	78.1	76.2	75.2	74.8	77.6	78.3	78.6	77.4
	<-1.0>		<-1.3>		<-2.7>		<-1.8>		<-1.1>		<-1.4>		<-1.9>		<-0.4>		◎<+0.7>* ↘		<-1.2>		
算数B	63.6	61.4	51.6	49.7	54.8	52.5	49.1~49.5 (49.3±0.2)	46.5~48.2 (47.3±0.9)	58.7~59.1 (58.9±0.2)	56.0~57.6 (56.8±0.8)	58.4	55.3	58.2	56.0	45.0	44.1	47.2	47.1	45.9	44.6	
	<-2.2>		<-1.9>		<-2.3>		<-2.0>		<-2.1>		<-3.1>		<-2.2>		<-0.9>		◎<-0.1> ↘		<-1.3>		
理科									60.8~61.1 (60.9±0.2)	57.2~58.8 (58.0±0.8)					60.8	59.2					
									<-2.9>						<-1.6>						
中学校	国語A	81.6	81.6	73.6	72.6	77.0	75.9	75.0~75.2 (75.1±0.1)	73.5~74.7 (74.1±0.6)	75.0~75.2 (75.1±0.1)	73.3~74.7 (74.0±0.7)	76.4	75.0	79.4	78.0	75.8	75.0	75.6	74.4	77.4	76.9
		◎<0.0>		<-1.0>		<-1.1>		<-1.0>		<-1.1>		<-1.4>		<-1.4>		<-0.8>		<-1.2>		↗<-0.5>	
	国語B	72.0	71.0	60.9	59.5	74.5	73.3	65.1~65.5 (65.3±0.2)	63.3~65.0 (64.1±0.9)	63.2~63.4 (63.3±0.1)	60.4~61.8 (61.1±0.7)	67.4	65.8	51.0	49.0	65.8	64.3	66.5	64.3	72.2	70.7
		◎<-1.0>		<-1.4>		<-1.2>		<-1.2>		<-2.2>		<-1.6>		<-2.0>		<-1.5>		<-2.2>		↗<-1.5>	
	数学A	71.9	73.1	63.1	63.8	62.7	62.7	64.4~64.8 (64.6±0.2)	64.3~66.4 (65.4±1.1)	62.0~62.3 (62.1±0.2)	60.7~62.6 (61.6±1.0)	63.7	63.2	67.4	67.1	64.4	64.3	62.2	62.2	64.6	65.3
	◎<+1.2>* ↗		<+0.7>* ↗		<0.0>		<+0.8>* ↗		<-0.5>		<-0.5>		<-0.3>		<-0.1>		<0.0>		↗<+0.7>* ↗		
数学B	60.6	60.6	49.2	49.3	56.9	56.5	43.1~43.5 (43.3±0.2)	41.7~43.8 (42.8±1.1)	49.2~49.5 (49.3±0.2)	46.9~49.1 (48.0±1.1)	41.5	39.3	59.8	58.3	41.6	40.6	44.1	43.2	48.1	47.3	
	<0.0>		◎<+0.1>* ↗		<-0.4>		<-0.5>		<-1.3>		<-2.2>		<-1.5>		<-1.0>		<-0.9>		↗<-0.8>		
理科									50.9~51.1 (51.0±0.1)	49.7~51.4 (50.6±0.9)					53.0	51.9					
									<-0.4>						<-1.1>						

※< >内の数値は、(三重県の平均正答率) - (全国の平均正答率) の値を示し、

全国の平均正答率との差において、

◎ : 10回の中で最も良かった値

\* : 全国の平均正答率より良かった値

右上がりの矢印 : 昨年度から改善された場合

右下がりの矢印 : 昨年度から改善されていない場合

を示しています。

※平成23年度の調査は東日本大震災のため、実施されませんでした。

※平成22年度及び平成24年度の抽出調査における全国及び三重県(公立)の結果については、誤差を含めた数値の幅「平均正答率の95%信頼区間」(95%の確率で、全員を対象とした調査(悉皆調査)の場合の平均正答率が含まれる範囲)で示しています。また、下段の( )内については、この区間を「平均正答率の推計値±誤差の幅」により表したものです。

平均無解答率

**8教科中6教科（小学校国語A、算数A及び中学校全教科）で、全国の平均無解答率を下回りました。（良好）**

小学校においては、2教科（国語A、算数A）で全国の平均無解答率を下回り、国語Aについては、これまでで最も改善が図られました。

中学校においては、4教科全てで全国の平均無解答率を下回り、これまでで最も改善が図られました。

		H19		H20		H21		H22 (抽出調査)		H24 (抽出調査)		H25		H26		H27		H28		H29	
		平均無解答率		平均無解答率		平均無解答率		平均無解答率		平均無解答率		平均無解答率		平均無解答率		平均無解答率		平均無解答率		平均無解答率	
		全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県
小学校	国語A	2.03	2.45	10.93	12.92	9.90	11.82	2.63	3.51	2.98	3.99	10.68	12.33	2.30	2.86	3.56	3.34	5.29	5.05	2.77	2.26
		<0.42>		<1.99>		<1.92>		<0.88>		<1.01>		<1.65>		<0.56>		<-0.22>*		<-0.24>*		◎<-0.51>*	
	国語B	8.67	11.21	12.30	15.18	12.10	16.03	4.22	5.93	6.61	9.14	13.59	16.84	9.20	11.40	6.09	6.11	4.62	4.38	4.31	4.32
		<2.54>		<2.88>		<3.93>		<1.71>		<2.53>		<3.25>		<2.20>		<0.02>		◎<-0.24>*		<0.01>	
	算数A	1.12	1.34	2.95	3.39	2.10	2.56	2.41	2.85	2.26	2.88	1.66	1.96	0.90	1.01	1.79	1.66	1.79	1.48	1.59	1.44
	<0.22>		<0.44>		<0.46>		<0.44>		<0.62>		<0.30>		<0.11>		<-0.13>*		◎<-0.31>*		<-0.15>*		
算数B	5.87	7.27	6.05	7.61	6.20	7.99	6.21	8.02	4.62	5.79	6.31	8.11	4.30	5.36	9.12	9.64	7.37	7.08	6.42	6.64	
	<1.40>		<1.56>		<1.79>		<1.81>		<1.17>		<1.80>		<1.06>		<0.52>		◎<-0.29>*		<0.22>		
理科									3.08	4.28					3.21	3.26					
									<1.20>						◎<-0.05>*						
中学校	国語A	3.52	3.29	3.77	3.57	3.30	3.27	2.70	2.60	3.53	3.98	2.41	2.54	3.10	3.24	2.57	2.40	2.05	1.92	2.43	2.01
		<-0.23>*		<-0.20>*		<-0.03>*		<-0.10>*		<0.45>		<0.13>		<0.14>		<-0.17>*		<-0.13>*		◎<-0.42>*	
	国語B	5.17	5.11	8.65	8.83	5.60	5.79	6.80	6.80	4.81	5.41	2.83	2.87	3.50	3.84	2.23	2.29	4.39	4.46	3.80	3.72
		<-0.06>*		<0.18>		<0.19>		<0.00>		<0.60>		<0.04>		<0.34>		<0.06>		<0.07>		◎<-0.08>*	
	数学A	4.05	3.68	6.64	6.15	5.10	4.79	6.27	5.90	2.65	2.96	5.31	5.46	4.30	4.32	3.72	3.24	6.30	5.62	6.25	5.39
	<-0.37>*		<-0.49>*		<-0.31>*		<-0.37>*		<0.31>		<0.15>		<0.02>		<-0.48>*		<-0.68>*		◎<-0.86>*		
数学B	14.44	13.98	13.45	12.75	9.70	9.74	19.30	19.50	13.08	13.95	16.71	18.09	10.90	11.41	15.34	14.85	14.69	13.95	11.71	10.95	
	<-0.46>*		<-0.70>*		<0.04>		<0.20>		<0.87>		<1.38>		<0.51>		<-0.49>*		<-0.74>*		◎<-0.76>*		
理科									9.39	9.85					6.98	6.70					
									<0.46>						◎<-0.28>*						

※< >内の数値は、（三重県の平均無解答率） - （全国の平均無解答率）の値を示し、

全国の平均無解答率との差において、

◎：10回の中で最も良かった値

\*：全国平均より良かった値

右下がりの矢印：昨年度から改善された場合

右上がりの矢印：昨年度から改善されていない場合

を示しています。

※平成23年度の調査は東日本大震災のため、実施されませんでした。

2 児童生徒・学校質問紙調査結果の概要

◆◆児童生徒質問紙調査結果の概要◆◆

(1) 生活習慣の状況

スマートフォン等の使用時間は、教科に関する調査の平均正答率と関連が見られます。本県では、スマートフォン等の使用時間について継続的に課題があるとして、県全体で「生活習慣・読書習慣チェックシート」の取組を進めてきました。今後、児童生徒の「自己管理能力」を育む観点からも、学校・家庭・地域が一体となった、生活習慣の改善に向けた取組が必要です。

※ ( ) 内の数値は全国との差を示す。

項目	結果															
・平日のテレビ・テレビゲーム等の使用（3時間以上） *「平日のテレビ等の視聴（3時間以上）」「平日のテレビゲーム等の使用（3時間以上）」の平均値 <b>【児童生徒質問紙】</b> ・テレビやゲームについてルールを家の人と決めている *H19年度の調査以来の復活項目 <b>【児童生徒質問紙】</b>	・3時間以上と回答 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童質問紙(小)</td> <td>28.6 (1.1)</td> <td>27.0 (0.4)</td> <td>24.6 (0.2)</td> <td>26.6 (1.4)</td> </tr> <tr> <td>生徒質問紙(中)</td> <td>29.6 (3.7)</td> <td>27.7 (2.2)</td> <td>23.4 (1.9)</td> <td>25.5 (2.1)</td> </tr> </tbody> </table> ・児童生徒の割合は継続的に改善が見られたが、本年度は改善が見られず、昨年度より全国との差が広がっている。(→P.33)		H26	H27	H28	H29	児童質問紙(小)	28.6 (1.1)	27.0 (0.4)	24.6 (0.2)	26.6 (1.4)	生徒質問紙(中)	29.6 (3.7)	27.7 (2.2)	23.4 (1.9)	25.5 (2.1)
		H26	H27	H28	H29											
児童質問紙(小)	28.6 (1.1)	27.0 (0.4)	24.6 (0.2)	26.6 (1.4)												
生徒質問紙(中)	29.6 (3.7)	27.7 (2.2)	23.4 (1.9)	25.5 (2.1)												
	・肯定的な回答 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H19*</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童質問紙(小)</td> <td>46.5 (-1.7)</td> <td>56.3 (-2.0)</td> </tr> <tr> <td>生徒質問紙(中)</td> <td>20.2 (-2.1)</td> <td>32.3 (-1.7)</td> </tr> </tbody> </table> ・児童生徒の割合は、H19年度より改善が見られるものの、全国平均を下回る状況が続いている。		H19*	H29	児童質問紙(小)	46.5 (-1.7)	56.3 (-2.0)	生徒質問紙(中)	20.2 (-2.1)	32.3 (-1.7)						
	H19*	H29														
児童質問紙(小)	46.5 (-1.7)	56.3 (-2.0)														
生徒質問紙(中)	20.2 (-2.1)	32.3 (-1.7)														
・平日のスマートフォン等の通話やメール、インターネットの使用（3時間以上） <b>【児童生徒質問紙】</b>	・3時間以上と回答 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童質問紙(小)</td> <td>5.6 (0.6)</td> <td>6.3 (0.6)</td> <td>5.9 (0.1)</td> <td>7.9 (0.9)</td> </tr> <tr> <td>生徒質問紙(中)</td> <td>24.5 (4.7)</td> <td>21.5 (3.3)</td> <td>18.6 (2.0)</td> <td>20.6 (2.5)</td> </tr> </tbody> </table> ・生徒の割合は、継続的に改善が見られたが、本年度は児童生徒ともに改善が見られず、昨年度より全国との差が広がっている。 (→P.33)		H26	H27	H28	H29	児童質問紙(小)	5.6 (0.6)	6.3 (0.6)	5.9 (0.1)	7.9 (0.9)	生徒質問紙(中)	24.5 (4.7)	21.5 (3.3)	18.6 (2.0)	20.6 (2.5)
		H26	H27	H28	H29											
児童質問紙(小)	5.6 (0.6)	6.3 (0.6)	5.9 (0.1)	7.9 (0.9)												
生徒質問紙(中)	24.5 (4.7)	21.5 (3.3)	18.6 (2.0)	20.6 (2.5)												
	<質問紙調査と教科に関する調査との関連> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="438 1668 906 1944"> <p><b>小学校</b></p> <p>Legend: 4時間以上, 3~4時間, 2~3時間, 1~2時間, 30分~1時間, 30分より少ない</p> </div> <div data-bbox="938 1668 1406 1944"> <p><b>中学校</b></p> <p>Legend: 4時間以上, 3~4時間, 2~3時間, 1~2時間, 30分~1時間, 30分より少ない</p> </div> </div> ・スマートフォン等の使用時間が短いほど、全教科で平均正答率が高い傾向にある。															

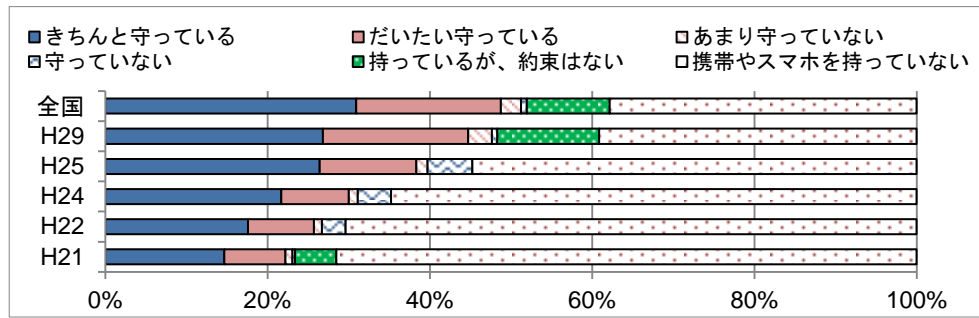
・携帯やスマートフォン等の使い方について、家の人と約束したことを守っている

\*H25年度の調査以来の復活項目

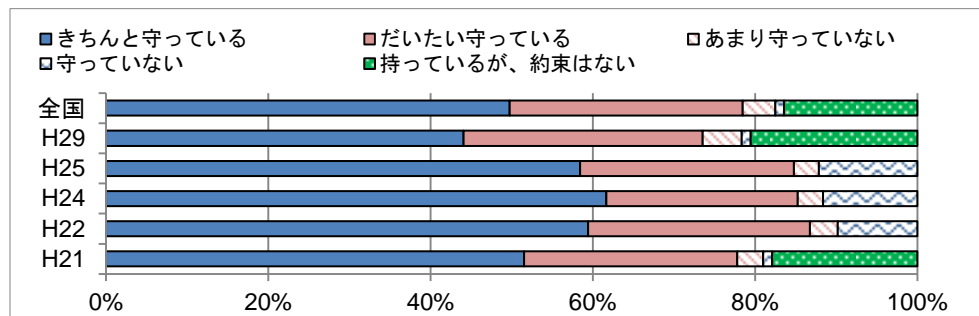
\*「持っているが、約束はない」はH21年度、H29年度のみ个回答項目

【児童生徒質問紙】

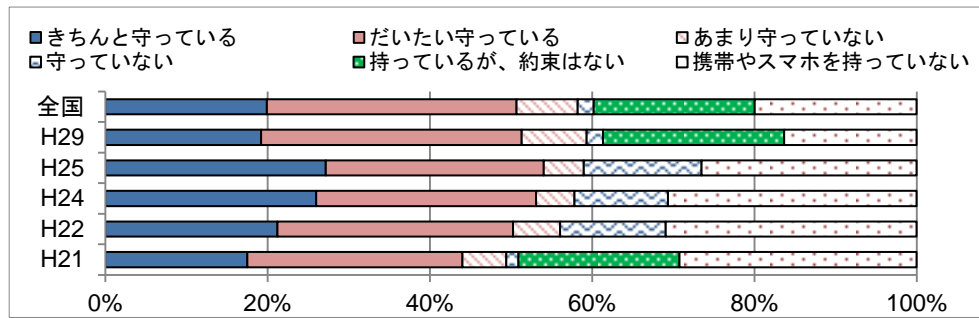
【小学校】



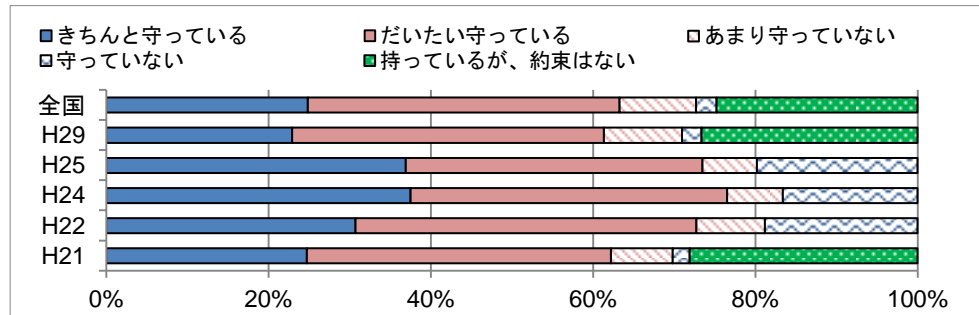
・携帯やスマートフォンを持っている児童の割合を100%とした回答



【中学校】



・携帯やスマートフォンを持っている生徒の割合を100%とした回答



- ・「きちんと守っている」と回答した児童生徒の割合は、H25年度と比較すると、大幅に減少している。
- ・「持っているが、約束はない」と回答した児童の割合は、H21年度と比較すると増加しているが、生徒の割合は減少している。

(2) 自尊感情・自己肯定感

「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する」「自分には、よいところがある」と肯定的に回答している児童生徒の割合が増えており、多くの大人が関わり励ますことで、児童生徒の自尊感情は高まっています。

学校の取組、適切な評価が児童生徒の自尊感情・自己肯定感を高め、達成感ややる気を育てていきます。今後も、児童生徒のやる気やがんばりに応えていく必要があります。

※[ ]内の数値は全国の数値を示す。

項目	結果				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある</li> <li>・難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する</li> <li>・自分には、よいところがある</li> </ul> <b>【児童生徒質問紙】</b>	・肯定的な回答				
		H26	H27	H28	H29
	児童質問紙(小)	94.6 (0.2)	94.5 (0.0)	94.9 (0.5)	95.1 (0.3)
	生徒質問紙(中)	94.6 (0.7)	95.1 (0.9)	95.0 (0.7)	95.5 (0.8)
	・肯定的な回答				
		H26	H27	H28	H29
	児童質問紙(小)	75.4 (0.3)	76.6 (0.2)	77.6 (1.5)	78.1 (0.7)
	生徒質問紙(中)	69.5 (1.5)	69.7 (0.9)	70.8 (1.2)	73.2 (2.2)
	・肯定的な回答				
		H26	H27	H28	H29
	児童質問紙(小)	75.7 (-0.4)	75.1 (-1.3)	75.5 (-0.8)	77.4 (-0.5)
	生徒質問紙(中)	69.1 ( 2.0)	69.4 ( 1.3)	71.3 ( 2.0)	73.2 ( 2.5)
・児童生徒の割合は、継続的に改善が見られ、全国平均を上回っている。(→P. 32)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生はよいところを認めてくれる</li> </ul> <small>*H27年度は同様の質問項目がありません</small> <b>【児童生徒質問紙】</b>	・<小学校>肯定的な回答及び乖離				
		H26	H27*	H28	H29
	児童質問紙	80.1 (0.4)	—	83.8 (1.2)	87.2 (1.2)
	学校質問紙	97.1 (0.2)	97.6 (0.9)	99.4 (1.0)	98.1 (0.7)
	乖離	-17.0 [-17.2]	—	-15.6 [-15.8]	-10.9 [-11.4]
	・<中学校>肯定的な回答及び乖離				
		H26	H27*	H28	H29
	生徒質問紙	74.0 (-0.1)	—	79.6 (1.6)	82.2 (1.8)
	学校質問紙	96.9 ( 0.4)	99.4 (3.6)	98.8 (1.6)	96.8 (1.3)
	乖離	-22.9[-22.4]	—	-19.2[-19.2]	-14.6[-15.1]
	・児童生徒の割合は、継続的に改善が見られ、全国平均も上回る状況が続いている。				
	・小中学校ともに、児童生徒と学校との回答の乖離が縮まってきている。				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる</li> </ul> <b>【児童生徒質問紙】</b>	・肯定的な回答				
		H28	H29		
	児童質問紙(小)	87.8 (3.0)	87.7 (2.6)		
	生徒質問紙(中)	77.4 (3.3)	79.3 (3.8)		
	・生徒の割合は、昨年度より大きく改善している。				

<p>・学校に行くのが楽しい 【児童生徒質問紙】</p>	<p>・肯定的な回答</p> <table border="1" data-bbox="450 212 1437 338"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童質問紙(小)</td> <td>86.6 (0.0)</td> <td>86.9 (-0.1)</td> <td>86.9 (0.6)</td> <td>87.1 (0.8)</td> </tr> <tr> <td>生徒質問紙(中)</td> <td>84.8 (2.4)</td> <td>83.9 (1.8)</td> <td>84.0 (2.6)</td> <td>82.9 (2.0)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童の割合は、継続的に改善が見られるが、生徒の割合は減少している。 ・児童生徒の割合は、ほとんどの年度で全国平均を上回っている。</p>		H26	H27	H28	H29	児童質問紙(小)	86.6 (0.0)	86.9 (-0.1)	86.9 (0.6)	87.1 (0.8)	生徒質問紙(中)	84.8 (2.4)	83.9 (1.8)	84.0 (2.6)	82.9 (2.0)																									
	H26	H27	H28	H29																																					
児童質問紙(小)	86.6 (0.0)	86.9 (-0.1)	86.9 (0.6)	87.1 (0.8)																																					
生徒質問紙(中)	84.8 (2.4)	83.9 (1.8)	84.0 (2.6)	82.9 (2.0)																																					
<p>・将来の夢や目標を持っている 【児童生徒質問紙】 ・将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導 【学校質問紙】</p>	<p>・肯定的な回答</p> <table border="1" data-bbox="450 497 1437 667"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童質問紙</td> <td>85.8 (-0.9)</td> <td>85.3 (-1.2)</td> <td>83.7 (-1.6)</td> <td>84.4 (-1.5)</td> </tr> <tr> <td>学校質問紙</td> <td>65.3 (-6.7)</td> <td>68.4 (-4.0)</td> <td>77.7 (3.1)</td> <td>73.6 (-2.1)</td> </tr> <tr> <td>乖離</td> <td>20.5 [14.7]</td> <td>16.9 [14.1]</td> <td>6.0 [10.7]</td> <td>10.8 [10.2]</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="450 678 1437 848"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒質問紙</td> <td>71.6 (0.2)</td> <td>71.7 (0.0)</td> <td>71.0 (-0.1)</td> <td>71.2 (0.7)</td> </tr> <tr> <td>学校質問紙</td> <td>90.8 (-3.4)</td> <td>98.2 (1.8)</td> <td>97.5 (0.4)</td> <td>98.8 (1.3)</td> </tr> <tr> <td>乖離</td> <td>-19.2 [-22.8]</td> <td>-26.5 [-24.7]</td> <td>-26.5 [-26.0]</td> <td>-27.6 [-27.0]</td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童の割合は、H26年度より減少傾向にあったが、本年度は改善が見られる。 ・小学校の割合は、継続的に改善が見られたが、本年度は減少している。 ・生徒の割合は、H28年度に全国平均を下回ったが、本年度は改善が見られる。 ・中学校の割合は、H27年度より全国平均を上回り改善が見られるが、生徒との乖離が広がっている (→P. 42)</p>		H26	H27	H28	H29	児童質問紙	85.8 (-0.9)	85.3 (-1.2)	83.7 (-1.6)	84.4 (-1.5)	学校質問紙	65.3 (-6.7)	68.4 (-4.0)	77.7 (3.1)	73.6 (-2.1)	乖離	20.5 [14.7]	16.9 [14.1]	6.0 [10.7]	10.8 [10.2]		H26	H27	H28	H29	生徒質問紙	71.6 (0.2)	71.7 (0.0)	71.0 (-0.1)	71.2 (0.7)	学校質問紙	90.8 (-3.4)	98.2 (1.8)	97.5 (0.4)	98.8 (1.3)	乖離	-19.2 [-22.8]	-26.5 [-24.7]	-26.5 [-26.0]	-27.6 [-27.0]
	H26	H27	H28	H29																																					
児童質問紙	85.8 (-0.9)	85.3 (-1.2)	83.7 (-1.6)	84.4 (-1.5)																																					
学校質問紙	65.3 (-6.7)	68.4 (-4.0)	77.7 (3.1)	73.6 (-2.1)																																					
乖離	20.5 [14.7]	16.9 [14.1]	6.0 [10.7]	10.8 [10.2]																																					
	H26	H27	H28	H29																																					
生徒質問紙	71.6 (0.2)	71.7 (0.0)	71.0 (-0.1)	71.2 (0.7)																																					
学校質問紙	90.8 (-3.4)	98.2 (1.8)	97.5 (0.4)	98.8 (1.3)																																					
乖離	-19.2 [-22.8]	-26.5 [-24.7]	-26.5 [-26.0]	-27.6 [-27.0]																																					
<p>・家の人と将来のことについて話をする 【児童生徒質問紙】</p>	<p>・肯定的な回答</p> <table border="1" data-bbox="450 1124 884 1249"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童質問紙(小)</td> <td>48.3 (-2.1)</td> </tr> <tr> <td>生徒質問紙(中)</td> <td>61.8 (1.1)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童の割合は、全国平均を下回っている。 ・生徒の割合は、全国平均を上回っている。</p>		H29	児童質問紙(小)	48.3 (-2.1)	生徒質問紙(中)	61.8 (1.1)																																		
	H29																																								
児童質問紙(小)	48.3 (-2.1)																																								
生徒質問紙(中)	61.8 (1.1)																																								

## (3) 学習習慣

家での学習習慣（学習時間、復習等）については、引き続き課題が見られます。特に、休日の学習時間は継続的に全国平均を大きく下回る状況が続いています。児童生徒一人ひとりの学習内容の確かな理解と定着のために、家庭学習、補充学習を効果的に進めることが重要です。家庭学習を促すための取組を充実させ、家庭と協力して進めていきましょう。

項目	結果					
・ 平日の学習時間 （1時間以上）	・ 1時間以上と回答					
		H26	H27	H28	H29	
	児童質問紙(小)	59.4 (-2.6)	58.4 (-4.3)	60.4 (-2.1)	61.6 (-2.8)	
	生徒質問紙(中)	64.4 (-3.5)	66.5 (-2.5)	65.2 (-2.7)	66.5 (-3.1)	
	・ 休日の学習時間 （1時間以上） <b>【児童生徒質問紙】</b>	・ 1時間以上と回答				
			H26	H27	H28	H29
児童質問紙(小)		46.9 (-9.0)	45.8 (-10.9)	49.0 (-8.0)	47.9 (-9.4)	
生徒質問紙(中)		57.4(-10.0)	59.9 (-8.8)	59.8 (-8.0)	62.0 (-7.4)	
・ 家庭学習の時間が1時間以上と回答した児童生徒の割合は、平日、休日のどちらも全国平均を大きく下回っている。特に、休日の学習時間は継続的に7～10ポイント程度、全国平均を下回っている。(→P.34)						
・ 保護者に対して家庭学習を促すような働きかけ <b>【学校質問紙】</b>		・ 肯定的な回答				
		H26	H27	H28	H29	
	学校質問紙(小)	90.9 (-5.0)	95.5 (-1.0)	96.8 (-0.5)	96.9 (-0.1)	
	学校質問紙(中)	81.5 (-3.9)	80.7 (-3.2)	87.4 (-0.1)	90.4 (2.8)	
	・ 小中学校の割合は、継続的に改善が見られ、全国との差も縮まっている。なお、「よく行った」と回答した小学校の割合は、これまで改善傾向にあったが本年度は減少した。(H28→H29：小57.8%→53.4%、中35.2%→38.2%)					
	・ 計画的な学習 <b>【児童生徒質問紙】</b>  ・ 復習 <b>【児童生徒質問紙】</b>	・ 肯定的な回答				
		H26	H27	H28	H29	
児童質問紙(小)		59.4 (-1.6)	60.5 (-2.3)	61.7 (-0.5)	62.8 (-1.7)	
生徒質問紙(中)		47.3 (0.7)	51.0 (2.2)	50.3 (1.9)	54.3 (2.8)	
・ 肯定的な回答						
		H26	H27	H28	H29	
児童質問紙(小)		48.7 (-5.3)	50.1 (-4.4)	54.2 (-1.0)	51.1 (-2.7)	
生徒質問紙(中)		45.5 (-4.9)	48.9 (-3.1)	48.5 (-2.5)	48.6 (-1.9)	
・ 計画的な学習をしている児童の割合は、継続的に改善が見られ、生徒の割合は、昨年度より改善が見られる。 ・ 復習をしている児童生徒の割合は、継続的に全国平均を下回っている。 (→P.35)						



(4) 地域との関わり

児童生徒の地域行事への参加は、全国と比較して引き続き高い傾向にありますが、地域社会でのボランティア活動への参加は全国と比較しても低い状況が続いています。児童生徒は大人の姿を見て育ちます。多くの大人が主体的、積極的に学校や地域へ関わっていくことが重要です。

項目	結果				
・地域行事への参加 <b>【児童生徒質問紙】</b>	・肯定的な回答				
		H26	H27	H28	H29
	児童質問紙(小)	73.2 (5.2)	72.0 (5.1)	73.1 (5.2)	68.3 (5.7)
	生徒質問紙(中)	50.4 (6.9)	50.7 (5.9)	50.9 (5.7)	47.2 (5.1)
・全国平均を上回っている状況が続いているが、本県の割合は、児童では7割、生徒では5割を超えていた状況が、本年度初めて下回る状況に転じている。					
・児童生徒の地域社会などでボランティア活動に参加 <b>【児童生徒質問紙】</b>	・肯定的な回答				
		H26	H27	H28	H29
	児童質問紙(小)	—	—	30.8 (-5.4)	30.3 (-5.1)
	生徒質問紙(中)	—	—	45.7 (-3.0)	46.3 (-3.4)
・児童の割合は、改善が見られず、全国との差が大きい。 ・生徒の割合は、昨年度より改善が見られるが、全国との差は広がっている。					
・PTAや地域の人 が学校の諸活動に ボランティアとして 参加 <b>【学校質問紙】</b>	・肯定的な回答				
		H26	H27	H28	H29
	学校質問紙(小)	95.2 (-1.8)	97.1 (0.0)	97.6 (-0.1)	98.3 (-0.3)
	学校質問紙(中)	92.6 (-2.0)	95.1 (0.0)	93.7 (-1.9)	97.4 (-0.1)
・PTAや地域の人などが学校の諸活動へボランティアとして参加している割合は、継続的に改善が見られるが、全国平均をやや下回っている。					
・地域や社会をよく するために何をす べきかを考える・ 考えさせる指導 <b>【児童生徒・学校質問紙】</b> * H28年度は児童生徒 質問紙項目にありま せん **学校質問紙新規項目	・<小学校>肯定的な回答				
		H26	H27	H28*	H29
	児童質問紙	40.1 (-2.4)	41.3 (-3.5)	—	40.1 (-2.2)
	学校質問紙**	—	—	—	81.2 ( 5.6)
	乖離	—	—	—	-41.1 [-33.3]
	・<中学校>肯定的な回答				
		H26	H27	H28*	H29
	生徒質問紙	30.0 (-1.2)	30.0 (-2.9)	—	31.6 (-1.8)
	学校質問紙**	—	—	—	75.8 ( 7.8)
	乖離	—	—	—	-44.2 [-34.6]
	・児童の割合は、改善が見られない。 ・生徒の割合は、H27年度から改善が見られる。 ・児童生徒と学校との乖離が大きく、全国との差も大きい。(→P.42)				

## ◆◆学校質問紙調査結果の概要◆◆

## (1) 学校での組織的な取組

目標（めあて・ねらい）の提示及び振り返る活動は継続的に改善が見られます。主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の項目に関しては、昨年度まで継続的に改善が見られたものの、本年度下降した項目があります。校長のリーダーシップのもと組織的な取組を進めていくことが大切です。

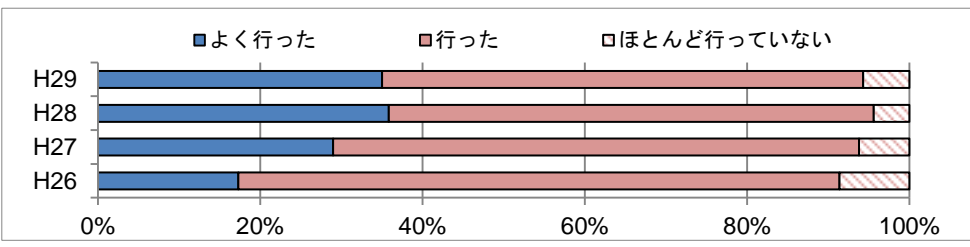
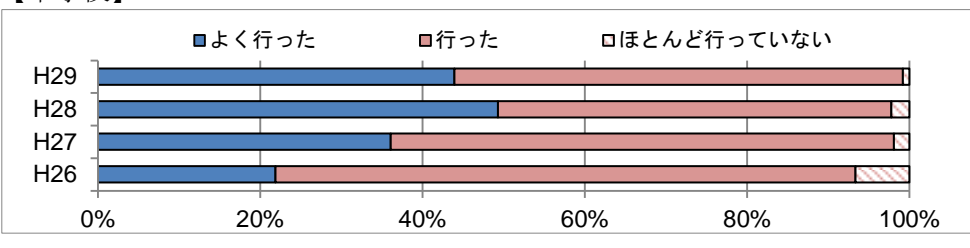
項目	結果					
・授業の目標（めあて・ねらい）の提示 【児童生徒・学校質問紙】	・肯定的な回答及び乖離					
		H26	H27	H28	H29	
	児童質問紙	75.7 (-6.3)	83.0 (-3.3)	88.8 (1.2)	89.4 (1.2)	
	学校質問紙	91.3 (-5.6)	97.8 (-0.3)	98.7 (-0.1)	98.8 (-0.2)	
	乖離	-15.6 [-14.9]	-14.8[-11.8]	-9.9 [-11.2]	-9.4 [-10.8]	
		H26	H27	H28	H29	
	生徒質問紙	62.1 (-9.4)	75.5 (-4.2)	85.5 (0.6)	90.2 (2.4)	
	学校質問紙	88.3 (-5.7)	87.6 (-8.1)	100.0 (2.2)	98.8 (0.5)	
	乖離	-26.2 [-22.5]	-12.1[-16.0]	-14.5[-12.9]	-8.6 [-10.5]	
	・授業の振り返る活動の設定 【児童生徒・学校質問紙】	・肯定的な回答及び乖離				
			H26	H27	H28	H29
		児童質問紙	67.1 (-4.8)	71.4 (-3.9)	76.9 (0.8)	78.8 (2.6)
		学校質問紙	76.3 (-15.3)	89.9 (-4.0)	93.0 (-1.9)	95.3 (-0.1)
		乖離	-9.2 [-19.7]	-18.5[-18.6]	-16.1[-18.8]	-16.5[-19.2]
		H26	H27	H28	H29	
生徒質問紙		51.4 (-1.9)	58.3 (-1.0)	68.8 (5.7)	72.1 (6.0)	
学校質問紙		84.5 (-4.7)	87.5 (-3.4)	96.2 (3.2)	96.8 (2.5)	
乖離		-33.1[-35.9]	-29.2[-31.6]	-27.4[-29.9]	-24.7[-28.2]	
・目標（めあて・ねらい）の提示及び振り返る活動に対する児童生徒の割合は、継続的に改善が見られる。（→P.39） ・小中学校の目標（めあて・ねらい）の提示及び中学校の振り返る活動の乖離は、昨年度より縮まっているが、小学校の振り返る活動の乖離は、昨年度より広がっている。						
・学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動の取組 【児童生徒・学校質問紙】		・＜小学校＞肯定的な回答				
			H27	H28	H29	
		児童質問紙	71.0 (-3.2)	75.0 (-0.7)	72.8 (-2.3)	
		学校質問紙	67.1 (-5.9)	77.4 (-2.7)	75.6 (-6.7)	
	乖離	3.9 [1.2]	-2.4 [-4.4]	-2.8 [-7.2]		
	・＜中学校＞肯定的な回答					
		H27	H28	H29		
	生徒質問紙	69.9 (4.2)	73.1 (3.8)	74.1 (2.8)		
	学校質問紙	59.7 (-3.6)	68.6 (-2.7)	75.1 (0.0)		
	乖離	10.2 [2.4]	4.5 [-3.3]	-1.0 [-3.8]		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の割合は、継続的に改善が見られたが、本年度は減少し、全国との差も広がっている。(→P. 38)</li> <li>・中学校の割合は、継続的に改善が見られ、全国との差や生徒との乖離も縮まっている。(→P. 38)</li> </ul>																																																							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な考えを引き出したり、思考を深めたりする学習活動への取組 【学校質問紙】</li> <li>・児童生徒は学級やグループでの話し合うなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う 【児童生徒・学校質問紙】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的な回答</li> </ul> <table border="1" data-bbox="448 416 1437 539"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校質問紙(小)</td> <td>93.4 (-0.5)</td> <td>95.2 (0.9)</td> <td>97.1 (2.3)</td> <td>97.2 (1.7)</td> </tr> <tr> <td>学校質問紙(中)</td> <td>90.1 (-1.0)</td> <td>91.9 (-0.2)</td> <td>94.4 (0.9)</td> <td>94.3 (0.4)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校の割合は、継続的に改善が見られ、小学校はH27年度から、中学校はH28年度から全国平均を上回っている。(→P. 37)</li> <li>・&lt;小学校&gt;肯定的な回答</li> </ul> <table border="1" data-bbox="448 685 1423 853"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童質問紙</td> <td>63.8 (-2.1)</td> <td>65.3 (-1.6)</td> <td>67.5 (-0.8)</td> <td>67.3 (-0.9)</td> </tr> <tr> <td>学校質問紙</td> <td>54.1 (-9.7)</td> <td>67.7 (1.6)</td> <td>71.8 (2.6)</td> <td>69.1 (-2.6)</td> </tr> <tr> <td>乖離</td> <td>9.7 [2.1]</td> <td>-2.4 [0.8]</td> <td>-4.3 [-0.9]</td> <td>-1.8 [-3.5]</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・&lt;中学校&gt;肯定的な回答</li> </ul> <table border="1" data-bbox="448 898 1423 1066"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒質問紙</td> <td>61.9 (0.0)</td> <td>62.6 (-0.3)</td> <td>64.8 (0.0)</td> <td>64.5 (-0.3)</td> </tr> <tr> <td>学校質問紙</td> <td>54.3 (-9.5)</td> <td>65.9 (-1.4)</td> <td>78.0 (7.5)</td> <td>72.7 (-0.2)</td> </tr> <tr> <td>乖離</td> <td>7.6 [-1.9]</td> <td>-3.3 [-4.4]</td> <td>-12.8 [-5.7]</td> <td>-8.2 [-8.1]</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒と小中学校の割合は、継続的に改善が見られたが、本年度は減少している。</li> <li>・小中学校ともに、昨年度より児童生徒との乖離が縮まっている。(→P. 37)</li> </ul>		H26	H27	H28	H29	学校質問紙(小)	93.4 (-0.5)	95.2 (0.9)	97.1 (2.3)	97.2 (1.7)	学校質問紙(中)	90.1 (-1.0)	91.9 (-0.2)	94.4 (0.9)	94.3 (0.4)		H26	H27	H28	H29	児童質問紙	63.8 (-2.1)	65.3 (-1.6)	67.5 (-0.8)	67.3 (-0.9)	学校質問紙	54.1 (-9.7)	67.7 (1.6)	71.8 (2.6)	69.1 (-2.6)	乖離	9.7 [2.1]	-2.4 [0.8]	-4.3 [-0.9]	-1.8 [-3.5]		H26	H27	H28	H29	生徒質問紙	61.9 (0.0)	62.6 (-0.3)	64.8 (0.0)	64.5 (-0.3)	学校質問紙	54.3 (-9.5)	65.9 (-1.4)	78.0 (7.5)	72.7 (-0.2)	乖離	7.6 [-1.9]	-3.3 [-4.4]	-12.8 [-5.7]	-8.2 [-8.1]
	H26	H27	H28	H29																																																				
学校質問紙(小)	93.4 (-0.5)	95.2 (0.9)	97.1 (2.3)	97.2 (1.7)																																																				
学校質問紙(中)	90.1 (-1.0)	91.9 (-0.2)	94.4 (0.9)	94.3 (0.4)																																																				
	H26	H27	H28	H29																																																				
児童質問紙	63.8 (-2.1)	65.3 (-1.6)	67.5 (-0.8)	67.3 (-0.9)																																																				
学校質問紙	54.1 (-9.7)	67.7 (1.6)	71.8 (2.6)	69.1 (-2.6)																																																				
乖離	9.7 [2.1]	-2.4 [0.8]	-4.3 [-0.9]	-1.8 [-3.5]																																																				
	H26	H27	H28	H29																																																				
生徒質問紙	61.9 (0.0)	62.6 (-0.3)	64.8 (0.0)	64.5 (-0.3)																																																				
学校質問紙	54.3 (-9.5)	65.9 (-1.4)	78.0 (7.5)	72.7 (-0.2)																																																				
乖離	7.6 [-1.9]	-3.3 [-4.4]	-12.8 [-5.7]	-8.2 [-8.1]																																																				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していると思う 【児童生徒・学校質問紙】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・&lt;小学校&gt;肯定的な回答</li> </ul> <table border="1" data-bbox="448 1256 991 1424"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童質問紙</td> <td>63.3 (-0.9)</td> <td>63.6 (-1.3)</td> </tr> <tr> <td>学校質問紙</td> <td>60.0 (-1.2)</td> <td>61.8 (-1.2)</td> </tr> <tr> <td>乖離</td> <td>3.3 [3.0]</td> <td>1.8 [1.9]</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・&lt;中学校&gt;肯定的な回答</li> </ul> <table border="1" data-bbox="448 1469 991 1637"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒質問紙</td> <td>58.0 (0.3)</td> <td>56.9 (-1.0)</td> </tr> <tr> <td>学校質問紙</td> <td>57.2 (-2.5)</td> <td>61.8 (0.6)</td> </tr> <tr> <td>乖離</td> <td>0.8 [-4.5]</td> <td>-4.9 [-3.3]</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校は、児童と学校の意識の乖離は昨年度より縮まっている。</li> <li>・中学校は、生徒と学校の意識の乖離は昨年度より広がっている。</li> </ul>		H28	H29	児童質問紙	63.3 (-0.9)	63.6 (-1.3)	学校質問紙	60.0 (-1.2)	61.8 (-1.2)	乖離	3.3 [3.0]	1.8 [1.9]		H28	H29	生徒質問紙	58.0 (0.3)	56.9 (-1.0)	学校質問紙	57.2 (-2.5)	61.8 (0.6)	乖離	0.8 [-4.5]	-4.9 [-3.3]																															
	H28	H29																																																						
児童質問紙	63.3 (-0.9)	63.6 (-1.3)																																																						
学校質問紙	60.0 (-1.2)	61.8 (-1.2)																																																						
乖離	3.3 [3.0]	1.8 [1.9]																																																						
	H28	H29																																																						
生徒質問紙	58.0 (0.3)	56.9 (-1.0)																																																						
学校質問紙	57.2 (-2.5)	61.8 (0.6)																																																						
乖離	0.8 [-4.5]	-4.9 [-3.3]																																																						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・校長の授業の見回り(週に2回以上) 【学校質問紙】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週に2回以上と回答</li> </ul> <table border="1" data-bbox="448 1709 1437 1832"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校質問紙(小)</td> <td>84.5 (-7.1)</td> <td>95.4 (2.3)</td> <td>98.2 (4.0)</td> <td>96.6 (2.1)</td> </tr> <tr> <td>学校質問紙(中)</td> <td>69.2 (-10.1)</td> <td>81.4 (0.0)</td> <td>88.1 (5.5)</td> <td>88.5 (5.0)</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の割合は、継続的に改善が見られたが、本年度は減少している。</li> <li>・中学校の割合は、継続的に改善が見られ、全国平均を上回っている。</li> </ul>		H26	H27	H28	H29	学校質問紙(小)	84.5 (-7.1)	95.4 (2.3)	98.2 (4.0)	96.6 (2.1)	学校質問紙(中)	69.2 (-10.1)	81.4 (0.0)	88.1 (5.5)	88.5 (5.0)																																								
	H26	H27	H28	H29																																																				
学校質問紙(小)	84.5 (-7.1)	95.4 (2.3)	98.2 (4.0)	96.6 (2.1)																																																				
学校質問紙(中)	69.2 (-10.1)	81.4 (0.0)	88.1 (5.5)	88.5 (5.0)																																																				

(2) 全国学力・学習状況調査等を活用した取組

全ての項目で肯定的な回答が9割以上です。しかしながら、「よく行った」と回答した割合は昨年度より減少しています。成果や課題を学校全体で共有し、授業改善を進めていく必要があります。

項目	結果				
・全国学調の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有した 【学校質問紙】	・ 肯定的な回答				
		H26	H27	H28	H29
	学校質問紙(小)	97.1 ( 0.0)	99.2 (1.1)	99.5 (0.8)	99.4 (1.1)
	学校質問紙(中)	94.5 (-0.8)	98.7 (1.8)	98.7 (1.3)	98.8 (1.5)
	【小学校】				
	【中学校】				
	・ 小学校の肯定的な回答及び「よく行った」と回答した割合は、継続的に改善が見られたが、本年度はともに減少している。 ・ 中学校の肯定的な回答及び「よく行った」と回答した割合は、継続的に改善が見られたが、「よく行った」と回答した割合は、本年度減少し、全国平均を下回っている。				

<p>・全国学調の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用 【学校質問紙】</p>	<p>・肯定的な回答</p> <table border="1" data-bbox="454 219 1436 347"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校質問紙(小)</td> <td>92.9 (-0.7)</td> <td>98.1 (2.3)</td> <td>97.6 (0.6)</td> <td>98.9 (2.3)</td> </tr> <tr> <td>学校質問紙(中)</td> <td>91.4 (1.0)</td> <td>94.4 (1.2)</td> <td>95.5 (0.7)</td> <td>94.2 (-0.2)</td> </tr> </tbody> </table> <p>【小学校】</p>  <p>【中学校】</p>  <p>・小学校の割合は、昨年度より改善が見られ、全国との差も広がっている。 ・中学校の割合は、継続的に改善が見られたが、本年度は減少し、全国平均を下回っている。</p>		H26	H27	H28	H29	学校質問紙(小)	92.9 (-0.7)	98.1 (2.3)	97.6 (0.6)	98.9 (2.3)	学校質問紙(中)	91.4 (1.0)	94.4 (1.2)	95.5 (0.7)	94.2 (-0.2)
	H26	H27	H28	H29												
学校質問紙(小)	92.9 (-0.7)	98.1 (2.3)	97.6 (0.6)	98.9 (2.3)												
学校質問紙(中)	91.4 (1.0)	94.4 (1.2)	95.5 (0.7)	94.2 (-0.2)												
<p>・全国学調や学校評価の自校の結果を踏まえた学力向上の取組について、保護者や地域への働きかけ 【学校質問紙】</p>	<p>・肯定的な回答</p> <table border="1" data-bbox="454 1137 1436 1265"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校質問紙(小)</td> <td>80.8 (-4.2)</td> <td>91.9 (4.5)</td> <td>95.5 (5.3)</td> <td>96.1 (6.2)</td> </tr> <tr> <td>学校質問紙(中)</td> <td>71.0 (-6.2)</td> <td>80.7 (0.2)</td> <td>85.6 (1.8)</td> <td>91.1 (7.7)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・小中学校の割合は、継続的に改善が見られ、本年度は全国平均を大きく上回っている。</p>		H26	H27	H28	H29	学校質問紙(小)	80.8 (-4.2)	91.9 (4.5)	95.5 (5.3)	96.1 (6.2)	学校質問紙(中)	71.0 (-6.2)	80.7 (0.2)	85.6 (1.8)	91.1 (7.7)
	H26	H27	H28	H29												
学校質問紙(小)	80.8 (-4.2)	91.9 (4.5)	95.5 (5.3)	96.1 (6.2)												
学校質問紙(中)	71.0 (-6.2)	80.7 (0.2)	85.6 (1.8)	91.1 (7.7)												
<p>・全国学調の結果と地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育活動の改善や指導計画等への反映 【学校質問紙】</p>	<p>・肯定的な回答</p> <table border="1" data-bbox="454 1473 1436 1601"> <thead> <tr> <th></th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校質問紙(小)</td> <td>75.5(-13.4)</td> <td>95.2 (3.3)</td> <td>98.1 (4.9)</td> <td>97.2 (3.7)</td> </tr> <tr> <td>学校質問紙(中)</td> <td>72.8(-11.7)</td> <td>85.7 (-2.2)</td> <td>94.4 (4.4)</td> <td>95.6 (5.5)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・小学校の割合は、継続的に改善が見られたが、本年度は下降に転じている。 ・中学校の割合は、継続的に改善が見られ、H28年度から全国平均を上回っている。</p>		H26	H27	H28	H29	学校質問紙(小)	75.5(-13.4)	95.2 (3.3)	98.1 (4.9)	97.2 (3.7)	学校質問紙(中)	72.8(-11.7)	85.7 (-2.2)	94.4 (4.4)	95.6 (5.5)
	H26	H27	H28	H29												
学校質問紙(小)	75.5(-13.4)	95.2 (3.3)	98.1 (4.9)	97.2 (3.7)												
学校質問紙(中)	72.8(-11.7)	85.7 (-2.2)	94.4 (4.4)	95.6 (5.5)												
<p>・全国学調の自校採点の実施</p>	<p>[参考]実施状況 (集計支援ツール提出・授業改善サイクル支援ネット入力校)</p> <p>小 H27:約 37%→H28:約 54%→H29:約 66%</p> <p>中 H27:約 33%→H28:約 40%→H29:約 45%</p>															

(3) 実践推進校の状況

項目	結果
・H28年度実践推進校101校 (小81校、中20校)	・習熟度別少人数指導(中学校数学)については、数学A・Bとも全国の平均正答率との差が昨年度と比べて、非実践推進校を上回った。 [実践推進校数学A:+1.6、B:+1.3] [非実践推進校数学A:0.4、B:-0.1] ・ティーム・ティーチング(小学校国語)については、国語Aで全国の平均正答率との差が昨年度と比べて、非実践推進校を上回った。 [実践推進校国語A:+0.8、B:-0.1] [非実践推進校国語A:0.0、B:-0.6] ・ただし、ティーム・ティーチング(小学校算数)については、算数A・Bとも全国の平均正答率との差が昨年度と比べて、非実践推進校を下回った。 [実践推進校算数A:-2.8、B:-1.7] [非実践推進校算数A:-1.6、B:-1.1] *数値は、H28年度からH29年度における全国の平均正答率との差の変化を示す。

(4) コミュニティ・スクール、学校支援地域本部

項目	結果								
	小学校				中学校				
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B	
・コミュニティ・スクールの設置校の全国の平均正答率との差	H27→H28	×	○	○	◎	△	△	◎	◎
	H28→H29	◎	×	△	×	◎	◎	◎	◎
	H21→H29	○	◎	○	○	◎	◎	◎	△
	・設置校の平均正答率は、*H21年度と比較し、ほとんどの教科で全国との差が改善されている。また、中学校の設置校は、非設置校よりも全ての教科で改善幅が大きい。								
・学校支援地域本部の実施校(学校支援地域本部設置校のうち学習支援を35日(週1回程度)以上実施している学校)の全国の平均正答率との差	H27→H28	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×
	H28→H29	×	×	×	×	◎	◎	◎	◎
	H21→H29	◎	◎	○	×	◎	◎	◎	◎
	・実施校の平均正答率は、*H21年度と比較し、ほとんどの教科で全国との差が改善されている。また、中学校の実施校は、非実施校よりも全ての教科で改善幅が大きい。								

\*H21年度:「みえの学力向上県民運動」開始(H24年度)以前の直近の悉皆調査の年度

- ◎…全国と設置校(実施校)との差が改善されており、非設置校(非実施校)よりも改善幅が大きい。
- …全国と設置校(実施校)との差が改善されているが、非設置校(非実施校)よりは改善幅が小さい。
- △…全国と設置校(実施校)との差が改善されていないが、非設置校(非実施校)よりは改善幅が大きい。
- ×…全国と設置校(実施校)との差が改善されておらず、非設置校(非実施校)よりも改善幅が小さい。

◆◆平均正答率・平均無解答率◆◆

平均正答率・平均無解答率ともに、全教科で全国との差において改善が見られます。

【平均正答率】

	平成26年度 小6		伸び	平成29年度 中3		
	全国	三重県		全国	三重県	
小国A	72.9	69.6	<-3.3>	→ +2.8	77.4	中国A
					<-0.5>	
小国B	55.5	52.5	<-3.0>	→ +1.5	72.2	中国B
					<-1.5>	
小算A	78.1	76.2	<-1.9>	→ +2.6	64.6	中数A
					<+0.7>	
小算B	58.2	56.0	<-2.2>	→ +1.4	48.1	中数B
					<-0.8>	

※<>内の数値は全国の平均正答率との差を示す。

【平均無解答率】

	平成26年度 小6		伸び	平成29年度 中3		
	全国	三重県		全国	三重県	
小国A	2.30	2.86	<+0.56>	→ -0.98	2.43	中国A
					<-0.42>	
小国B	9.20	11.40	<+2.20>	→ -2.28	3.80	中国B
					<-0.08>	
小算A	0.90	1.01	<+0.11>	→ -0.97	6.25	中数A
					<-0.86>	
小算B	4.30	5.36	<+1.06>	→ -1.82	11.71	中数B
					<-0.76>	

※<>内の数値は全国の平均無解答率との差を示す。

平成26年度の小学校調査の結果と平成29年度の中学校調査の結果を比較しました。平均正答率について全国との差を比較すると、全ての教科で差が縮まり伸びが見られます。特に、A問題の伸びが大きく、知識や技能の定着が図られたと言えます。

平均無解答率について全国との差を比較すると、平成26年度は全ての教科で平均無解答率が全国を上回っていましたが、平成29年度では全ての教科で下回り伸びが見られます。特に、B問題の伸びが大きく、諦めずに問題に取り組む姿勢・意欲が向上したと言えます。

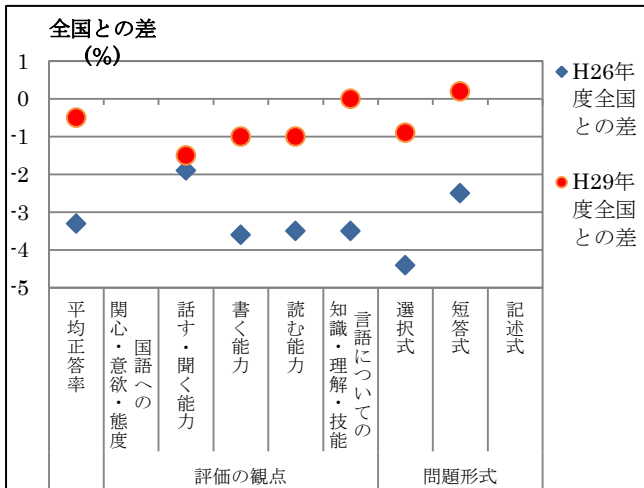
◆◆領域、観点、問題形式別分析◆◆

【国語】

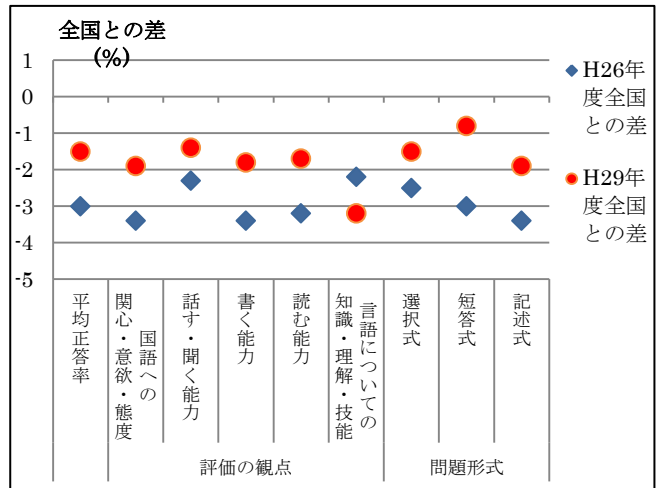
国語Bの「言語についての知識・理解・技能」を除く全ての項目で改善が見られ、特に国語Aの「言語についての知識・理解・技能」の項目は全国平均と同水準になりました。

国語Bの「言語についての知識・理解・技能」を除く全ての項目において改善が見られますが、全国平均に至った項目は1項目に留まり、依然課題が大きいです。国語Aの「言語についての知識・理解・技能」は大きく改善が見られることから、知識や技能を活用することに課題があると考えられます。また、「話す・聞く能力」は大きな改善が見られません。

<国語A>



<国語B>



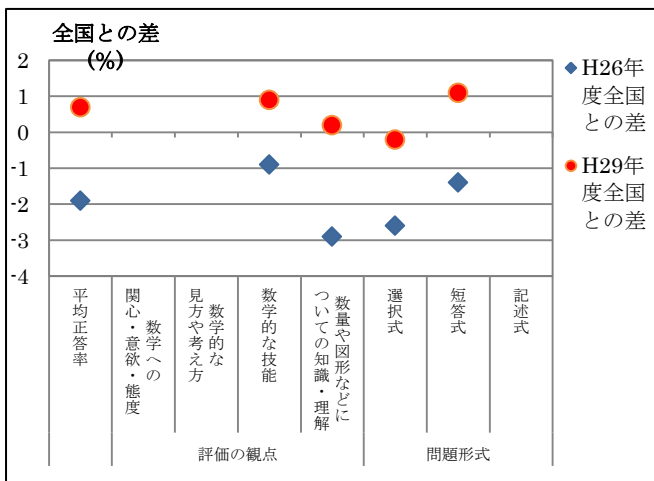
※該当の出題がない年度には印がありません。

【算数・数学】

算数・数学Bの「選択式」を除く全ての項目で改善が見られました。算数・数学Aではほとんどの項目で全国平均を上回りました。

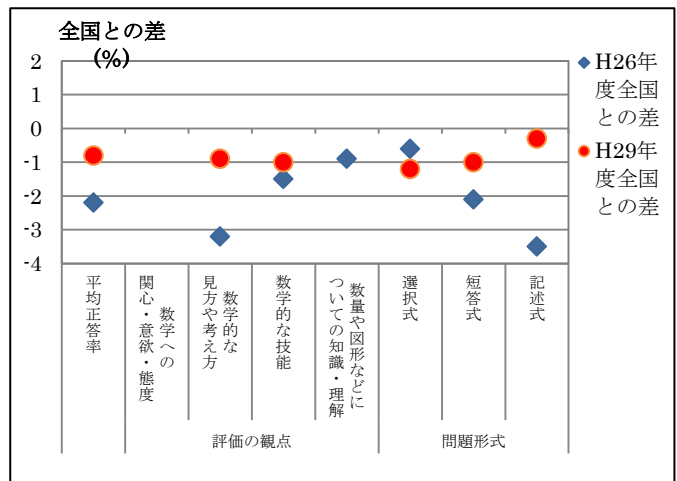
算数・数学Aでは全ての項目で大きく改善が見られます。算数・数学Bでは「数学的な見方や考え方」「記述式」の問題で大きく改善が見られることから、自分の考えを記述する力が定着してきたと考えられます。

<算数・数学A>



※該当の出題がない年度には印がありません。

<算数・数学B>



※該当の出題がない年度には印がありません。



◆◆「みえの学力向上県民運動」主な関連指標◆◆

【関連：第5章P.53～】

(平成26年度小学校第6学年、平成29年度中学校第3学年の同一児童生徒の調査結果推移一覧)

休みの日の学習時間に大きく改善が見られます。また、子どもたちの自尊感情の状況に伸びが見られます。一方で、スマートフォン等の使用時間や、授業時間以外の自主的な読書等の「主体的な学び」には、依然として課題が見られます。

みえの学力向上県民運動セカンドステージは、全国学力・学習状況調査の質問紙調査項目のうち33項目を「主な関連指標」として位置付けて、取組を進めています。

本年度中学校第3学年は、平成26年度当時小学校第6学年です。児童生徒の発達段階の違い、社会情勢の変化等により比較が難しい項目もあることに留意しつつ、今後の児童生徒への指導の参考としてください。

【表の見方】

- ・表中のA・B・Cは、「全国との差」の変位を表し、Aは「改善・上昇」を、Bは「変動なし」、Cは「下降」を表す。
- ・表中の+・-は、三重県の割合の変位を表し、+は「改善・上昇」を、-は「下降」を表す。
- ・表中の○は、上記に示した「A・B・C」及び「+・-」の数値が±5ポイント以上離れていることを表す。
- ・なお、「+・-」は、小学校在籍時と中学校在籍時の児童生徒の発達段階の違い、社会情勢の変化等により比較が難しい項目もあることに留意が必要である。
- ・表中の網掛けは、当該年度に同じ質問項目がなかったものである。

《児童生徒質問紙》

質問紙番号	質問項目		H26	H26→H29	H29		質問紙番号	質問項目		H26	H26→H29	H29	
			小学校6年生時		中学校3年生時					小学校6年生時		中学校3年生時	
①	基本的生活習慣の状況 「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらの時刻に寝ている」「毎日、同じくらの時刻に起きる」の平均値	三重県	88.3	-	87.1		④	(13) 平日のテレビゲーム等の使用(スマホのゲームを含む)(3時間以上)	三重県	18.8	-	23.6	
		全国	88.7	A	87.1	全国			17.0	C	21.4		
		全国との差	-0.4		0.0	全国との差			1.8		2.2		
	(1) 朝食を毎日食べている	三重県	95.7	-	93.6			⑤	(14) 平日のスマホの通話やメール、インターネットの使用(3時間以上)	三重県	5.6	⊖	20.6
		全国	96.0	A	93.2	全国				5.0	C	18.1	
		全国との差	-0.3		0.4	全国との差				0.6		2.5	
	(2) 毎日、同じくらの時刻に寝ている	三重県	78.3	-	75.7			⑥	(15) 平日の学習時間(1時間以上)	三重県	59.4	⊕	66.5
		全国	79.2	A	75.6	全国				62.0	C	69.6	
		全国との差	-0.9		0.1	全国との差				-2.6		-3.1	
	(3) 毎日、同じくらの時刻に起きている	三重県	90.9	+	92.0			⑦	(16) 休みの日の学習時間(1時間以上)	三重県	46.9	⊕	62.0
		全国	90.9	C	92.4	全国				55.9	A	69.4	
		全国との差	0.0		-0.4	全国との差				-9.0		-7.4	
②	子どもたちの自尊感情の状況 「ものを最後までやり遂げてうれしかったことがある」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する」「自分には、よいところがあると思う」の平均値	三重県	81.9	-	80.6		⑧	(18) 授業時間以外の読書時間(平日10分以上)	三重県	62.5	⊖	47.7	
		全国	81.9	A	78.8	全国			64.7	C	51.4		
		全国との差	0.0		1.8	全国との差			-2.2		-3.7		
	(4) ものを最後までやり遂げてうれしかったことがある	三重県	94.6	+	95.5			⑨	(24)(26) 家の人(兄弟姉妹は含まない)と学校での出来事について話をする	三重県	78.9	-	74.0
		全国	94.4	A	94.7	全国				80.4	A	74.3	
		全国との差	0.2		0.8	全国との差				-1.5		-0.3	
	(5) 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する	三重県	75.4	-	73.2			⑩	削除 家の手伝いをしていますか	三重県			
		全国	75.1	A	71.0	全国							
		全国との差	0.3		2.2	全国との差							
	(6) 自分には、よいところがあると思う	三重県	75.7	-	73.2			⑪	(29)(31) 家で、自分で計画を立てて勉強している	三重県	59.4	⊖	54.3
		全国	76.1	A	70.7	全国				61.0	A	51.5	
		全国との差	-0.4		2.5	全国との差				-1.6		2.8	
③ (10) 将来の夢や目標を持っている	三重県	85.8	⊖	71.2		⑫	(32)(34) 家で、学校の授業の復習をしている	三重県	48.7	-	48.6		
	全国	86.7	A	70.5	全国			54.0	A	50.5			
	全国との差	-0.9		0.7	全国との差			-5.3		-1.9			
④ (12) 平日の子どもたちのテレビ・テレビゲーム等の使用状況 「平日のテレビ等の視聴(3時間以上)」「平日のテレビゲーム等の使用(3時間以上)」の平均値	三重県	28.6	+	25.5		⑬	(33)(35) 学校に行くのが楽しい	三重県	86.6	-	82.9		
	全国	27.5	C	23.4	全国			86.6	A	80.9			
	全国との差	1.1		2.1	全国との差			0.0		2.0			
(12) 平日のテレビ等の視聴(3時間以上)	三重県	38.4	⊕	27.3		⑭	(38)(40) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う	三重県	80.1	+	82.2		
	全国	38.0	C	25.3	全国			79.7	A	80.4			
	全国との差	0.4		2.0	全国との差			0.4		1.8			

《児童生徒質問紙》

質問紙番号	質問項目	H26 小学校6 年生時	H26→H29	H29 中学校3 年生時
15 (39)(41)	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる	三重県		79.3
		全国		75.5
		全国との差		3.8
16 (40)(42)	地域行事への参加	三重県	73.2	47.2
		全国	68.0	42.1
		全国との差	5.2	5.1
17 (41)(43)	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある	三重県	60.9	57.8
		全国	62.9	59.2
		全国との差	-2.0	-1.4
18 (43)(45)	地域社会などでボランティア活動に参加したことがある	三重県		46.3
		全国		49.7
		全国との差		-3.4
19 (49)(51)	子どもたちの規範意識の状況 「学校のきまりを守っている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」の平均値	三重県	93.5	94.1
		全国	93.6	93.3
		全国との差	-0.1	0.8
20 (52)(54)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	三重県	96.3	93.0
		全国	96.4	92.8
		全国との差	-0.1	0.2
21 (53)(55)	人の役に立つ人間になりたいと思う	三重県	93.7	92.7
		全国	94.0	91.9
		全国との差	-0.3	0.8
22 (58)(60)	主眼的・協働的な授業に取り組んでいる授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	三重県		74.1
		全国		71.3
		全国との差		2.8
23 (61)(63)	授業の中で目標（めあて・ねらい）の提示 ※H27までは「授業のはじめに」	三重県	75.7	90.2
		全国	82.0	87.8
		全国との差	-6.3	2.4
24 (62)(64)	授業の最後に学習内容を振り返る活動の設定	三重県	67.1	72.1
		全国	71.9	66.1
		全国との差	-4.8	6.0
25 (71)(73)	国語の授業の内容がよく分かる	三重県	79.7	77.6
		全国	80.1	74.9
		全国との差	-0.4	2.7
26 (80)(82)	算数（数学）の授業の内容がよく分かる	三重県	79.0	75.0
		全国	79.6	69.4
		全国との差	-0.6	5.6

質問紙番号	質問項目	H26 小学校6 年生時	H26→H29	H29 中学校3 年生時
27 (73)(75)	授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つ ※国語、算数（数学）の平均値	三重県	87.3	79.8
		全国	88.2	77.9
		全国との差	-0.9	1.9
28 (84)(86)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	三重県	86.4	85.3
		全国	87.4	83.3
		全国との差	-1.0	2.0
29 (84)(86)	算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	三重県	88.2	74.3
		全国	89.0	72.4
		全国との差	-0.8	1.9

《学校質問紙》

質問紙番号	質問項目	H26 小学校6 年生時	H26→H29	H29 中学校3 年生時
30 (22)	対象児童生徒に対して、前年度に、図書館資料を活用した授業を計画的に実施（学期に数回以上） ※H28までは「学校図書館を活用」	三重県	77.2	48.4
		全国	80.5	49.6
		全国との差	-3.3	-1.2
31 (23)	対象児童生徒に対して、前年度に、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施（週に2回以上）	三重県	18.9	15.3
		全国	17.5	15.6
		全国との差	1.4	-0.3
32 (33)	授業の中で目標（めあて・ねらい）の提示 ※H27までは「授業のはじめに」	三重県	91.3	98.8
		全国	96.9	98.3
		全国との差	-5.6	0.5
33 (34)	授業の最後に学習内容を振り返る活動の設定	三重県	76.3	96.8
		全国	91.6	94.3
		全国との差	-15.3	2.5
34 (51)	学校生活の中で子どもたち一人ひとりのよい点や可能性を見つけ、児童生徒に伝えるなど積極的に評価した	三重県	97.1	96.8
		全国	96.9	95.5
		全国との差	0.2	1.3
35 (56)	前年度全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を、学校全体で教育活動を改善するために活用	三重県	92.9	94.2
		全国	93.6	94.4
		全国との差	-0.7	-0.2
36 (80)(79)	地域等の人材を招へいた授業等の実施	三重県	81.9	75.8
		全国	76.3	68.9
		全国との差	5.6	6.9
37 (111)(109)	校長の授業の見回り（週に2日以上）	三重県	84.5	88.5
		全国	91.6	83.5
		全国との差	-7.1	5.0

休日に1時間以上学習する子どもの割合が増え、家庭学習の習慣に改善が見られます。しかしながら、全国平均と比較すると依然として差は大きくさらなる改善が必要です。子どもたちの自尊感情の状況は、全国平均をすべての項目で上回り差が広がっています。「先生は、よいところを認めてくれていると思う」との質問項目にも伸びが見られることから、学校の関わりが子どもたちの自尊感情の高まりにつながったと考えられます。

一方で、平日のテレビ・ゲーム・スマートフォン等の使用時間や、平日の家庭学習の時間、自主的な読書等には依然として課題が見られ、全国との差が広がっています。

学校の組織的な取組である「目標（めあて・ねらい）の提示」、「振り返る活動」等に改善が見られます。

今後も小中学校が連携し、児童生徒の学力保障に向けた取組を進めていくことが重要です。また、引き続き子どもたちの自己管理能力を育む取組を、学校・家庭・地域が連携して進める必要があります。

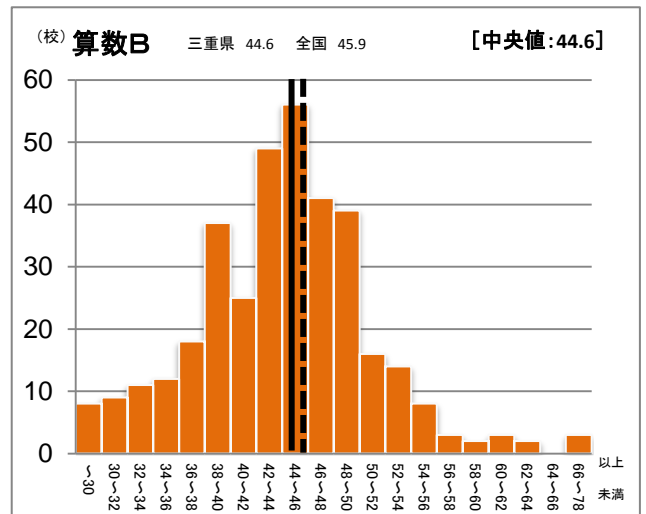
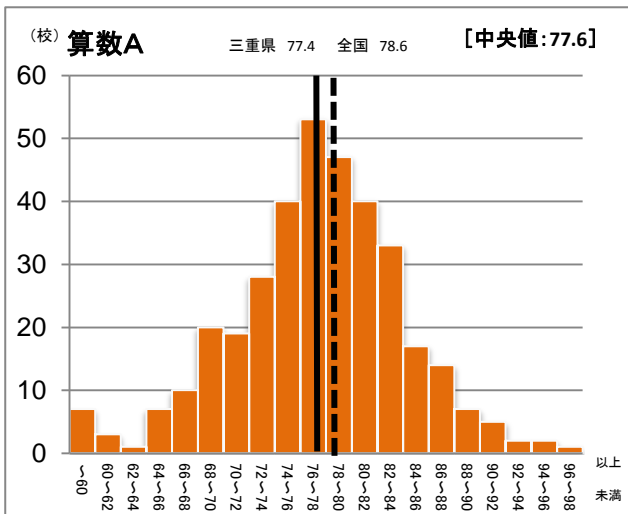
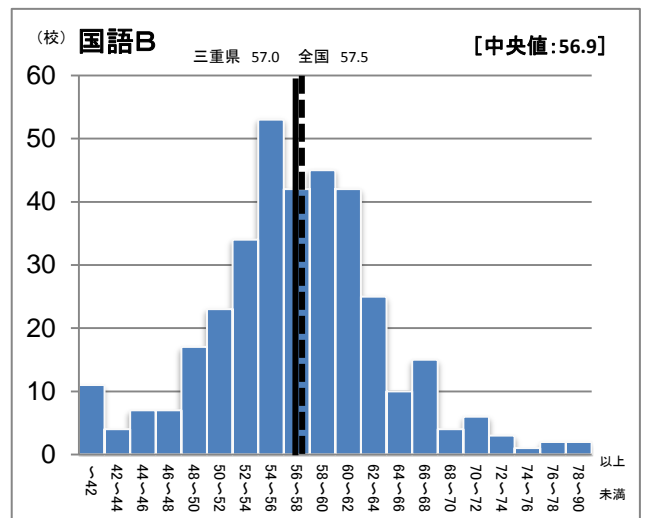
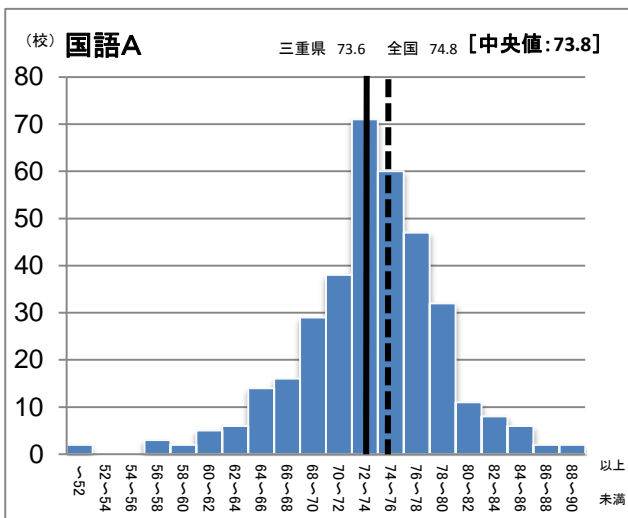
# 第2章 教科に関する調査結果の分析

## 1 小学校

### 平均正答率による学校の分布

全ての教科で全国の平均正答率以上の学校の割合が減少しました。特に、算数では顕著です。

国語Aでは、昨年度と比較して分布が中央に寄り、中間層の差が縮まっています。しかしながら、国語B・算数A・Bでは、左端の値が昨年度より大きくなっており、差が広がっています。



※各教科の全国の平均正答率を上回る学校数

年度 \ 教科	国語A	国語B	算数A	算数B
平成29年度	141校 (38.1%)	166校 (44.9%)	150校 (40.5%)	134校 (36.2%)
平成28年度	156校 (42.2%)	194校 (52.4%)	214校 (57.8%)	175校 (47.3%)

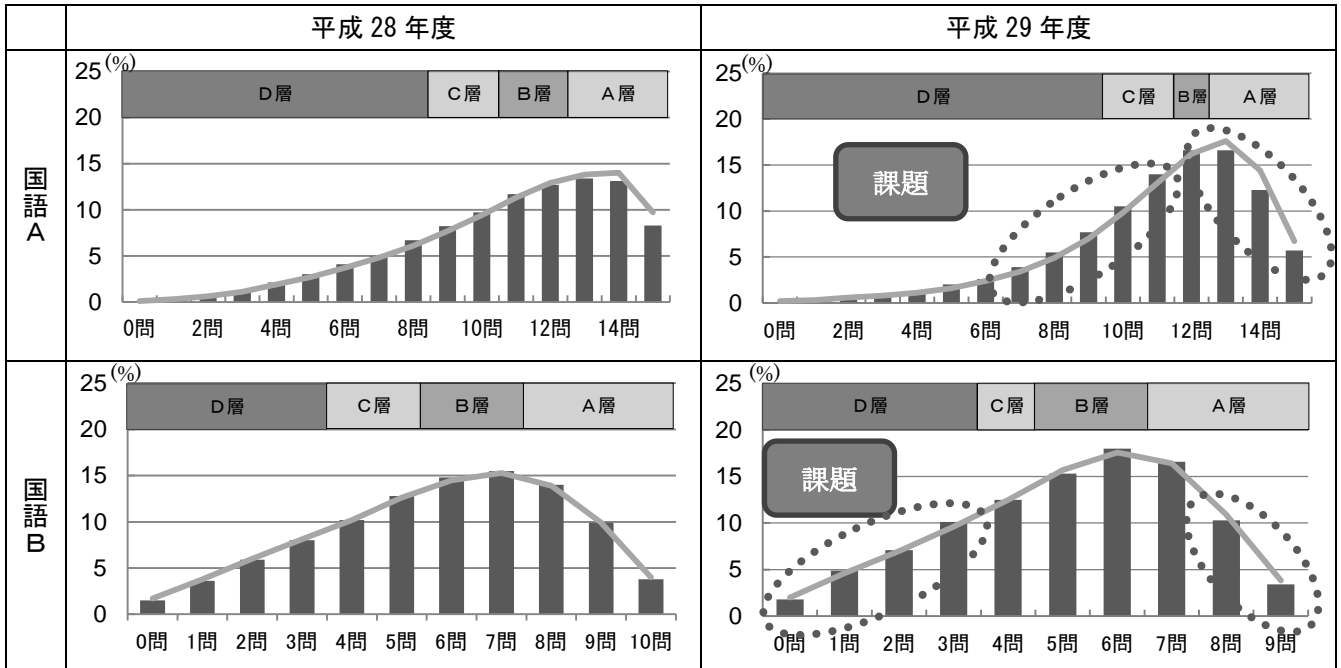
正答数の度数分布

正答数による度数分布について、全国と比較しました。

(1) 国語

**全国の分布とほぼ同じ形になっていますが、A層の割合が全国より低く、C・D層の割合が全国より高いです。**

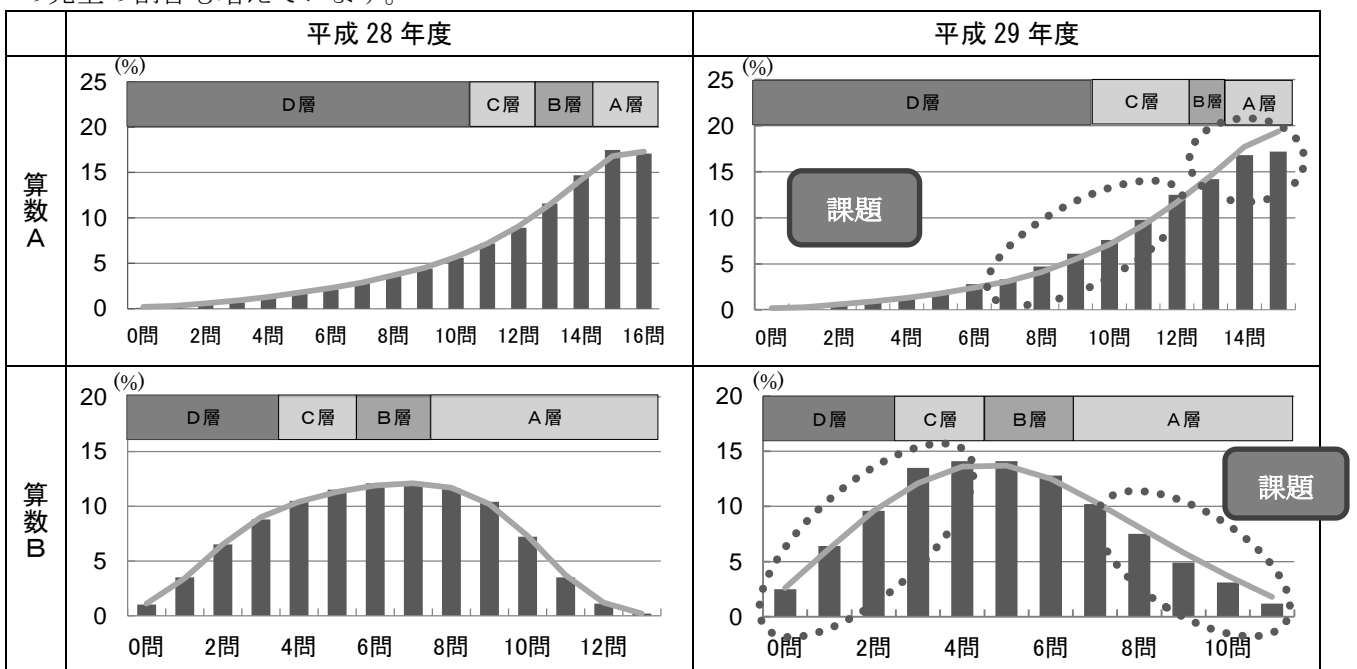
「国語A」はC・D層、「国語B」はD層の割合が高くなっています。また、昨年度は「国語A」の山の頂点はA層にありましたが、本年度はA層とB層の間にあり、昨年度と比較してもA層の割合が低くなったことがわかります。



(2) 算数

**全国の分布とほぼ同じ形になっていますが、A層の割合が全国より低く、C・D層の割合が全国より高いです。**

「算数B」では山の頂点がC層にあり、C層の割合が増えたことが分かります。また、正答数が0問の児童の割合も増えています。



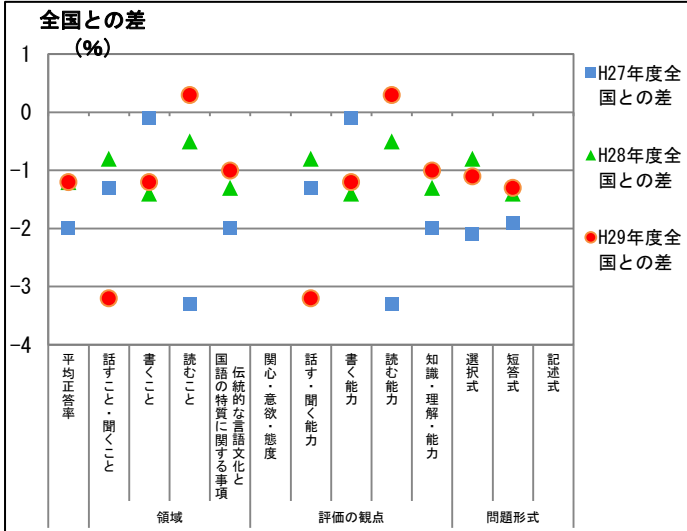
領域、観点、問題形式別分析

(1) 国語

国語Aの「読むこと」「読む能力」が昨年度より改善され、全国平均を上回りました。一方、「話すこと・聞くこと」「話す・聞く能力」で全国平均を大きく下回りました。

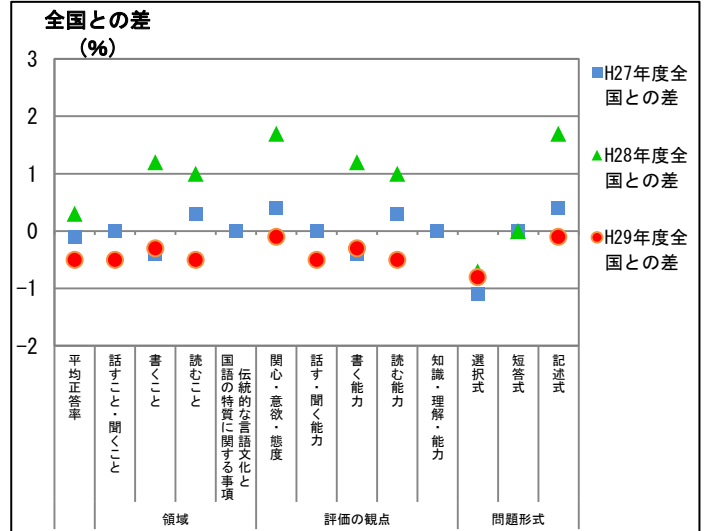
国語Bは全ての項目で昨年度は改善していましたが、本年度は改善が見られず、全国平均と1ポイント以内の差であるものの、全国平均を下回りました。

<国語A>



※該当の出題がない年度には印がありません。

<国語B>



※該当の出題がない年度には印がありません。

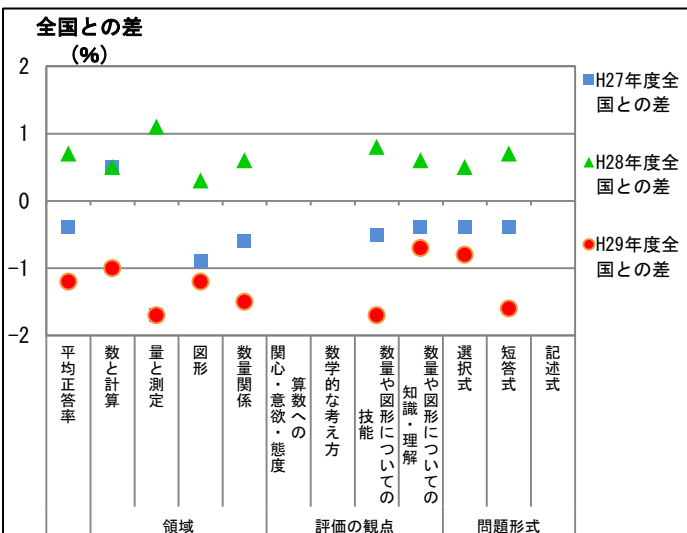
(2) 算数

算数Aの「量と測定」「数量や図形についての技能」、算数Bの「量と測定」「図形」「数量や図形についての知識・理解」は昨年度より全国との差が大きく広がっています。

算数Aの「量と測定」は昨年度、大きく改善が見られましたが、本年度は全国平均を下回りました。

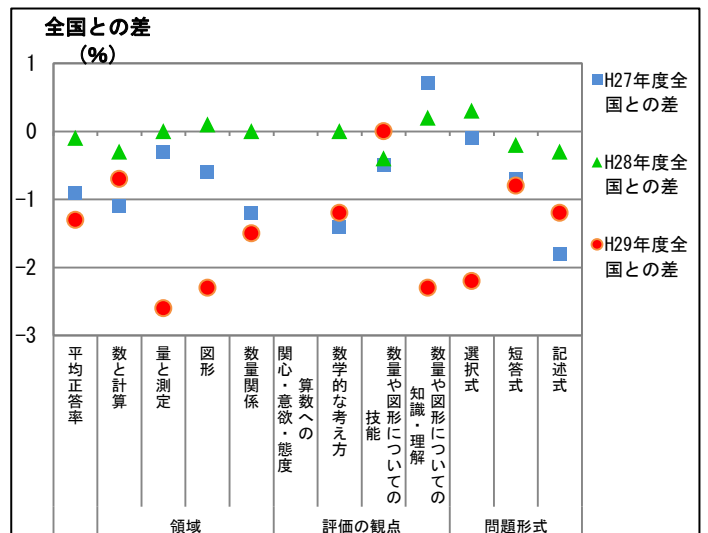
算数Bでは多くの項目で改善傾向にあったものが、本年度は全国平均を下回っています。

<算数A>



※該当の出題がない年度には印がありません。

<算数B>



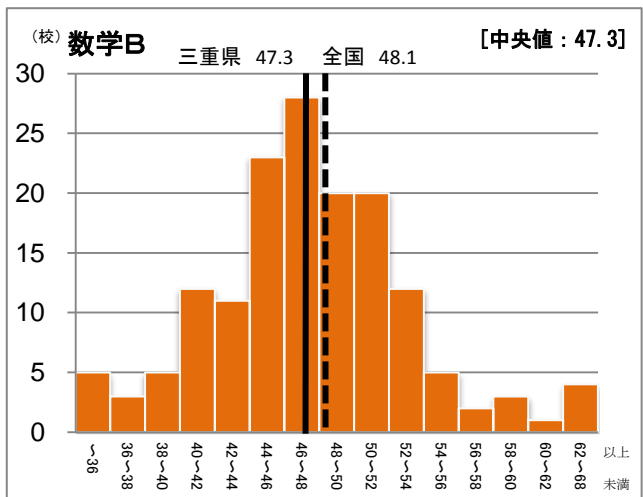
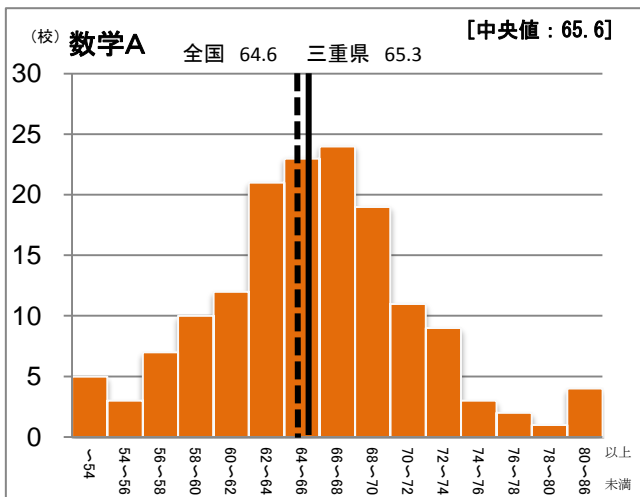
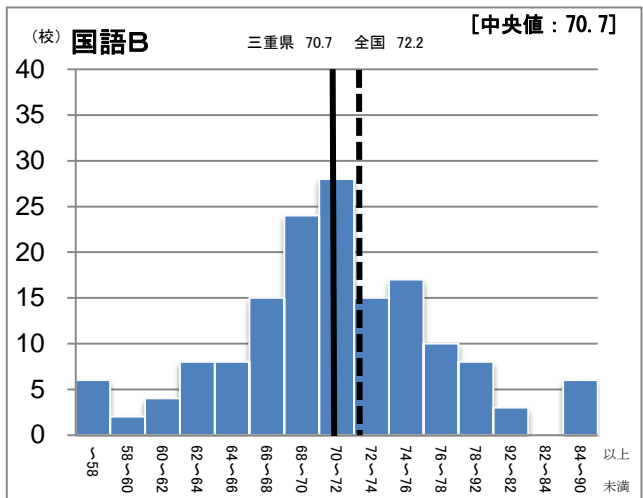
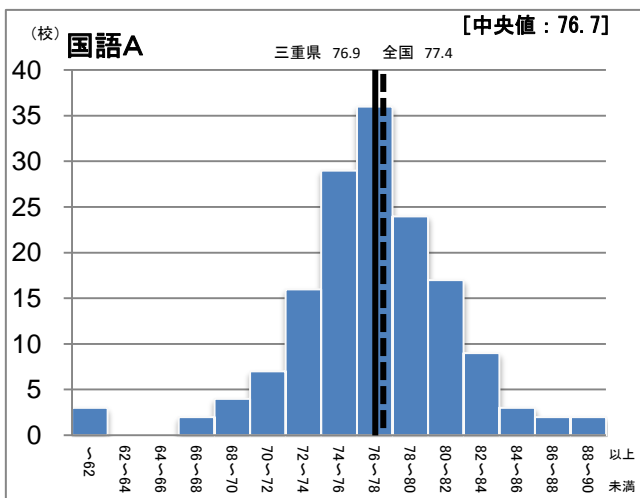
※該当の出題がない年度には印がありません。

2 中学校

平均正答率による学校の分布

全ての教科で、全国の平均正答率以上の学校の割合が昨年度より高くなりました。

数学Aでは、平均正答率が全国の平均を上回りましたが、最頻値が平均値及び中央値より右に寄っていることから、平均正答率の低い学校との差が大きくなったことがわかります。



※各教科の全国の平均正答率を上回る学校数

年度	教科	国語A	国語B	数学A	数学B
平成29年度		68校 (44.2%)	58校 (37.7%)	87校 (56.5%)	65校 (42.2%)
平成28年度		54校 (34.4%)	58校 (36.9%)	80校 (51.0%)	62校 (39.5%)

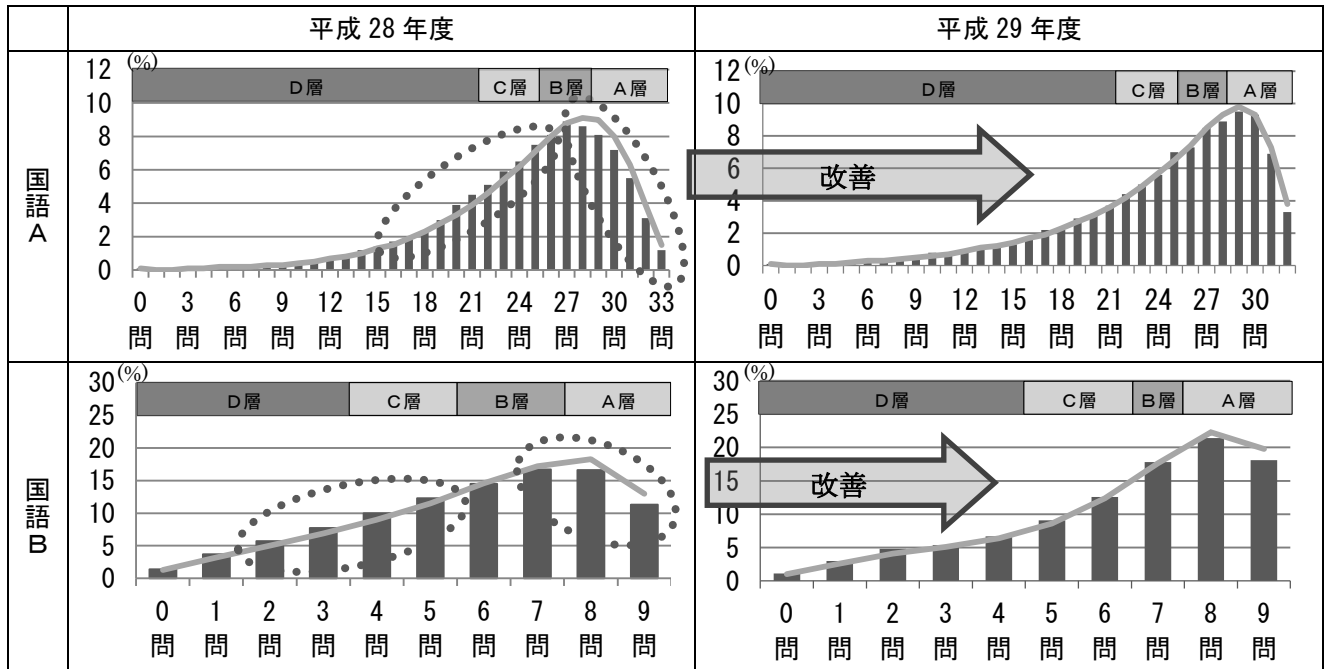
正答数の度数分布

正答数による度数分布について、全国と比較しました。

(1) 国語

**「国語A」「国語B」ともに、A・B層の割合の全国との差が小さくなっています。**

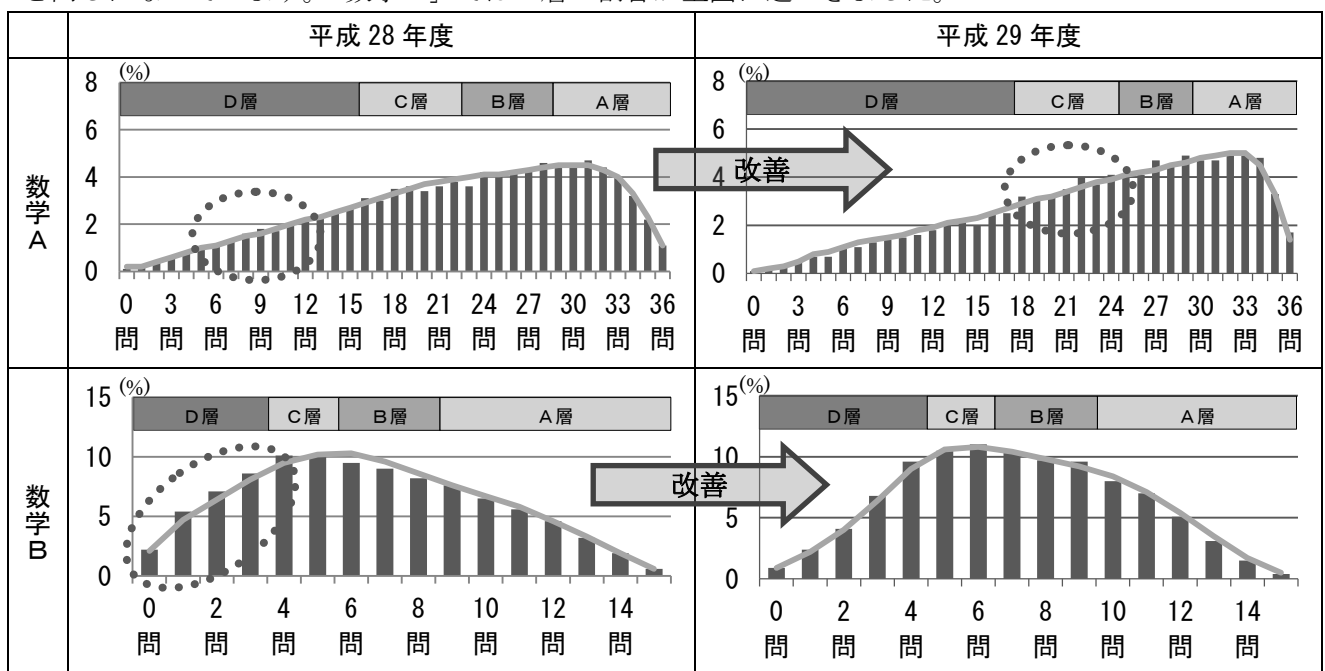
三重県の正答数の分布は全国の分布とほぼ同じ形になっています。「国語A」「国語B」ともに、昨年度よりA層の割合が高くなり、全国の分布により近づきました。



(2) 数学

**「数学B」でD層の割合の全国との差が小さくなっています。**

全国の分布とほぼ同じ形になっています。「数学A」では、A・B層の割合が昨年度に引き続き全国と同じになっています。「数学B」ではD層の割合が全国に近づきました。



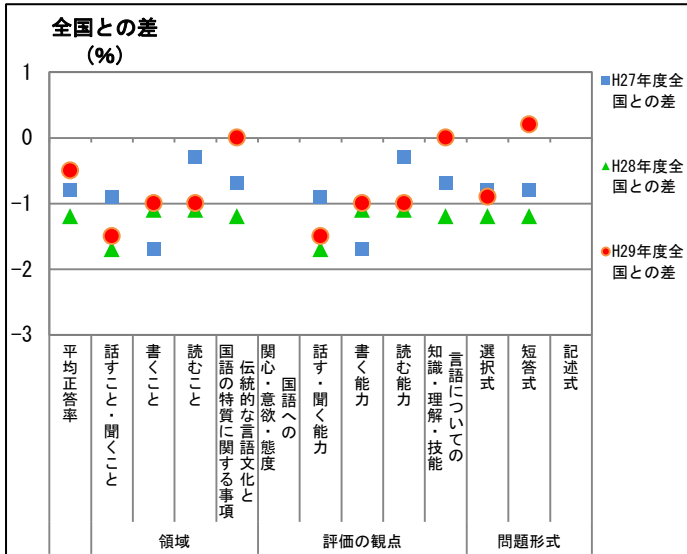
領域、観点、問題形式別分析

(1) 国語

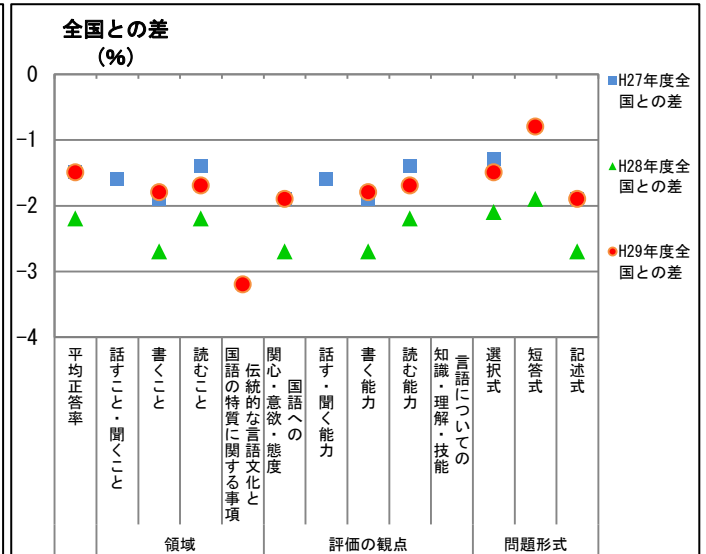
国語A「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で改善が見られます。

全ての項目で昨年度より改善が見られます。しかし、ほとんどの項目で全国より低い状況が続いています。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は国語Aでは全国と同水準ですが、国語Bでは全国より3ポイント以上低くなっています。知識は身に付いているものの、活用することに課題があるとと言えます。

<国語A>



<国語B>



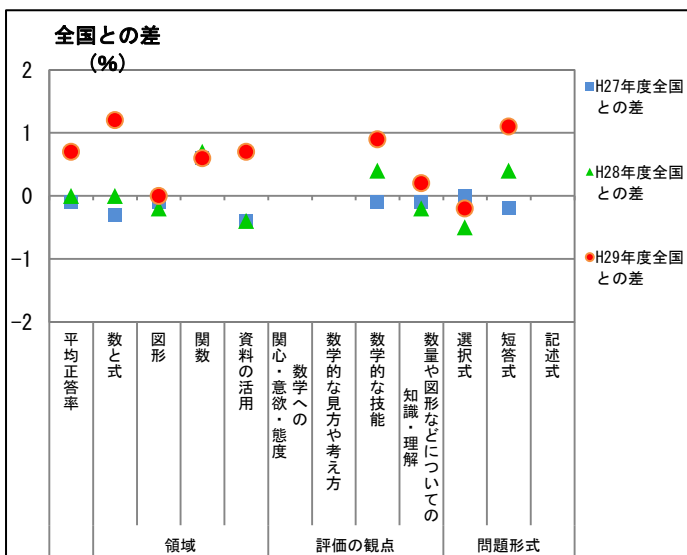
※該当の出題がない年度には印がありません。

(2) 数学

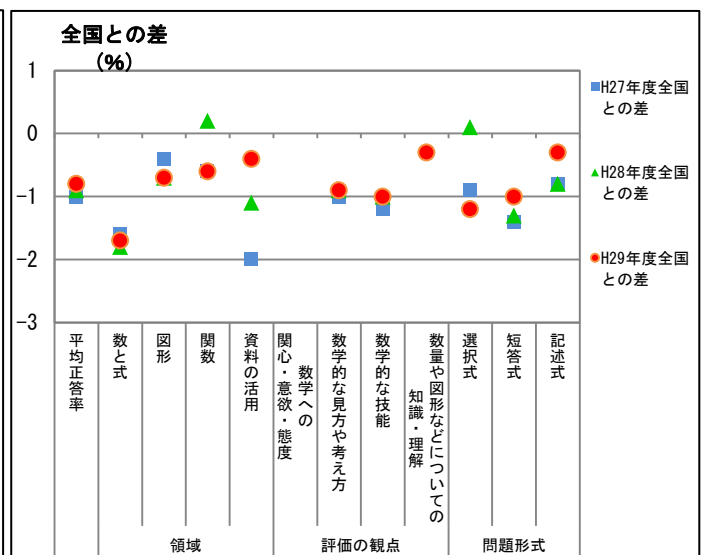
数学Aは「数と式」「資料の活用」で改善が見られますが、「図形」に継続して課題が見られます。数学Bは「資料の活用」で改善が見られますが、「数と式」に継続して課題が見られます。

数学Aは多くの項目で改善が見られ、全国平均を上回っています。特に、「数と式」「資料の活用」は大きく改善が見られます。数学Bは「関数」「資料の活用」以外の項目では昨年度と大きな変化はありません。

<数学A>



<数学B>



※該当の出題がない年度には印がありません。

※該当の出題がない年度には印がありません。



みえの子どもたちの経年的な課題

**小中学校国語** ① 根拠に基づいて自分の考えを書くこと  
② 引用したり要約したりして書くこと

●課題の見られた H29 全国学調の設問●

小学校国語 B<sup>3</sup>三 「きつねの写真」から取り上げた言葉や文を基に、松ぞうじいさんやとび吉がきつねだと考えたわけをまとめて書く

具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめることに課題が見られました。

1 正答と主な誤答例の反応率

正答の条件

- ① [ ]の横山さんのように、【物語の一部】から言葉や文を取り上げて書いている。
- ② 取り上げた言葉や文をもとに、どうして松ぞうじいさんやとび吉がきつねだと考えるのかを書いている。
- ③ 60字以上、100字以内で書いている。

正答 【条件①②③を満たしているもの】 反応率：43.2% (全国との差：-0.6)

主な誤答例【条件①③を満たし、②を満たしていないもの】 反応率：26.2% (全国との差：+0.4)

2 過去の類題との経年比較

平成26年度出題 二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く

正答の条件

- ① 詩の内容や表現の仕方などについて共通点や相違点を取り上げ、自分の考えを書いている。
- ② 「たんぼぼ」と「まど・みちお」の両方の言葉を使って書いている。
- ③ 80字以上、100字以内で書いている。

正答 【3つの条件を満たしているもの】 反応率：43.1% (全国との差：-5.0)

主な誤答例【条件②を満たしていないもの】 反応率：13.2% (全国との差：-1.7)

中学校国語 B<sup>1</sup>三 比喩を用いた表現に着目し、その表現について、「誰(何)の」、「どのような」様子なのかを明確にした上で、感じたことや考えたことを書く

文学的な文章を読み、表現の技法を理解した上で、それについて自分の考えをまとめることに課題が見られました。

1 正答と主な誤答例の反応率

正答の条件

- ① 〈心に残った一文〉に、【本の一部】から比喩を用いた表現が含まれる一文を抜き出して書いている。
- ② 〈感想〉に、①で取り上げた表現について、「誰(何)の」「どのような」様子なのかを明確にして書いている。
- ③ 〈感想〉に、①で取り上げた表現について、感じたことや考えたことを具体的に書いている。

正答 【条件①②③を満たしているもの】 反応率：38.2% (全国との差：-3.2)

主な誤答例【3つの条件のうちどれか1つのみ満たしているもの】 反応率：25.8% (全国との差：+2.1)

2 過去の類題との経年比較

平成25年度出題 文章を読んで感じたことや考えたことを具体的に書く

正答の条件

- ① 引用する部分をかぎかっこ(「」)でくくり、文章を書いている。
- ② 文章の内容を正しく理解した上で、感じたことや考えたことを具体的に書いている。
- ③ 八十字以上、百字以内で書いている。

正答 【3つの条件を満たしているもの】 反応率：64.0% (全国との差：-1.7)

主な誤答例【条件①を満たしていないもの】 反応率：18.3% (全国との差：+1.0)

## ●指導のポイント●

## ポイント1

**つまずき** 根拠をもとになぜそのように考えたのか、自分の考えをまとめることができていない。

- ・各学年の指導事項を確認し、どのような言語活動で身に付けさせるか考えましょう。

	C読むこと	文学的な文章の解釈	自分の考えの形成及び交流
小学校	第1・2学年	場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	文章の内容と自分の経験を結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。
	第3・4学年	場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。	文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。
	第5・6学年	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。	本や文章を読んで考えたことを発表し合い自分の考えを広げたり深めたりすること。
中学校	第1学年	場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。	文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。
	第2学年	文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。	文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。
	第3学年	文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。	文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること。

- (言語活動例) ・ 心に残ったお話紹介ポスターの作成 ・ お気に入りの登場人物について紹介する  
 ・ 本の帯やポップの作成 ・ テーマを決めてブックトークをする

## ポイント2

**つまずき** 「言葉や文を取り上げた＝自分の考えを書いた」と思っている。【第5・6学年】  
 どのように書けば「具体的」なのかわかっていない。【第3・4学年】

- ・「事実（叙述）」は自分の考えの根拠となるものであり、そこからどう考えるかという「感想、意見」とは区別して書く必要があります。
- ・教員：「なぜそう思う？」児童生徒：「○ページの○行目に△△と書いてあるからです。」というやり取りで終わっていませんか。「その表現からなぜそう思うのか」までしっかり伝えられるよう指導しましょう。
- ・「どのように書けば『具体的』なのか」「なぜそう思ったのか」「どんなことを考えたのか」など、原因や理由、事例などを挙げてわかりやすく説明することを指導しましょう。

## ポイント3

**つまずき** 表現の工夫・技法の知識が身に付いていない。【第5・6学年、(中)第1学年】

- ・文学的な文章の場合、比喻や反復などの表現の工夫を自分の考えの根拠として取り上げることがあります。文章を深く読み味わったり、その文章の良さを誰かに伝えたりするために、言語活動をとおして表現の工夫・技法について理解を深めていけるように指導しましょう。
- ・表現技法は知識として知っているだけでなく、実際に使えるように指導することも大切です。

## ●課題に対応したワークシート●

## ①根拠に基づいて自分の考えを書くこと

- 三重の学-Viva!!セット第8弾 「登場人物の生き方について考えよう」【第6学年】
- 三重の学-Viva!!セット第7弾 「根拠を明確にして魅力を伝えよう」【(中)第1学年】

## ②引用したり要約したりして書くこと

- 三重の学-Viva!!セット宿題用 「引用した文を使って書こう」【第4学年】
- 平成29年度作成 『おくのほそ道』の冒頭から『旅』について考えよう【(中)第3学年】

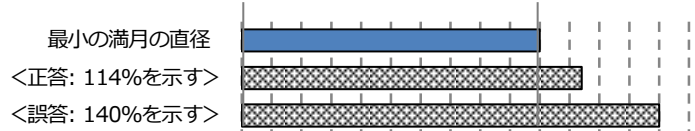
# 小学校算数 ③ 割合

## ●課題の見られた H29 全国学調の設問●

小学校算数 B5 (1)

「最小の満月の直径」の図に対して、「最大の満月の直径」の割合を正しく表している図を選ぶ

示された割合を解釈して、基準量と比較量の関係を表している図を判断すること、身近なもの(月)に置き換えた基準量と割合を基に、比較量に近いものを判断し、その判断の理由を式や言葉を用いて記述することに課題が見られました。



### 1 正答と主な誤答例の反応率

正答 【114%を示す図を選択】 反応率：63.2% (全国との差：-1.8%)  
 主な誤答例 【140%を示す図を選択】 反応率：21.6% (全国との差：+1.1%)

### 2 過去の類題との経年比較

平成22年度出題 定価1000円の図に対して、定価の30%引き後の値段を正しく表している図を選ぶ  
 正答 【700円を示す図を選択】 反応率：68.4% (全国との差：-0.6%)  
 主な誤答例 【9970円を示す図を選択】 反応率：10.2% (全国との差：+1.2%)

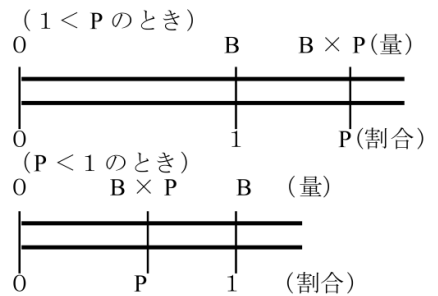
## ●指導のポイント●

ここでは、基準量と比較量の関係を表している図を判断することを取り上げ、「百分率と倍数の関係」や「〇%増、〇%減」が理解できていない児童に対する指導のポイントを紹介します。

### ポイント1

**「まずき」** 「〇の3つ分は□です」がわかっていない。式に表すことができない。【第2学年】

- ・〇をかいたり、テープ図を使ったり、具体物を用いたりして視覚的に捉えさせることが大切です。
- ・「1袋に〇個ずつ入ったみかん、3袋分は□個です。」などの文章による表現と式をセットで提示したり、文章(問題)から式、式から文章(問題)をつくる活動を取り入れたりして、式をつくることだけに終始しないことが大切です。学習が進んでも、具体的なものに置きかえて考えられるようにしましょう。
- ・第3学年「倍数」の学習では、「〇の3つ分」⇒「〇の3倍」、第5学年の「倍数」の学習では、小数倍「〇の0.3倍」へと思考をスムーズに移行させていきましょう。
- ・小数倍に「まずき」のある児童の中には、「かけ算の答えは、もとの数よりも必ず大きくなる。」という誤った考え方をしている場合が考えられます。右のような図を用いて、1より小さい数の倍数は、元の数より小さくなることを説明することも大切です。また整数倍の計算と同様に計算することができることを繰り返し指導することが大切です。



### ポイント2

**「まずき」** 「20%」⇒「0.2(倍)」がわかっていない。(百分率と倍数の関係)【第5学年】

- ・20%を割合ではなく、量として捉えている間違いが考えられます。基準量の大きさを1として、それに対する割合を百分率で表したとき、基準量の半分の量が50%になることや、基準量を10等分すれば1つ分の量が10%になることが理解できるよう、数直線を使って表すなどの活動を取り入れましょう。
- ・「小数倍、分数倍⇔百分率」の相互に変換する活動を繰り返し行い、定着を図ることも大切です。

### ポイント3

**「まずき」** 「20%」「20%増」「20%減(20%引き)」の違いがわかっていない。【第5学年】

- ・次の考え方を定着させることが大切です。その際、テープ図を利用して理解を深めましょう。
  - 20% ⇒ □の0.2倍 ⇒ □×0.2
  - 20%増 ⇒ もとの数を1と見たとき「1+0.2」となる ⇒ □の1.2倍 ⇒ □×1.2
  - 20%引き ⇒ もとの数を1と見たとき「1-0.2」となる ⇒ □の0.8倍 ⇒ □×0.8

## ●課題に対応したワークシート●

- ・三重の学-Viva!!セット宿題用 「これまでの学習を確認しよう①・②」【第5学年】
- ・三重の学-Viva!!セット宿題用 「割合」【第6学年】

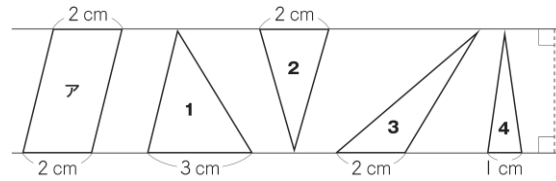
# 小学校算数 ④ 図形

## ● 課題の見られた H29 全国学調の設問 ●

小学校算数 A 5

高さが等しい平行四辺形と三角形について、平行四辺形の面積の、半分の面積の三角形を選ぶ

高さが等しい平行四辺形と三角形について、平行四辺形の面積の、半分の面積の三角形を選ぶとき、平行四辺形の底辺と長さが等しい三角形を見つけることに課題が見られました。



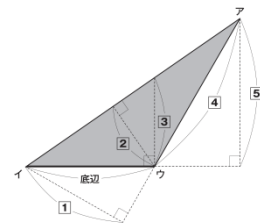
### 1 正答と主な誤答例の反応率

正答 【2, 3を選択】 反応率：65.3% (全国との差：-2.3%)  
 主な誤答例【2のみを選択】 反応率：10.7% (全国との差：+1.4%)

### 2 過去の類題との経年比較

平成 28 年度 A 5 出題 底辺に対して頂点が三角形の外にある三角形の高さを  
 選ぶ

正答 【5を選択】 反応率：83.9% (全国との差：+1.9%)  
 主な誤答例【4を選択】 反応率：5.0% (全国との差：+0.3%)  
 【3を選択】 反応率：5.8% (全国との差：-1.6%)



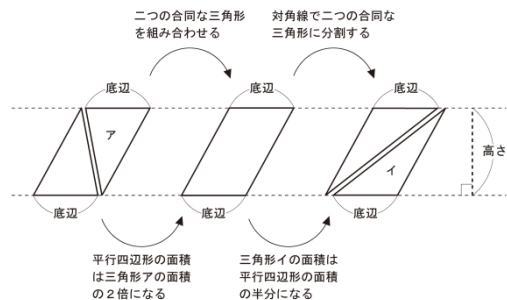
## ● 指導のポイント ●

ここでは、「底辺の長さが高さがそれぞれ等しい平行四辺形と三角形の面積の関係（面積が半分）」、「三角形の面積を考えると、頂点の位置が外にある三角形の高さ」が理解できていない児童に対する指導のポイントを紹介します。

### ポイント1

**つまずき** 底辺の長さが高さがそれぞれ等しい平行四辺形と三角形の面積の関係（面積が半分）が理解できていない。【第5学年】

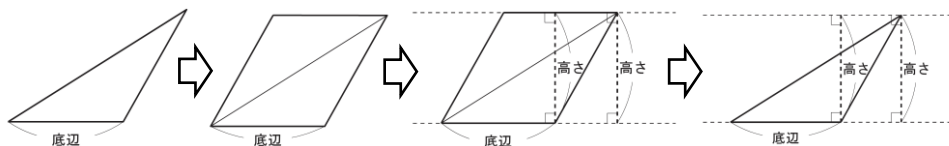
- 底辺の長さが高さがそれぞれ等しい平行四辺形と三角形では、図形の向きや形によらず、三角形の面積は平行四辺形の面積の半分であることを、具体物を使って、平行四辺形を2つの三角形に分割するなどの活動を通じ、理解できるようにすることが大切です。
- 平行四辺形の面積から三角形の面積を求めることや、平行四辺形の面積の公式と三角形の面積の公式を比較して三角形の面積の公式の「 $\div 2$ 」の意味を確認する活動を取り入れることも考えられます。



### ポイント2

**つまずき** 底辺に対して、頂点の位置が外にある三角形について、高さをどこにとるか理解できていない。【第5学年】

- 三角形の高さについて、三角形を2つ組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と関連付けるなどして、理解できるようにすることが大切です。
- 三角形の高さが、底辺と向かい合った頂点から底辺の延長線上に垂直に引いた線分の長さになっていることを確かめる場面を設けることが大切です。



## ● 課題に対応したワークシート ●

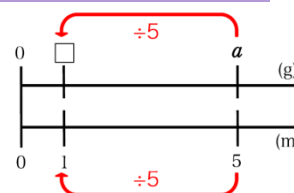
- 三重の学-Viva!!セット宿題用 「同じ面積なのは・・・?」【第6学年】



## 中学校数学 ⑤ 割合

### ●課題の見られた H29 全国学調の設問●

中学校数学 A 2 (1) 5 mの重さが  $a$  g の針金の 1 mの重さを、 $a$  g を用いた式で表す



数量の関係を捉え、その関係について文字式で表すことに課題が見られました。

1	正答と主な誤答例の反応率	
	正答 【 $a \div 5$ ( $a \div 5$ ) と解答しているもの】	反応率：55.9% (全国との差：-0.4)
	主な誤答例 【 $5 \div a$ ( $5 \div a$ ) と解答しているもの】	反応率：13.8% (全国との差：+0.1)
2	過去の類題との経年比較	
	平成 25 年度 A2(3)出題 $a$ mの重さが $b$ g の針金の 1 mの重さを、 $a, b$ を用いた式で表す。	
	正答 【 $a \div b$ ( $a \div b$ ) と解答しているもの】	反応率：31.9% (全国との差：-0.4)
	主な誤答例 【 $b \div a$ ( $b \div a$ ) と解答しているもの】	反応率：12.7% (全国との差：-0.1)

### ●指導のポイント●

ここでは、数量の関係や法則などを文字式で表すことができない生徒に対する指導のポイントを紹介します。

#### ポイント1

□まずき どのように式を立てればよいかわからない。【第1学年】

- ・針金の重さ「 $a$  g」を具体的な数に置き換えて針金の重さと長さの関係を捉えさせることが大切です。例えば、 $a = 100$  とすると、5 mのとき 100 g であることから、10 mのとき 200 g であることなどを確認することが考えられます。
- ・針金 1 mあたりの重さが言葉を使った式「(針金の重さ) ÷ (針金の長さ)」で表されることを見だし、2つの数量の関係を文字式で表すことができるようにしましょう。また、針金 1 gあたりの長さについて文字式で表す活動を取り入れながら、文字に対する抵抗感を和らげることも大切です。

#### ポイント2

□まずき わる数とわられる数を逆にして、数量の大小関係を捉えることができない。【小学校第5学年】

- ・数量の関係や法則などを数や言葉の式、□、△などを用いた式に表してその意味を読み取ったり、数を当てはめて調べたりすることが大切です。  
 例えば、[整数の除法] 2mで 200 円の布は、1 mではいくらになるか ⇒式  $200 \div 2$   
 [小数の除法] 2.5mで 200 円の布は、1 mではいくらになるか ⇒式  $200 \div 2.5$
- ・除数が小数の場合、1に当たる大きさ(基準にする大きさ)を求めることに課題が見られます。公式や言葉の式だけでなく、数直線や図などを用いたり具体的な場面に当てはめたりしてわかりやすく提示することが大切です。基準量を「1」とすると、比較量はそのどれぐらいに当たるかを図などで視覚的に捉えさせることも大切です。また、整数値だけでなく、小数や分数の値も整数と同じように当てはめることができるようにし、数の範囲を拡張して考えることができるようにしましょう。

#### ポイント3

□まずき 2つの数量関係(針金の重さと長さ)は比例することを捉えていない。【小学校第5学年】

- ・小数の乗法及び除法、三角形や平行四辺形の面積の公式、百分率など割合に関する内容などを取り上げる際、表を用いて伴って変わる2つの数量の関係を考察することができるようにすることが大切です。例えば、「階段1段の高さが 15 cmのときの階段の段数と全体の高さ」、「縦の長さが 6 cmと決まっている場合の長方形の横の長さ」と面積」など、表に数量を当てはめながら調べていくことを指導する中で、2つの数量の対応や変化の仕方の特徴を見いだすことができるようにします。また、的確に捉えられるようにするために、見出した特徴やきまりを「横の長さが2倍、3倍、4倍、・・・になれば、面積も2倍、3倍、4倍、・・・になる」などのように言葉を用いて表すようにすることも大切です。

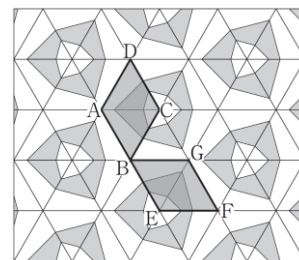
### ●課題に対応したワークシート●

- ・三重の学-Viva!!セット宿題用 「これまでの学習を確認しよう②」【第1学年】

## 中学校数学 ⑥ 図形

### ●課題の見られた H29 全国学調の設問●

中学校数学 B1 (2) 四角形 ABCD の模様が 1 回の回転移動によって四角形 GBEF の模様に重なるとき、どのような回転移動になるかを説明する



数量や図形に着目して見いだした事象の特徴を数学的に表現することに課題が見られました。

- 1 正答と主な誤答例の反応率  
 正答 【点 B を中心に時計回りに  $120^\circ$  回転移動させる】 反応率：12.9% (全国との差：-1.0)  
 主な誤答例 【回転の方向や回転角の大きさについて捉えられなかった】 反応率：19.3% (全国との差：-0.6)
- 2 過去の類題との経年比較  
 平成 26 年度 A4(3)出題 与えられた角が回転移動した後の角を選ぶ  
 正答 【点 C を中心に反時計回りに  $80^\circ$  回転移動させた角を選択】 反応率：42.7% (全国との差：+0.2)  
 主な誤答例 【回転移動の特徴を捉えられず、角の大きさから誤った角を選択】 反応率：49.6% (全国との差：-0.3)

### ●指導のポイント●

ここでは、「回転の中心の位置」、「回転の方向や回転角の大きさ」を捉えることができない、「数学的な用語を用いて説明すること」ができない生徒に対する指導のポイントを紹介します。

#### ポイント 1

**□まずき** 回転の中心の位置、回転の方向、回転角の大きさを捉えることができない。【第 1 学年】

- ・図形を紙で作って動かしたり、コンピュータを利用したりするなどの観察、操作や実験を取り入れ、図形の移動を視覚的に理解できるように指導しましょう。
- ・実際に万華鏡を観察し、万華鏡の模様を図形間の関係として捉えて考察する活動を取り入れてみましょう。その際、色画用紙や OHP シートなどで作成された教具を用いて操作する活動を取り入れることも考えられます。
- ・図形の移動をとおして、移動前と移動後の直線の位置関係、対応する辺や角の相等関係、図形の合同などに着目し、図形の性質を見いだしたり、図形の見方を豊かにしたりすることが大切です。生徒が図形を観察・操作することとおし、考察する場面をつくりましょう。

#### ポイント 2

**□まずき** 移動前と移動後の 2 つの四角形から、辺 AB が辺 EB に重なると捉えている。【第 1 学年】

- ・移動前と移動後の 2 つの四角形を考察した際、点 B を中心として時計回りに  $180^\circ$  回転移動し、辺 AB が辺 EB に重なると捉えていることが考えられます。そのため、2 つの図形のうち一方を移動して重ねることを考えたり、1 つの図形を移動する前と後で比較したりして、図形の性質を捉えられるよう指導しましょう。
- ・包装紙やタイルなど、身の回りにある合同な図形の敷き詰め模様を提示し、その中の 2 つの図形がどのような移動によって重なるかについて調べ、表現させることも大切です。

#### ポイント 3

**□まずき** 回転移動を説明する場面において、回転の中心の位置・回転の方向・回転角の大きさの 3 つを捉え、説明することができない。【第 1 学年】

- ・回転移動を正しく説明するためには、回転の中心の位置・回転の方向・回転角の大きさの 3 つが必要であることを、実際に回転移動した図形をかく活動を通じて実感させることが重要です。
- ・表現する際は、「四角形 ABCD を①点 B を回転の中心として、②時計回りに③ $120^\circ$ の回転移動をした図形は、四角形 GBEF と重なる。」のように示す必要があります。数学的に表現できるよう、書く活動や発表する活動を設定していきましょう。

### ●課題に対応したワークシート●

平成 26 年度作成 「三角形の移動を考えよう」【第 1 学年】

# 第3章 質問紙調査結果の分析

## 1 児童生徒の自尊感情・自己肯定感に関する状況

どの質問も肯定的に回答した児童生徒の割合は増加傾向にあり、自尊感情・自己肯定感が継続的に高まっています。

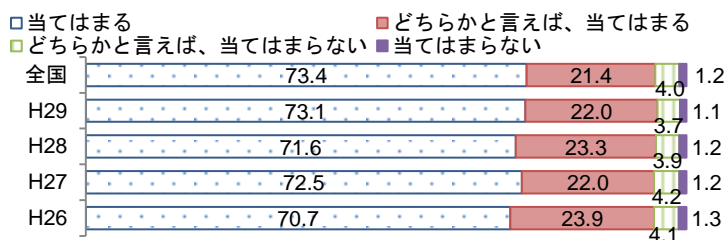
回答別に平均正答率を比較してみると、肯定的回答の平均正答率が最も高くなっています。これらのことから、自己肯定感と平均正答率との間には関連があると言えます。

家の人との会話や地域の人との関わりなど、多くの大人が関わり・励ますことで、子どもたちの自尊感情・自己肯定感をさらに高めていきましょう。

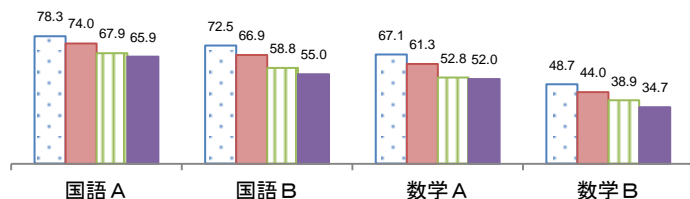
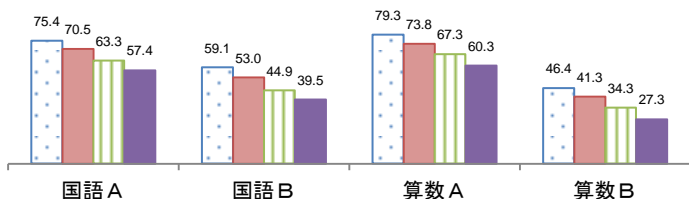
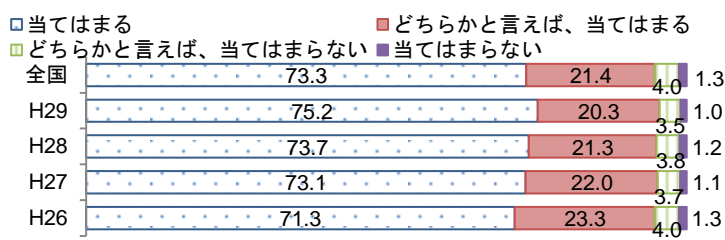
※グラフの値は四捨五入した値のため、合計が100%にならない場合があります。

### 【児童生徒質問紙】(4) ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか

#### 小学校



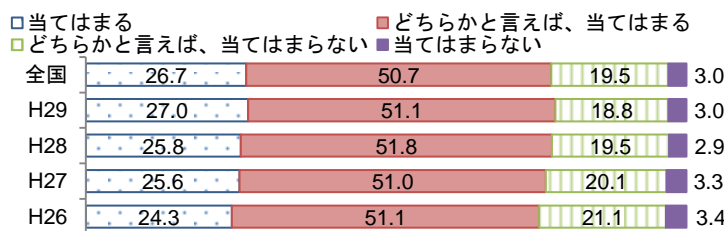
#### 中学校



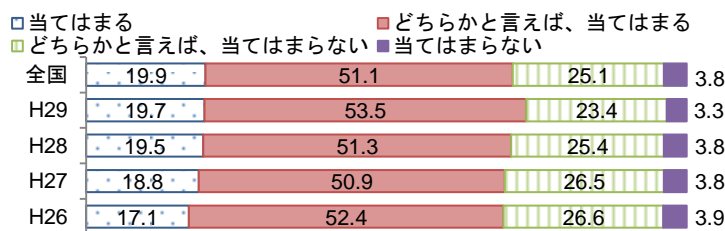
※上段の帯グラフは、質問に対する回答別の割合を、下段の棒グラフは、質問に対する回答別の平均正答率を示しています。

### 【児童生徒質問紙】(5) 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか

#### 小学校

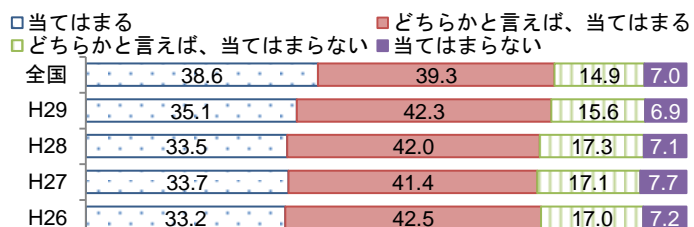


#### 中学校

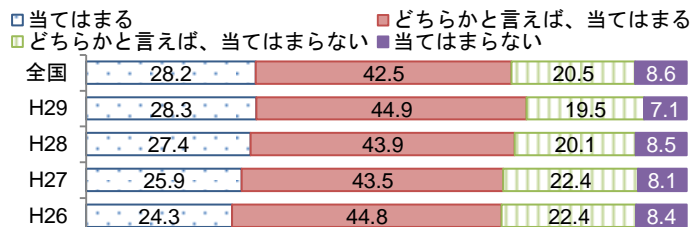


### 【児童生徒質問紙】(6) 自分には、よいところがあると思いますか

#### 小学校



#### 中学校



2

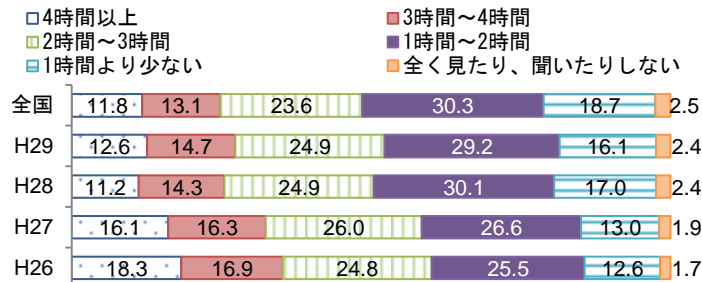
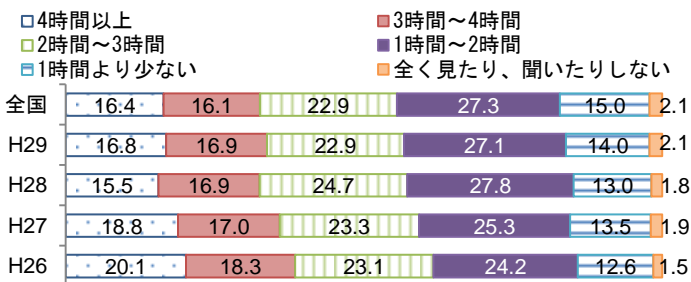
児童生徒の携帯電話・スマートフォン等の使用時間に関する状況

児童生徒ともに全ての項目で3時間以上と回答した割合は昨年度より増加し、全国より高い数値を示しています。テレビ、ゲーム、スマートフォン等の使用について、家庭で話し合ってルールを決めて守り、自己管理能力を育てることが大切です。

【児童生徒質問紙】(12) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか(勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除く)

小学校

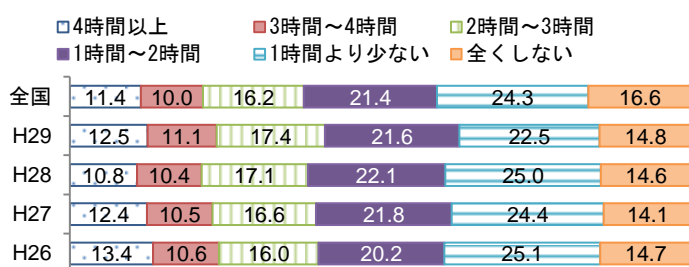
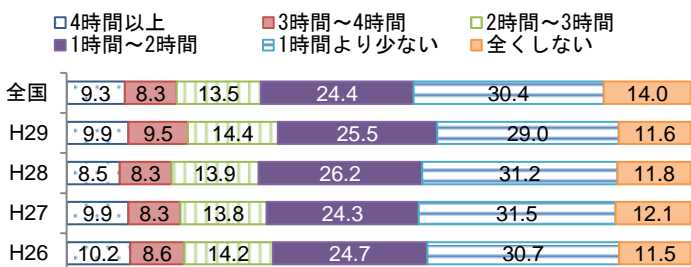
中学校



【児童生徒質問紙】(13) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか

小学校

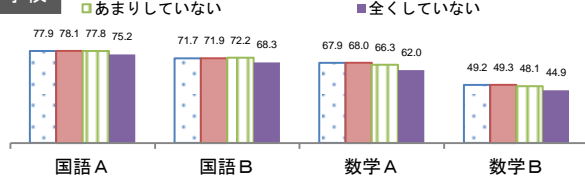
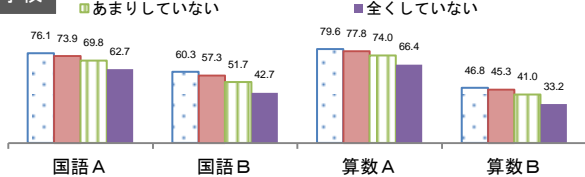
中学校



〈参考〉【児童生徒質問紙】(26・28) テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていますかと各教科の平均正答率との関連

小学校

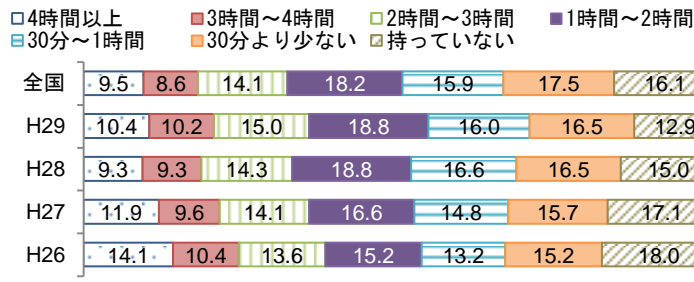
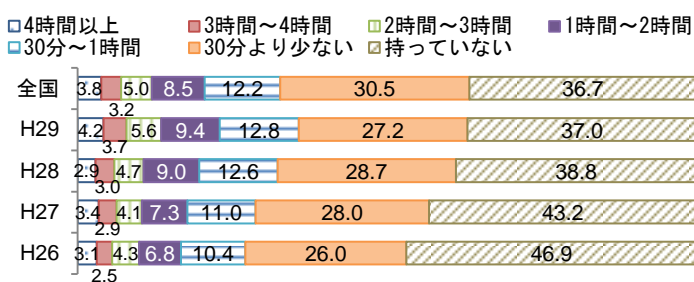
中学校



【児童生徒質問紙】(14) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)

小学校

中学校





3 児童生徒の家庭学習に関する状況

「1時間以上勉強している」児童生徒の割合は、平日・休日ともに全国より低く、特に休日に大きな差が見られます。また、各質問項目を回答別に平均正答率で比較してみると、平日・休日ともに、「1時間以上勉強している」と回答した児童生徒の平均正答率が算数B・数学Bを除き、全国の平均正答率を上回っています。

「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」と、「家で、学校の授業の復習をしていますか」との質問では、肯定的な回答をした児童生徒の平均正答率が全国の平均正答率を上回っています。

中学校では、平日の学習時間が「2時間以上、3時間未満」と回答した生徒の平均正答率が全ての教科で最も高くなっています。「3時間以上」と回答した生徒は睡眠時間が短く、翌日の授業に集中できていないことが考えられます。睡眠時間を確保しつつ、授業の復習を含めた学習の時間が取れるよう、計画を立てることが必要です。

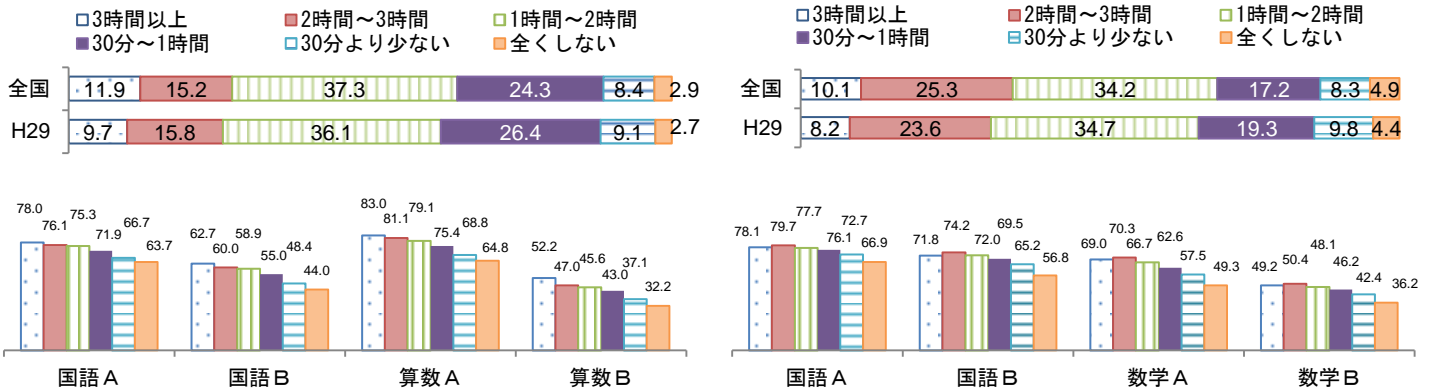
全国の平均正答率

	国語A	国語B	算数・数学A	算数・数学B
小学校	74.8	57.5	78.6	45.9
中学校	77.4	72.2	64.6	48.1

【児童生徒質問紙】(15) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

小学校

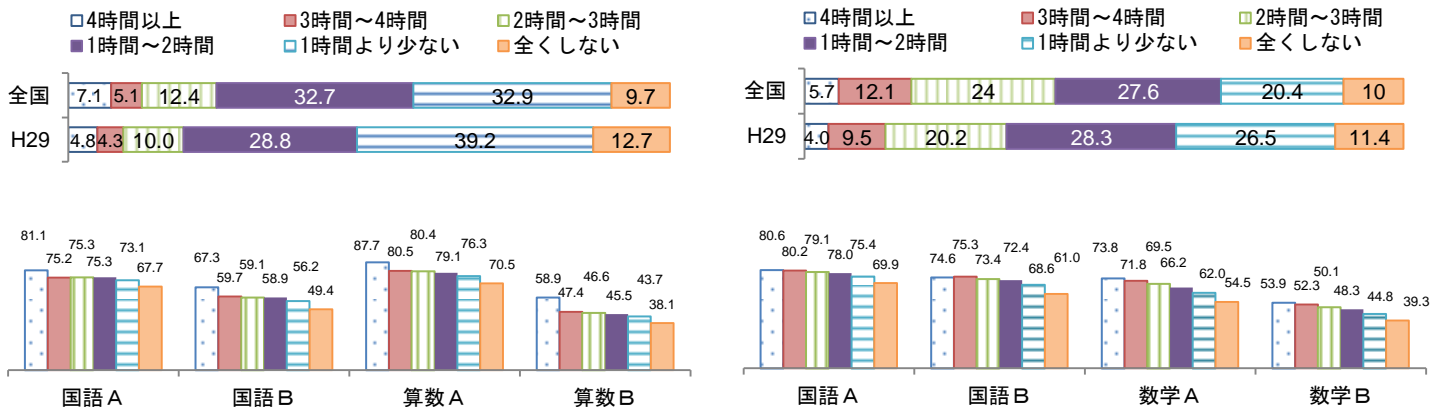
中学校



【児童生徒質問紙】(16) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

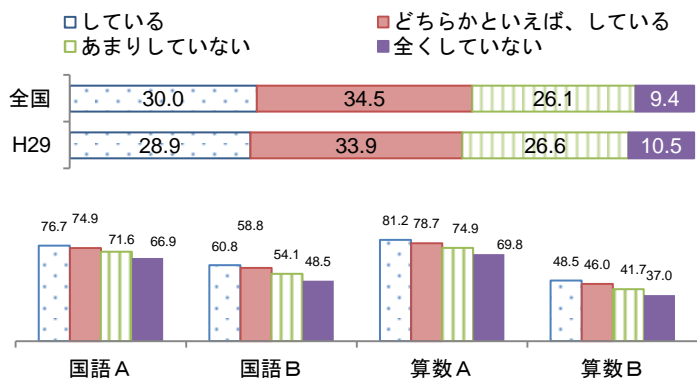
小学校

中学校

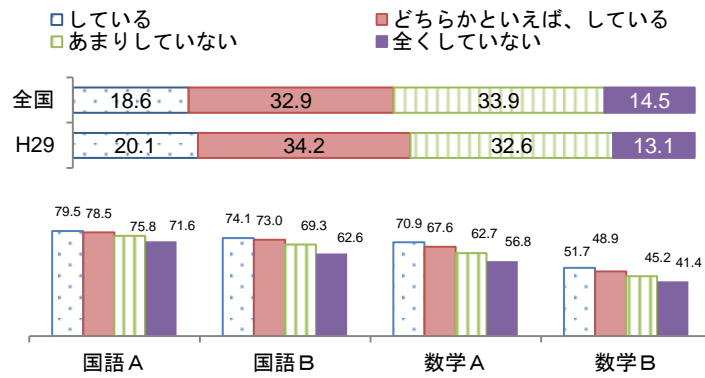


【児童生徒質問紙】(29・31) 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか

小学校

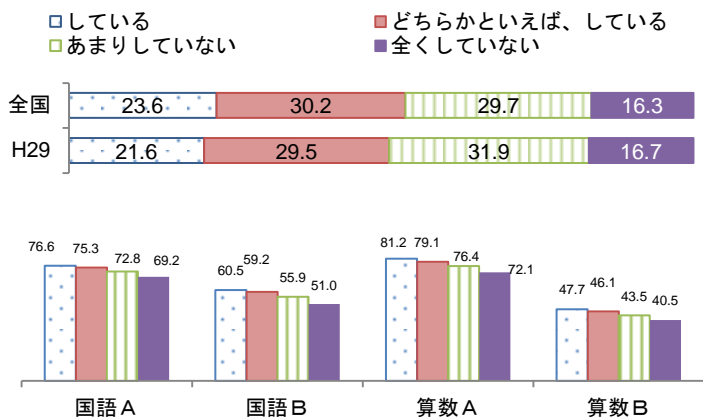


中学校

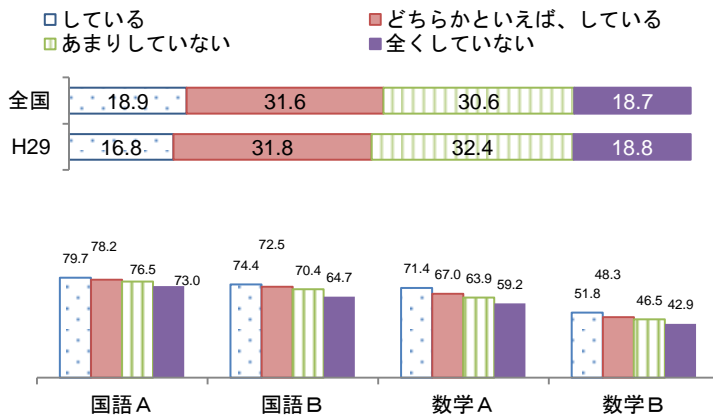


【児童生徒質問紙】(32・34) 家で、学校の授業の復習をしていますか

小学校

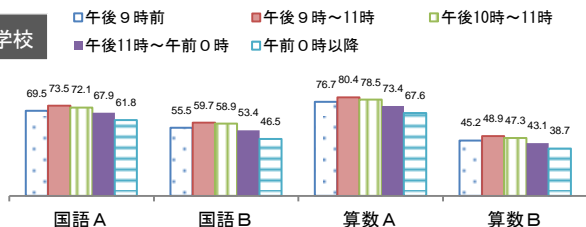


中学校

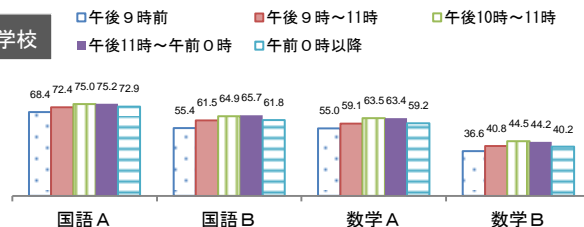


〈参考〉【児童生徒質問紙】 普段(月曜日から金曜日)、何時ごろに寝ますか(平成28年度)と各教科の平均正答率との関連

小学校



中学校



※平成29年度の質問紙項目にはありません。

4 児童生徒の読書習慣に関する状況

中学校では平日10分以上読書をする生徒の割合は、減少傾向にありましたが、本年度増加しました。しかしながら、全国と比べると依然として低い状況です。小学校では平日10分以上読書をする児童の割合は、昨年度よりやや減少しています。また、全国と比べると低い状況が続いています。

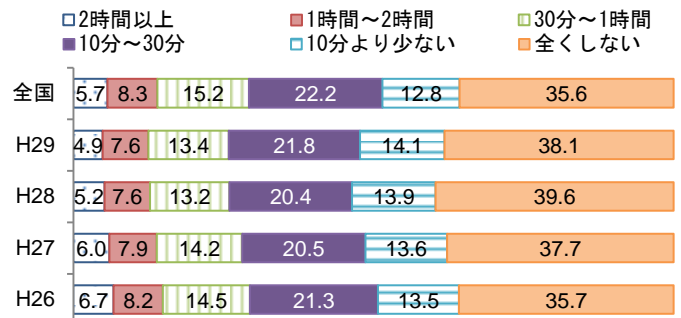
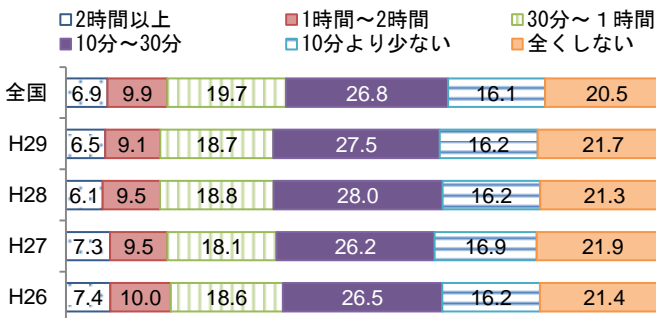
「読書が好きですか」との質問に肯定的な回答をした児童の割合は、昨年度からやや減少しています。生徒の割合は、平成27年度以降、増加傾向にあります。回答別に平均正答率を比較してみると、「当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率が最も高くなっており、関連があることがわかります。

大人自身が率先して読書を行い、読んだ本について語り合うことなどをおして家庭読書（家読（うちどく））を促進し、子どもたちの生涯にわたる読書習慣を確立していきましょう。

【児童生徒質問紙】(18) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

小学校

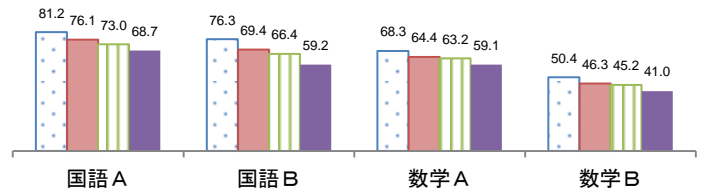
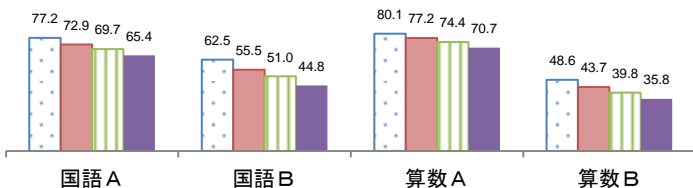
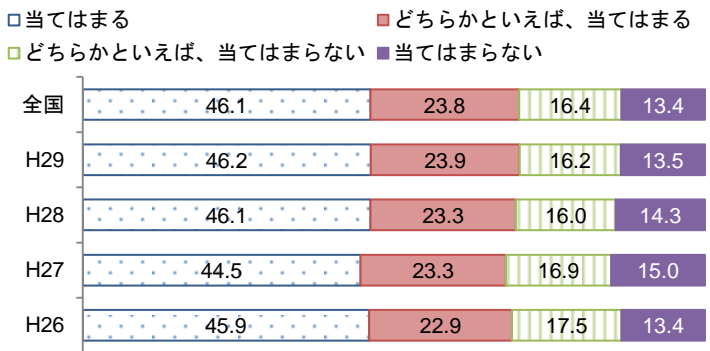
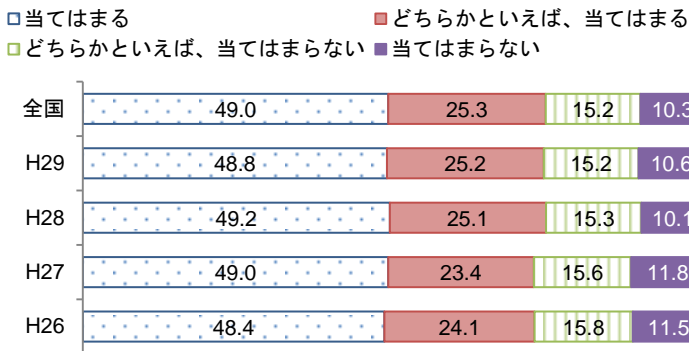
中学校



【児童生徒質問紙】(72・74) 読書は好きですか

小学校

中学校



5

主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に関する状況

「様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか」との質問に肯定的な回答をした小中学校の割合は、増加傾向にあります。また、「よく行った」と回答した小学校の割合は、昨年度より減少しています。

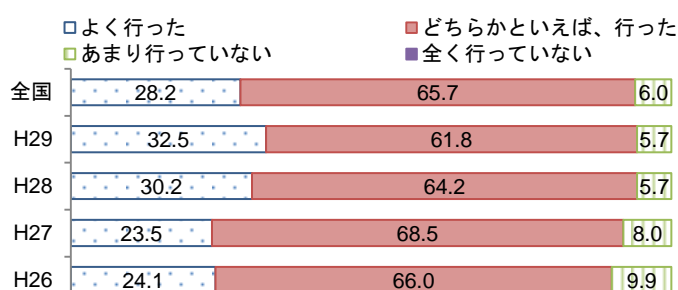
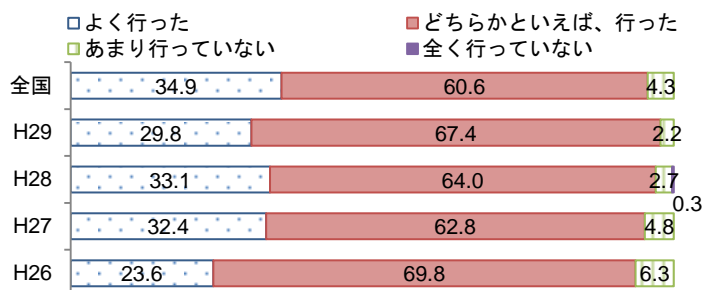
また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」との質問に「そう思う」と回答した児童の平均正答率が高い傾向にあります。

様々な考えを引き出したり、思考を深めたりする発問は、話し合う活動をとおして行うことが効果的です。発問内容とともに授業形態を工夫することが大切です。

【学校質問紙】(36) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか

小学校

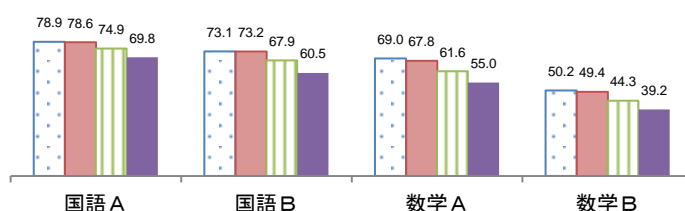
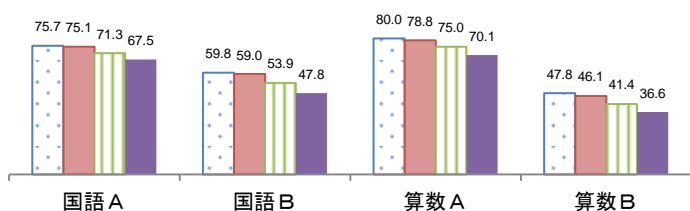
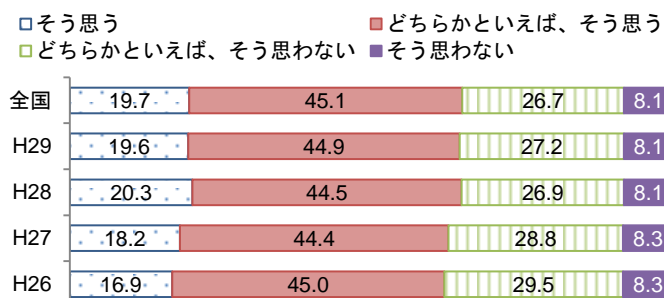
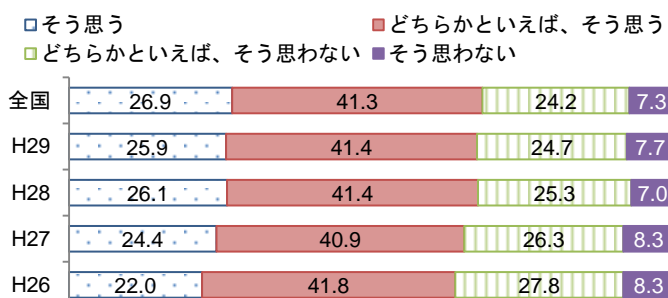
中学校



【児童生徒質問紙】(68・70) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

小学校

中学校



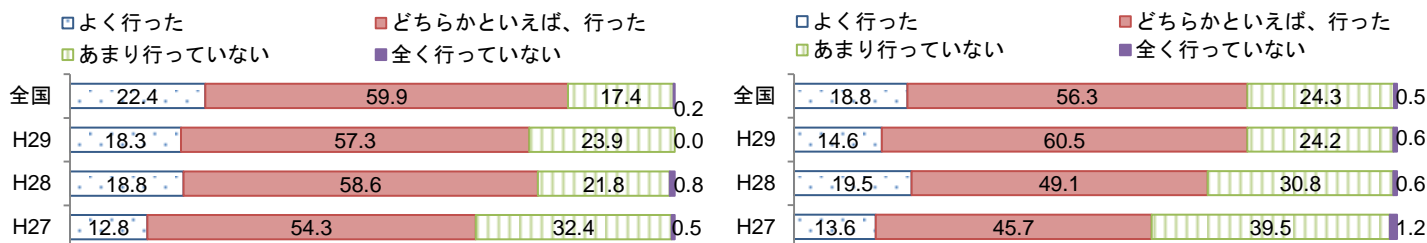
授業で学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動の取組に関する質問において、学校と児童生徒の回答状況を比較してみると、学校が「よく行った」と回答している割合を、児童生徒が「そう思う」と回答している割合が大きく上回っています。学校が「頻度」に着目して回答したのに対し、児童生徒は「学んだ充実感」に着目して回答したことが考えられます。活動を多く取り入れ学びの機会を増やすことも大切ですが、子どもたち自身が主体的・協働的に学んだと思えるような授業を展開していくことも大切です。

また、児童生徒質問紙の回答別に平均正答率を比較してみると、「そう思う」と回答した児童生徒の平均正答率が最も高くなっており、関連が見られます。

【学校質問紙】(41) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

小学校

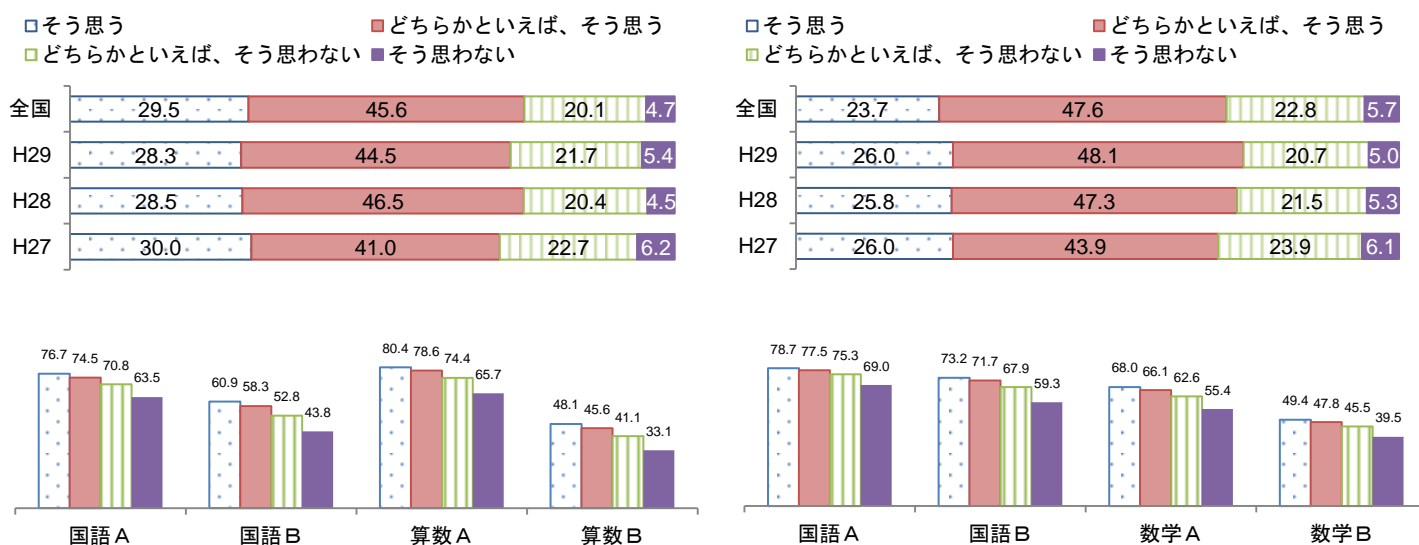
中学校



【児童生徒質問紙】(58・60) 5年生まで(1、2年生のとき)に受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか

小学校

中学校



6

学校の組織的な取組に関する状況（目標の提示・振り返り活動）

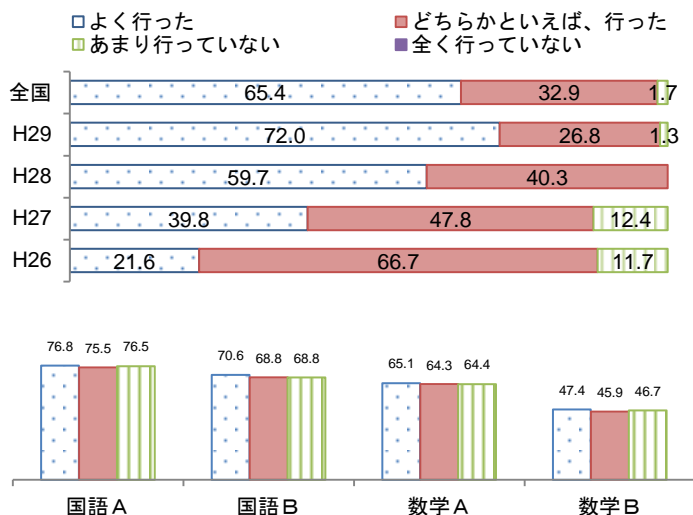
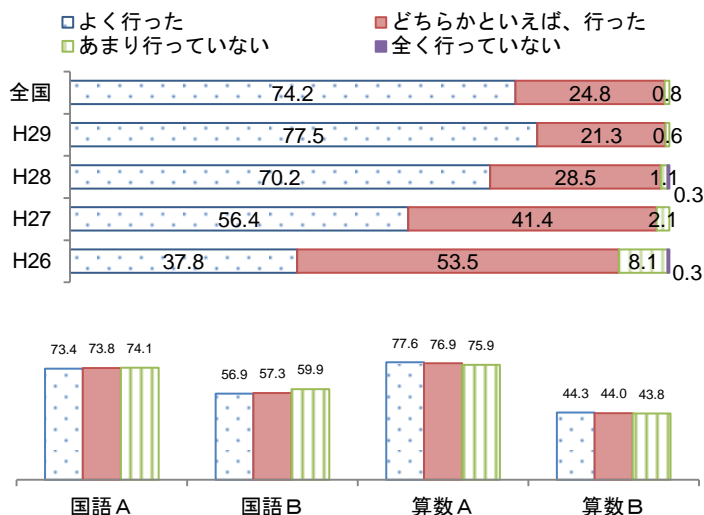
回答別に平均正答率を比較してみると、学校質問紙の回答と平均正答率には大きな関連が見られません。児童生徒質問紙では「当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率が最も高くなっています。

目標（めあて・ねらい）の提示の取組は定着が図られてきていますが、単に単元名のみでの提示になっていたり、一方的な提示になっていたりする場合があります。目標（めあて・ねらい）の提示では、「何を学ぶのか」「何を考えていくのか」を「問いの形」で提示することや提示のタイミングを工夫することで、児童生徒に思考の見通しを持たせることが大切です。

【学校質問紙】(33) 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか

小学校

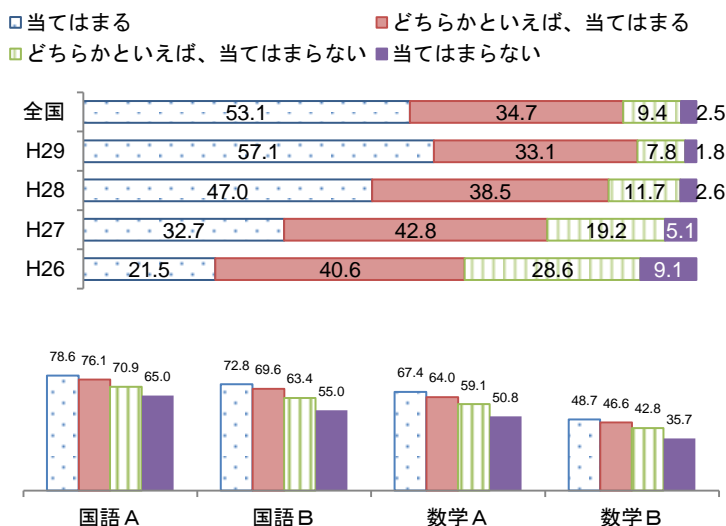
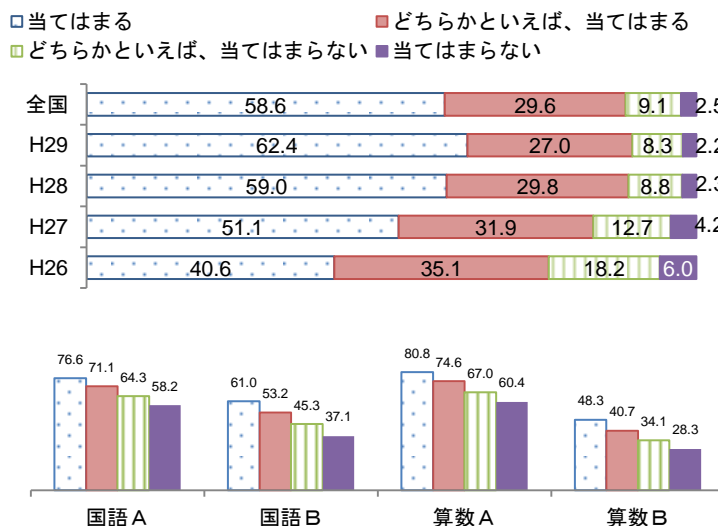
中学校



【児童生徒質問紙】(61・63) 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか

小学校

中学校



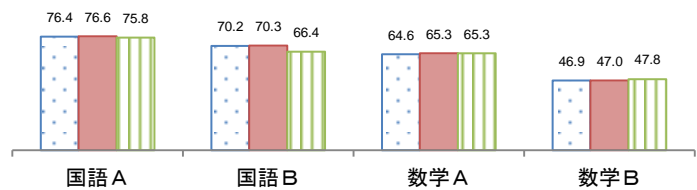
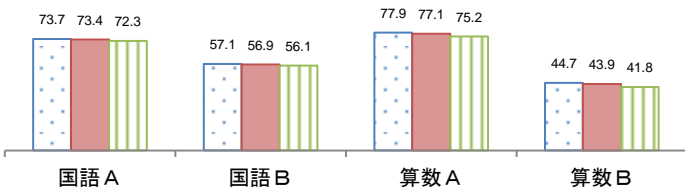
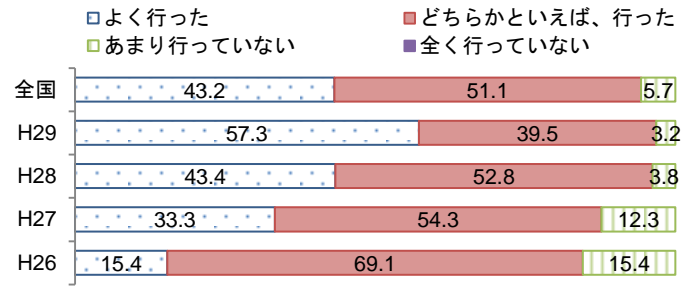
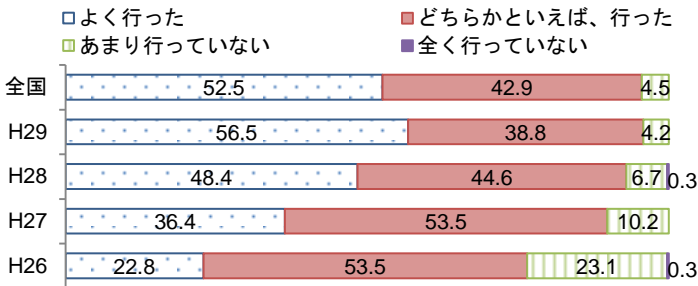
回答別に平均正答率を比較してみると、目標の提示に関する質問と同じ傾向が見られ、学校質問紙の回答と平均正答率には大きな関連が見られず、児童生徒質問紙では「当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率が最も高くなっています。

振り返る活動の取組も定着が図られていますが、感想のみに終わっていたり、時間が十分確保されていなかったりということもあります。振り返る活動では、「何がわかったか」「何ができるようになったか」を児童生徒一人ひとりに記述させます。教科や単元に応じて、文章、図、計算など多様な方法があります。文章で記述する場合は、書き出しを与えてそのあとを書かせたり、キーワード（重要語句や公式、なかまの考え）を使って書かせたりするなどの工夫が考えられます。

【学校質問紙】(34) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか

小学校

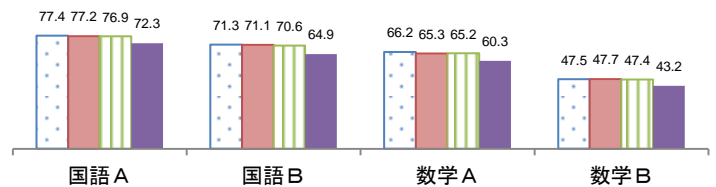
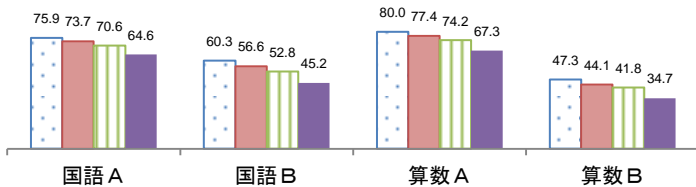
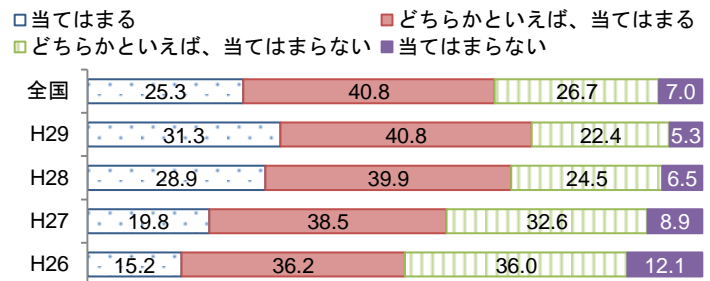
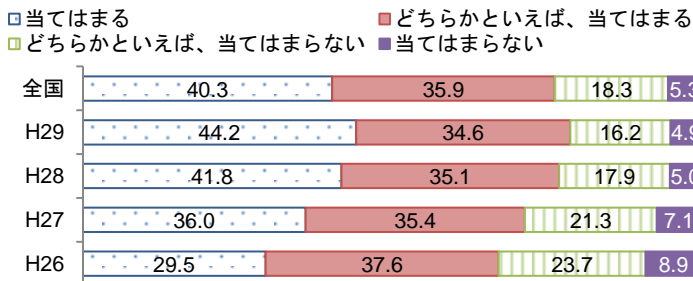
中学校



【児童生徒質問紙】(62・64) 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか

小学校

中学校





7

地域との関わりに関する状況

地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある児童生徒の割合は、昨年度に比べると低くなっていますが、平成26年度から見ると徐々に増えてきています。回答別に平均正答率を比較してみると、「当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率が最も高くなっています。

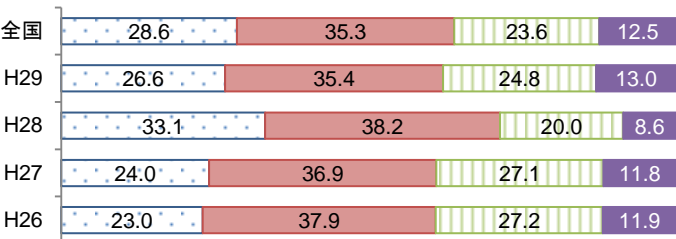
「調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、教科や総合的な学習の時間、あるいは朝や帰りの会などにおいて、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか」との質問に「よく行った」または「どちらかといえば、行った」と回答した小中学校の割合は、増加傾向にあります。引き続き、子どもたちが地域や社会のことを考えられるような出来事や課題を提示していくことが大切です。

【児童生徒質問紙】(41・43) 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか

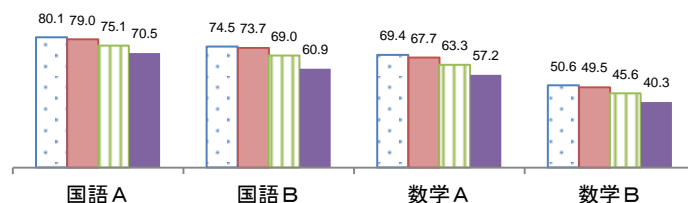
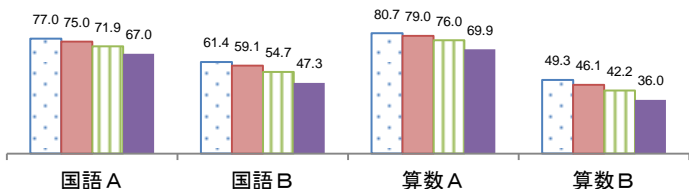
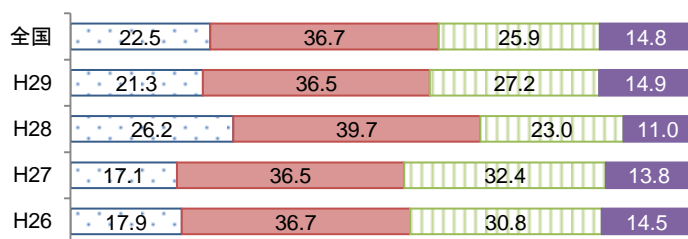
小学校

中学校

□当てはまる      ■どちらかといえば、当てはまる  
 □どちらかといえば、当てはまらない      ■当てはまらない



□当てはまる      ■どちらかといえば、当てはまる  
 □どちらかといえば、当てはまらない      ■当てはまらない



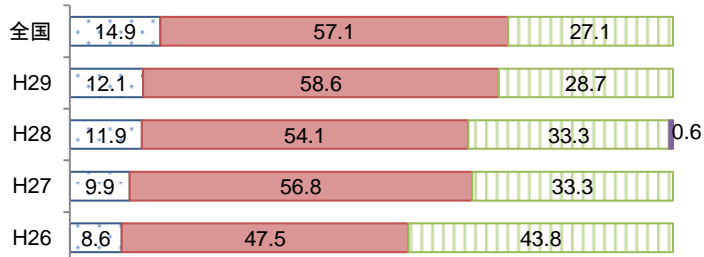
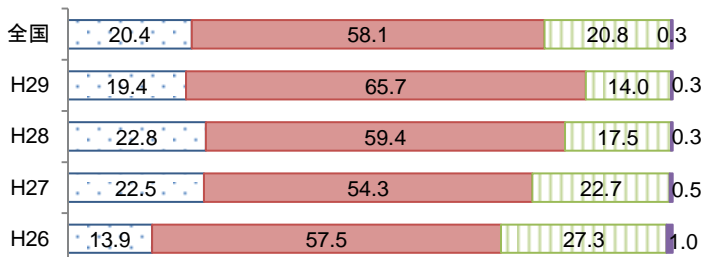
【学校質問紙】(50) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、教科や総合的な学習の時間、あるいは朝や帰りの会などにおいて、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか

小学校

中学校

□よく行った      ■どちらかといえば、行った  
 □あまり行っていない      ■全く行っていない

□よく行った      ■どちらかといえば、行った  
 □あまり行っていない      ■全く行っていない



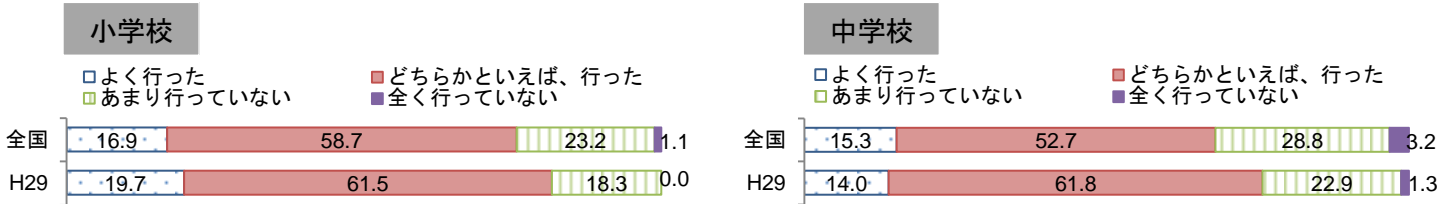


8 学校と児童生徒との意識の差の状況

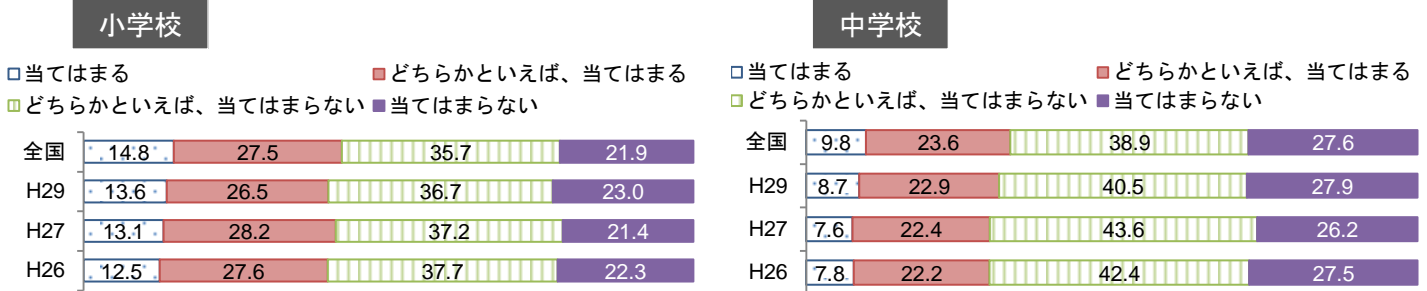
「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導を行いましたか」との質問に肯定的に回答している小中学校の割合は、それぞれ80%、75%を超え、全国より5ポイント以上高い状況です。しかしながら、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」との質問に肯定的に回答している児童生徒の割合は、それぞれ40%、30%程度にとどまっています。行事での指導だけなど、日常的に指導が行われていないため「当てはまる」と答えにくい状況にあることが考えられます。

また、「前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか」との質問に「よく行った」と回答した中学校は増加傾向にあります。今後も生徒の意識の変化につながるよう、学校の取組内容及び方法を見直し続けることが大切です。

【学校質問紙】(83・82) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導を行いましたか

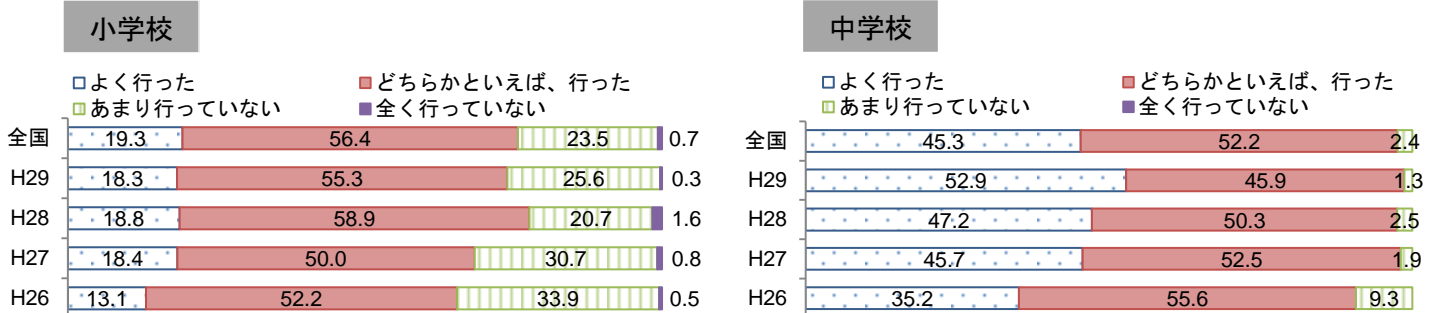


【児童生徒質問紙】(42・44) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか

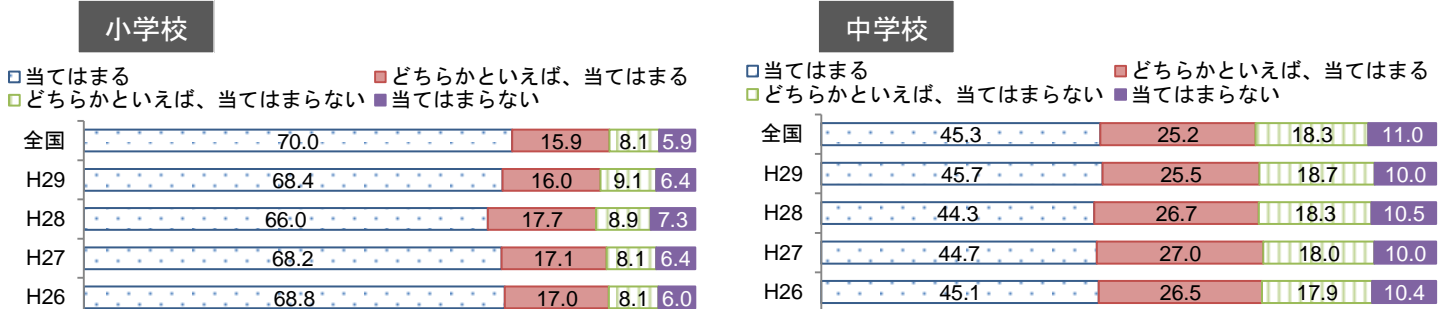


※平成28年度は質問項目にありません。

【学校質問紙】(45) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか



【児童生徒質問紙】(10) 将来の夢や目標を持っていますか



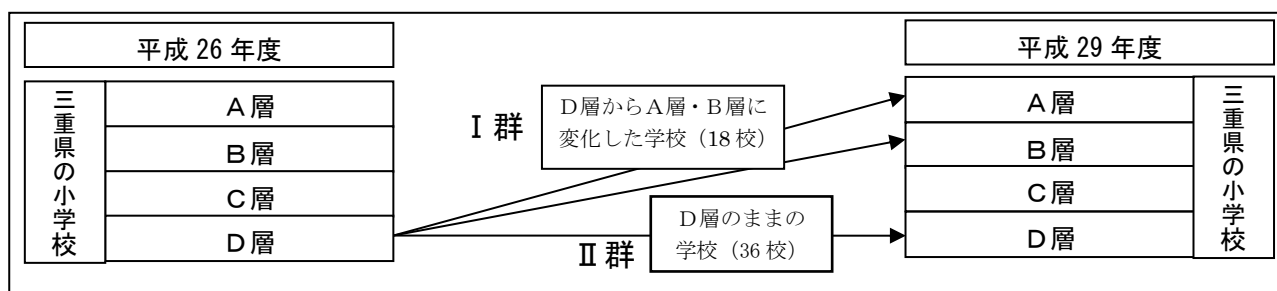
## 第4章 県内の取組

### 1 課題の改善が見られた学校の効果的な取組

平成26年度と平成29年度を比較して、課題の改善が見られた学校と、課題の改善が難しかった学校との学校質問紙の肯定的な回答を比較しました。

#### 小学校

「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習指導の改善を図った授業等の取組は、効果が大きいと考えられます。



分析は、I群とII群の肯定的な回答率の差から比較します。下の表は、太枠で囲った列の値が大きい順に並べています。

順	改善が見られた学校で、改善が難しかった学校より取り組まれている活動	
1	学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている (17)	+41.7%
2	自分の考えを相手にしっかりと伝えることができている (15)	+36.1%
3	自ら学級やグループで課題を設定し、話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた (41)	+33.3%
4	自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表ができている (19)	+25.0%
4	図書館資料を活用した授業を計画的に行った (22)	+25.0%
4	自ら課題を設定し、話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている (103)	+25.0%
7	児童は礼儀正しい (14)	+22.2%
7	学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができている (16)	+22.2%

※( )は質問紙番号を表しています。

#### 分析結果

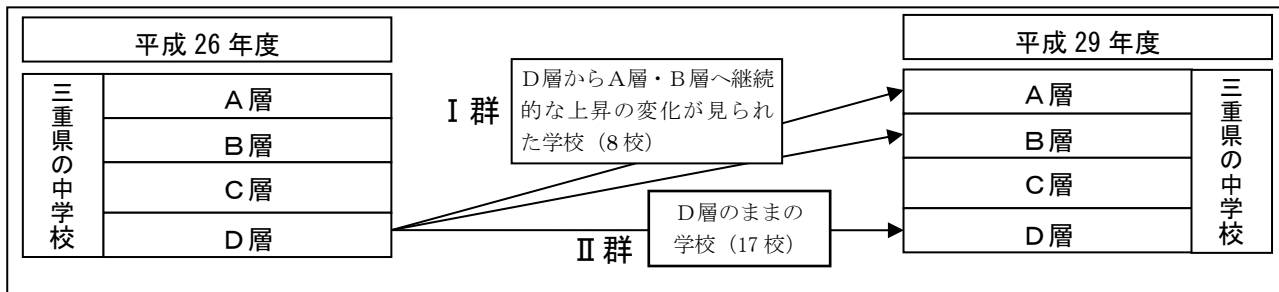
本年度の「I群」に属する学校の取組として、新学習指導要領の基本方針「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習指導の改善に関する取組状況や学習評価の在り方についての項目が多くなっています。(15)(16)(17)(19)(41)

また、「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習指導を進めるにあたって、教職員の資質能力向上の取組や、各授業における資料等の活用も高まっていることによる結果だと考えられます。(22)(103)

上記項目の取組内容や児童の姿勢は、児童の主体的な学習の実現に向けて取り組む優先事項の設定の参考になります。自校の状況や児童の状況に応じて取組の内容を選択し、年間を通じて組織的・継続的に取り組むことが大切です。

中学校

昨年度に引き続き、数学で習熟の遅いグループや習熟の早いグループへの少人数による指導、休日を利用した補足的な学習サポートの実施等の取組は効果が大きいと考えられます。



分析は、I群とII群の肯定的な回答率の差から比較します。下の表は、太枠で囲った列の値が大きい順に並べています。

順	改善が見られた学校で、改善が難しかった学校より取り組まれている活動	
1	自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表ができています (19)	+52.2%
2	教科や朝の会などで、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱った (50)	+35.3%
3	自ら課題を設定し、話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている (101)	+34.6%
4	自分の考えを相手にしっかりと伝えることができています (15)	+28.7%
4	自ら学級やグループで課題を設定し、話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた (41)	+28.7%
6	長期休業日を利用した補足的な学習のサポートを実施した (25)	+26.5%
7	学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができています (16)	+23.5%
7	指導計画の作成で、横断的な視点で、その目標達成に必要な教育内容を組織的に配列している (28)	+23.5%
7	地域や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会を設定した (83)	+23.5%
7	教員は、校外の教員同士の授業研究の場に定期的・継続的に参加している (100)	+23.5%
11	学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができています (17)	+22.8%
11	指導計画の作成で、必要な人的・物的資源等を、外部の資源を含めて活用しながら組み合わせている (31)	+22.8%

※( )は質問紙番号を表しています。

分析結果

本年度改善が見られた学校で、より取り組まれている活動のうち、平成28年度の分析と重なりがあった取組は、長期休業日を利用した補足的な学習サポートの実施でした。

平成28年度の分析結果と比較すると、新学習指導要領の基本方針「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習指導の改善に関する取組状況や学習評価の在り方についての項目が多くなっています。

(15) (16) (17) (19) (41)

また、「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習指導を進めるにあたって、教職員の資質能力向上の取組や、外部(地域)の資源活用の取組も高まっていることによる結果だと考えられます。(31) (83) (100) (101)

2 三重県と全国を取組の比較

学校質問紙の回答と平均正答率との間に、全国では関連が見られるが、本県ではほとんど見られない項目を取り上げました。

これらは全国の結果からわかるように、学力の向上に有効な取組となっています。その取組を進める意義を再確認するとともに、各学校において行われている取組内容・方法を見直し、改善を図っていく必要があります。

小学校

「話し合う活動」については、活動のねらい・目的を明確にし、効果的に取り入れていくよう改善が必要です。

「目標（めあて・ねらい）の提示」については、「何を学ぶのか」「何を考えていくのか」を「問いの形」で提示することや、提示のタイミングを工夫することで、子どもに思考の見通しを持たせることが重要です。

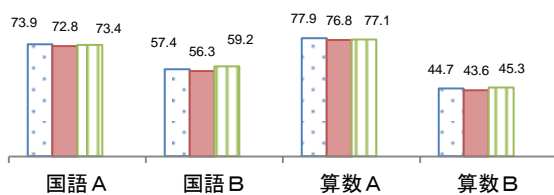
「家庭学習の与え方」については、学校全体で組織的に取り組む中で、どのようなことを共通理解して取り組んでいくのか、取組内容に改善が必要です。

ここに上げた項目以外にも、「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習指導に関わる項目が複数挙がっています。

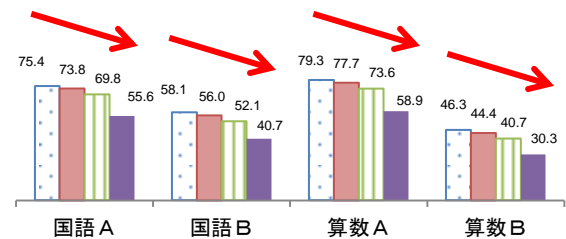
よく行った      どちらかといえば、行った      あまり行っていない      全く行っていない

【学校質問紙】(39) 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか

【三重県】

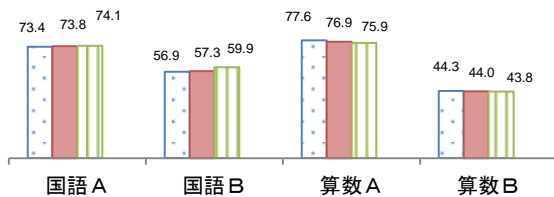


【全国】

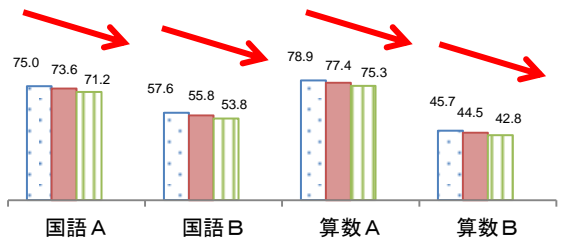


【学校質問紙】(33) 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか

【三重県】

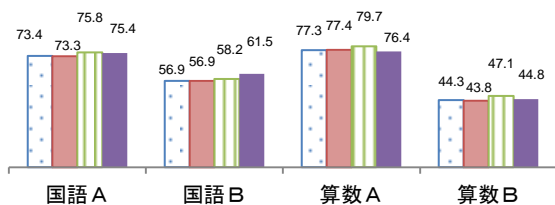


【全国】

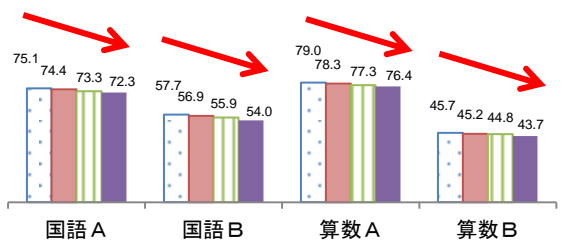


【学校質問紙】(95) 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか

【三重県】



【全国】



中学校

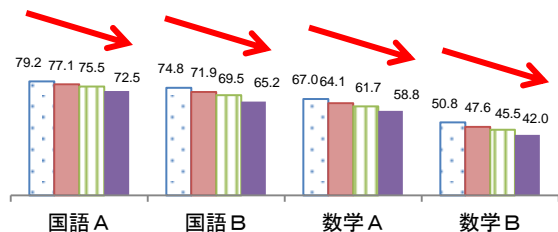
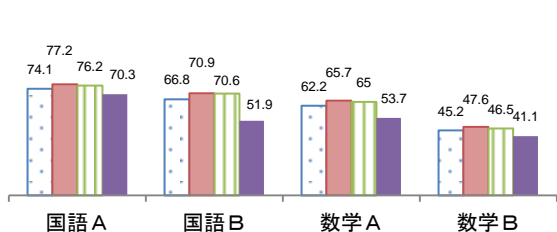
「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習指導に関わる項目が多く挙がっています。  
 調べたことをまとめ、発表する活動を取り入れた授業展開への取組が進んでいる一方で、活動内容や生徒へのフィードバックの方法などに課題があると考えられます。研修などをおして、「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習指導の改善を図る必要があります。

よく行った      どちらかといえば、行った      あまり行っていない      全く行っていない

【学校質問紙】(43) 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、資料を使って発表ができるよう指導しましたか

【三重県】

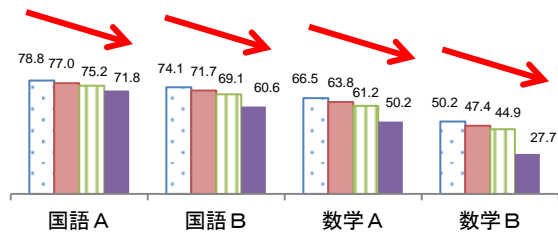
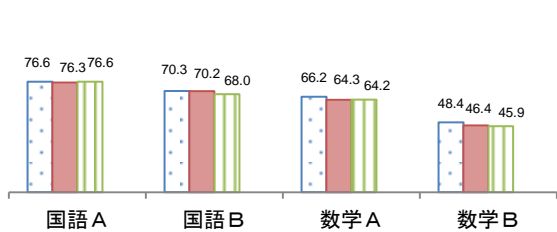
【全国】



【学校質問紙】(36) 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか

【三重県】

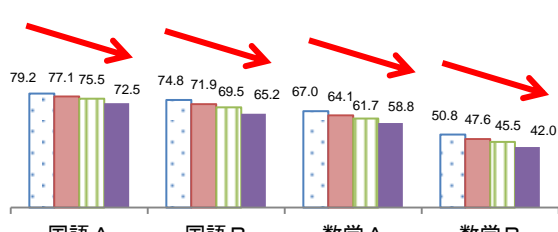
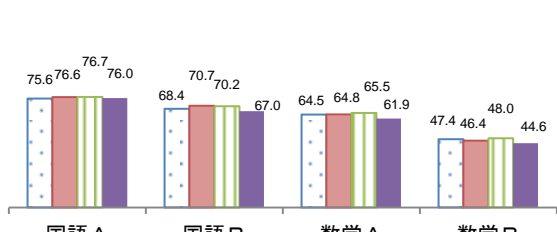
【全国】



【学校質問紙】(94) 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか

【三重県】

【全国】



### 家庭学習習慣・読書習慣の定着が見られる学校の取組

児童質問紙調査の結果において、「平日1時間以上学習する」「休日1時間以上学習する」「平日10分以上読書する」と回答した児童の割合が高い小学校の、生活習慣・学習習慣・読書習慣の確立を図る取組事例を紹介します。

#### 生活習慣の確立をめざした取組

- メディアによらず家庭で過ごす「ノーメディアデー」を設定する。(月1回、「0」のつく平日等)
- 生活習慣・読書習慣チェックシートの活用例
  - ・高学年の家庭科の単元に位置づけた生活リズムの見直しや、家族の一員としての自分の役割や仕事分担をフィードバックさせる。
  - ・生活指導の場や道徳、総合的な学習の時間、生活、保健等の学習と重ねて指導する。
  - ・児童集会で、図書委員会や生活委員会等による発表を実施する。
  - ・夏季休業中に継続してチェックを実施する。

#### 学習習慣の確立をめざした取組

- 低学年・高学年、または、低学年・中学年・高学年の発達段階に応じた「家庭学習の手引き」による家庭への呼びかけを行う。
- 自主学習の内容や仕方等を示した「学習の手引き」を4月に家庭に配付し、高学年での自主学習の実施を推進することで、小学校から中学校への主体的な学習習慣の確立につなげる。
- 自主学習実施の定着を図るため、教科に偏らず、児童の興味・関心がある教科で行うことや、学級通信で好事例を掲載するなど、児童にやる気を出させる働きかけをする。
- 「学年×15分」の家庭学習の時間を基本として実施を促す。
- 毎日の宿題を実施する。全学年、間違えたところはその日のうちにチェックし、その日のうちに正しく直して再提出をさせる。最後まで取り組むことを習慣化させる。

#### 補充学習の効果的な取組

- 学習ボランティアによる算数科に特化した「学びの時間」を設定する。平日に10回(木曜日5・6限目)、長期休業期間に4回、学年の学習内容や個に応じた「活用に関する問題」を提示し、問題の解法を学習ボランティアに伝えることにより、表現力の育成につなげる。
- 掃除と5限目の間の15分間にプリント学習を行う。(5限目の授業が落ち着いた・集中した雰囲気での実施が可能となる。)
- 第4学年以上に対して、月1回(年間8回)、火曜日の6限目に補充学習を行う。基礎基本の定着を図るため、地域ボランティア(各学年3名)による基本的な問題の復習を行う。

#### 読書習慣の確立をめざした取組

- 家庭での読書を推進するため、「家読(うちどく)」を設定し、家庭で一緒に読書をする時間を持つたり、児童と保護者がお互いに読み聞かせをしあったり、読んだ本の感想を伝え合ったりする。
- ボランティアによる「図書の日」を月曜日に設定し、読書の良さを児童に伝える。
- ボランティアによる読み聞かせを年間通して計画的に行う。
- 年度当初に年間の図書室の本の貸し出し冊数の目標値を設定(H29:35冊/年)し、学期ごとにその進捗状況を提示し、読書習慣の定着とともに図書室の利用を促進する。
- 朝の読書の時間のうち、終わりの5分間で、全学級、全員で音読を行う。

4 学校の取組事例

JSL カリキュラムを活用したどの子にもわかる授業づくり

いなべ市立阿下喜小学校

課題 日本語指導と教科指導の一体化

現在、外国につながる児童が全体の約15%在籍しています。在籍児童の多くはある程度の会話ができるため、日常の学校生活で大きく困ることは少ないのですが、学習言語の習得が十分ではないため、授業内容を理解することは困難です。外国につながる児童だけでなく、どの子にもわかる授業をとおして自尊感情を育み、学級集団を高め、意欲的・主体的に学ぶ子の育成を図ることをねらいとして取組を進めています。

取組① 安心して学べる学級集団づくり

●学習規律の確立

- ・休み時間に次の授業の準備をする。
- ・オンタイムで授業を始める。
- ・仲間や先生の話は、顔を見て最後まで聞く。
- ・指名されたら、「はい」と返事をする。
- ・相手に伝わる声で、「です」「ます」を付けて、最後まで話す。

「明確と統一」を合言葉に、全教職員が統一した指導を大切にしています。守っていない子には必ず声をかけ、教職員の指導に違いが出てきた場合は、声をかけ合い、その都度、全体で指導の確認を行っています。

また、集団生活を送る上で、マナーとしてのルールを大切に、「なぜそのルールがあるのか」理由とともに児童に指導しています。

取組② どの子にもわかる授業づくり

●JSL カリキュラムを活用した授業づくり

阿下喜小学校版 JSL10 のポイント

①「教科の目標」と「日本語の目標」を設定する

- 日本語の目標 (ア) 本時の教科語彙(新出語や難語)の意味がわかる  
 (イ) ある表現方法を習得して、自分の意見や思考過程を話す／書くことができる  
 (ウ) 語彙を増やす(表現力を育てる)

例)「教科の目標」 ものさしを使って、cm、mmが何個分か数えて、長さを図ることができる。

「日本語の目標(イ)」 ・1 cmが□個分で、○cmです。

・1 mmが□個分で、○mmです。

・1 cmが□個分と、1 mmが△個分で、□cm△mmです。 を使って表現できる。

※文型や表現を学ぶ機会を多く設定することで、自分の考えがうまく伝わるように工夫して話したり書いたりすることにつながります。

②「ターゲットセンテンス(思考の手がかりとなる表現)」を設定し活用する

③スモールステップで授業を進める 課題設定→問題提示→自力解決→学び合い→まとめ→ふりかえり

④視覚教材を工夫する ⑤板書を工夫する(ワークシートと板書の一致)

⑥ワークシートを作成する(課題、問題、答え、まとめがセットになっているもの)

⑦わかりやすく丁寧な日本語を使う ⑧復習や確かめで学習の定着を図る

⑨集中力を高める工夫をする(見通しを持たせる) ⑩学習規律を確立する

阿下喜小学校版5つの支援

I 理解支援(視覚支援): 新出の単語や文章の意味が理解できるように例示したり、学習内容の要点が理解できるように重要な箇所を強調したり、実物、模型、絵、写真、図などを使って、具体的なイメージが持てるようにするなどの支援。

II 表現支援: 表現のひな形を示し、順序立てて話したり、書いたりできるための支援。

III 記憶支援: 重要な言葉や学習内容について、授業中に教職員が繰り返し言ったり、それを使った活動を繰り返し児童にさせたりして、記憶を促す支援。

IV 自立支援: 自分の学習を管理して学習を進める力を育むための支援。

V 情意支援: 自信や意欲を持って学習が進められる環境を作ったり、意欲的に授業に参加できるよう、授業の流れや発問を工夫する支援。

成果 学力の向上

学習規律を確立することで授業に集中できる子どもが増えました。また、JSL カリキュラムを活用した授業づくりに取り組み始めてから授業改革の方向性が定まり、日常の授業に反映されるようになりました。毎年行っているNRT 学力調査の結果は学年が上がるにつれ徐々に向上してきています。外国につながる児童を含め、全ての児童が自分の考えを持ち、仲間と共に、心豊かにたくましく生きていくことを願い教育活動を継続していきます。



# 自分の考えを確かめ、伝え、つながり、高め合う授業づくり

～基礎学力の定着と活用する力の向上をめざして～

津市立安濃小学校

## 課題 基礎学力の定着と考えを組み立てる力の育成

- (ア) 基礎学力の定着を図るために学習規律の確立や朝学習の充実など今までの取組を進めること  
 (イ) 家庭での学習時間をのばす取組を行うこと  
 (ウ) 考えを組み立てる力を伸ばすために興味関心や達成感を高める支援を行うこと

### 取組① 落ち着いた学ぶことのできる学習環境づくり

- (ア) 全学年が共通理解をもち、学習規律の確立とルールの徹底

- ・チャイム着席・授業開始の徹底とともに子どもが学習範囲を音読するなど自主的に学習をスタートさせる習慣を付ける。
- ・教科書などの準備ができれば、今日の学習範囲を音読するなど、授業初めの活動を提示する。
- ・机上は学習に必要な物だけとして授業に集中する。
- ・授業の始まりと終わりを意識し、気持ちを切り替えて授業に臨ませる。

### 取組② 基礎学力の定着（あのうっ子タイムとチャレンジ学習）

- (ア) あのうっ子タイム(10分間の取組)

- ・週2回（火・木）の朝学習で既習内容についての復習プリントを行い、学習内容の定着を図っています。学習の進捗や子どもの実態に合わせた問題を教員が作成することで、一人ひとりに対応した支援ができます。また、地域のボランティアの方が読書（月・水・金）の時間に読み聞かせを日程を決めて実施しています。
- ・各学期に1回、朝学習の復習プリントから問題を集めたテスト（計算・文章題を含んだ20問）を行い、結果を分析し、定着状況の把握と今後の対策に生かしています。その結果、理解が十分でなかった問題については、年間を通じて問題作りの際に意図的に取り入れることや放課後の補充学習で習熟を図ることで、つまづきが少なくなり理解につながっています。

- (イ) チャレンジ学習（自主勉強として復習）

- ・宿題の意味を理解させ、教員がチェックして間違った問題をきちんと直す習慣をつけることで基礎学力・学習習慣の定着につなげています。基礎学力の定着は、学校の授業だけでなく、毎日の家庭学習による積み重ねが大きい「家庭学習の手引き」を家庭に配布し、協力を呼びかけています。

### 取組③ 児童の興味関心を高める取組

- (ウ) 教材の提示の仕方やわかる喜びを支援する教具の工夫・開発
- ・学習活動の中に具体物を用いた活動の場面を盛り込み、わかる喜びや学習内容の理解につなげています。
  - ・具体物を用いた活動や教具を使って数量の関係や計算の仕組みをイメージしてつかむことは、子どもたちが自分の力で問題を読み解こうとする思考の手助けになっています。
  - ・三重大学の中西教授に指導助言をいただき、より児童の理解を深める授業実践のあり方について研究を続けています。



かけわり器を使うことで  
計算の仕組みを理解・定着

### 取組④ 考えを組み立てる支援の取組

- (ウ) 「めあての提示」と「振り返る活動」、立式には単位をつけて式が表す意味を確認
- 低学年・・授業の始めに今日のめあてを声に出して読み、何について学習するか確認する。振り返る活動では、文章がなかなか書けないのでワークシートで類似問題や先生問題に取り組みせ、学習内容が習得できたかどうかを把握する。
- 中学年・・「めあて」を赤で囲み、学習を進める中で常に意識させたり、文章問題では、問われていること、分かっている数字などに印を付け、まとめの文のキーワードを穴埋めしたりする。
- 高学年・・キーワードを用いた文章表現をする。自分の考えをより明確に伝えるために算数用語をできるだけ使ってまとめる。

### 成果と課題 基礎学力の定着と活用する力の向上

算数科の授業公開では、教材研究・指導案検討や事後検討を行い、授業のねらいや指導方法などを全教職員で協議し、講師を招聘して専門的な知識を得ることで、お互いに高め合える環境作りに取り組むことができました。これからの課題として、子どもたちは、宿題などの与えられた課題や係活動・委員会活動など指示されたことに対して責任を持って行うだけでなく、自分できちんと計画立てて自主的に課題を見つけ、取り組んでいくために基礎学力の定着をもとに活用する力の向上を目指していきます。



# 聴き合い、学び合い、よく考えて行動する子どもの育成

紀宝町立井田小学校

## 課題 聴き合う関係を大切にしたい授業展開

井田小学校では、全ての子どもの学びを保障し、安心して心地よく学べる学校をめざして日々の授業や活動を行っています。授業においては、(教員主導の一斉授業型の形態ではなく)主体的・対話的で深い学びをめざし、子どもたちの聴き合う関係を大切にしたい授業を行っています。学校全体で授業の方向性を揃えて研修を進めてきたことにより成果も積み上がってきています。現在、「質の高い学び」や「聴き合う関係を基盤とした深い学び」の実現を求めて研修に励んでいるところです。

## 取組① 子どものつまずきを授業に活かす(分析をとおして)

夏休みに分析のための校内研修を設定し、全国学調やみえスタディ・チェックの自校採点結果をもとに、全教職員で授業実践に活かすことを視点に研修を行っています。分析したことをただ単に共有するのではなく、設問ごとに今教えている学年のどの学習内容と関連しているかを把握し、具体的な改善方を検討します。

種別	分析内容	授業改善への具体的とらえ
割合、適切な式を立て	示された条件を基に、適切な式を立てることができた。	
既知、数を変更した結果も同じ関係が成り立つことを図で表現できる	示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを図に表現することができた。	(3)児童自らが数量の関係を見出し、見出した関係がほかの場合でも成り立つかどうかの予想や確かなかを友だちやグループのやり方を聴き合い、理解するなかで、自分で表現する力を身につけているよう活動を設定する。
二つの数量の関係をそのきまりを記述で	模範例がなく、文章化が難しいよう、なにかしらのきまりを見出すことができていたが、それを明確に表現することができていない。	
のために、示された数値を選び、その求	無回答がなく、どの子も考えて取り組んでいたことが分かる。計算途中で問題を終えていたり、計算関連でのミスが	何を求めているのか、数値がもっている意味、問題全体の意味をしっかりと理解し、問い読みが必要がある。

【8月】校内研修にて設問ごとの出題の趣旨を把握→分析→授業改善に向けた具体的な取組を検討

(支援事務所参加)

【9月】児童質問紙の結果を分析し、生活習慣・学習習慣の改善について検討

【9月以降】具体的な改善の取組みについて、校内研修の中で実践を交流

## 取組② 授業の質をあげるために(授業公開をとおして)

### ●授業参観の視点[子どもの学ぶ姿を出発点に置き、授業をみる力を高める]

- ・子どもの事実(誰一人孤立しない・排除されない、つまずき・困り感、安心・居場所感、身体性・退屈など)から、どんな学びがみられたか、どんな学びの可能性があったのか。
- ・教室の事実(授業展開と子どもの思いや思考の「ずれ」、 「聴くーつなぐー戻す」 教員の力量・身体感覚、子どもとの関係性や教員の変容)はどうであったか。

### ●研究協議の視点[教室に起こっている事実を全教職員がみつめ、互いに学び合い、高め合う]

- ・子どもたちの様子や支援が必要な子どもへの具体的な対応はどうであったか。
- ・学級担任の困り感(授業の入り方や進め方、課題設定、子どもへの対応)について
- ・学校が目指す質の高い学び、聴き合う関係、どの子どもも試行錯誤する課題設定はどうであったか。

## 取組③ 家庭も学びの場に～進んで学ぶ子をめざして～

家庭学習のしおりを配付し、『学校と家庭とが「子どもの学び」をとおして協力し合うことが子どもたちの学ぶ力と身体を健康を育み、子どもたちは夢に向かって進んでいける』ことをメッセージとして呼びかけました。家庭学習が授業に戻っていくように、発達段階に合わせた「しっかり」「じっくり」「確実に」のコースを設定し、高学年までに「予定を立て計画的に学習する力をつける」ことを目標に取り組んでいます。また、その検証・検討を行い、家庭学習の充実を図っています。

	低学年	中学年	高学年
しっかり	【学習したことの復習や新出漢字の練習など基本的な学習】 □復習プリント □ドリル等の問題 □漢字の練習 □本読み(音読) □日記 等。		
じっくり	井田小学校では、 “授業進度” “理解度” “子どもの実態” “つきたい力” 等。	【ジャンプ問題や記述式の課題など発展的な学習】 □良問・難問な課題(ジャンプ課題) □作文 □読書 □フーノート □学習のふりかえり 等。	
確実に	を踏まえ、家庭学習用の課題を出しています。	【自主学習(自習)などの自己完結型の学習】 □学習課題の設定も含めた自己学習 ・学習する内容や課題を自分で決めて学習する。 □学習のまとめ方を自分で考える自己学習 ・学習課題は設定されているが、その課題解決の方法を自分で決め、学習する。	

## 成果 学びに向かう姿の変化

子どもたちの生活面、学習面において、個別には様々な課題はありますが、聴き合う関係を軸とした授業づくりにより、子ども同士でケアする関係性や信頼性が高まりつつあります。このことにより安心して学ぶ姿が見られると保護者からも声があがっています。また、どの子どもも試行錯誤できる課題を設定することで、試行錯誤することが当たり前になり、誰もが学ぼうとする姿勢につながっています。

## 今後 学びの足跡

昨年度から、授業公開や研究協議会、研修会で学んだことや感じたことを記録し、今後の自分たちの実践・学校の実践に活かしていく目的で冊子「学びの足跡」を作成しています。単に授業案を集めて綴じるといったものではなく、また、無理に体裁を整え、成果を書き留めたものでなく、正直に自分たちがやってきたことの「足跡」を残すものとして位置づけています。足跡を辿ることで、学校の歩む方向を予想したり修正を加えたりしながら、目の前の子どもたちの確かな学びの足跡につなげていきます。

## 数学科における習熟度別少人数指導の実践

～学習課題の工夫と追求する授業づくりをとおして～

大紀町立大宮中学校

### 課題 自尊感情を高め、生徒の持っている力を引き出すための授業とは

生徒は、書くことは得意としていますが、表現力に乏しく、人目を気にして自分の本音を出しにくい傾向があります。また、自尊感情が低いことから、結果だけでなく過程をほめて認めていくことを日々実践していますが、まだまだ生徒の持っている力を充分引き出し切れません。そこで、学習課題の工夫と追求する授業づくりをテーマに研修を進めています。

### 取組① 学習指導について

- ・授業実践のプロとしての意識を持ち授業改善に取り組む
- ・きめ細かなゆきとどいた指導を行うために少人数（TT・習熟度別編成）授業を実施
- ・本時の目標（めあて・ねらい）の提示と振り返る活動を工夫
- ・家庭学習を習慣化させるための課題提示と読書活動の充実
- ・特別支援学級では、協力学級と連携し、指導計画・支援計画に基づき全教職員で指導や支援を行う

### 取組② 少人数指導について（2年生習熟度別）

#### ●のびのびコース<発展>20人

考えること（わかることの繰り返し）をとおし、生徒に満足感を感じさせながら授業を進めています。授業中に「わかった」と納得したときの生徒の表情を大切にし、できた喜びと未知の問題に果敢に挑戦していける力をつけていきます。

#### <具体的な事例・一次関数のグラフのかき方>

教員が大切にしたいこと⇒生徒に考えさせながら進めること

グラフのかき方だけを押さえる授業に終始せず、一次関数のグラフをどのようにすればかけるかをペアやグループ学習で意見交流する中で、いろんな考え方に触れさせ、生徒に見方や考え方の広がりを持たせます。生徒が気づいた「2点がわかればかける」ことや、対応表の増加量を利用することなど、生徒が自力で課題を解決した考え方を他の生徒が聞き、「ほおー」と納得した言葉が出たときの喜びを教室中で共感します。

#### ●じっくりコース<基礎>11人

1つ1つできることを繰り返し、「できるかもしれない」「やってみるとそうでもない」「できた」という生徒の姿を大切に、絶えず数学を身近に感じさせながら、丁寧にゆっくりと授業を進めていき、できることを中心に据えて、問題解決していく力をつけていきます。

#### <具体的な事例・一次関数のグラフのかき方>

教員が大切にしたいこと⇒教壇に立って感じる「聞いている」「分かっている」ときの生徒の表情

できることの繰り返しを大切に、スモールステップ学習を進めます。まず、切片の取り方を学習し、傾きが正の分数の時のグラフのかき方を学習した後、練習問題で定着させます。次に、この内容を負の分数、正の整数、負の整数と繰り返しながら、最後にすべての問題で定着させます。これらのステップで一次関数のグラフをかいた時の式の見方（見る部分）を習得しグラフがかけるようになります。

難しいと感じる問題に対しても、その問題にあった見方や考え方ができれば解けるのではないかと思います。「やってみよう」と意欲的になります。また、どんな方法で解決できたのかを確認し、その核心に迫ろうとする姿につなげます。

### 成果 これまでの実践から見てきたこと

以前の一斉授業では、じっくりコースの生徒はうつむきがちでした。「わからない」「できない」ことの連鎖は、数学が嫌いな生徒を増やしているだけであったのかもしれませんが。「生徒全員に数学は楽しいと感じさせたい」という思いで、習熟度別をスタートし、今では授業で「わからなかった数学が、きっとわかるようになる」といった「わかりたい気持ちが生徒にはある」ことを再認識できました。

これからも学び合い、高め合いながら、ただ生徒が自分の意見を言うだけでなく、教員が反応を返し、生徒が意欲的に取り組めるような課題の表現を考えていくことを大切にして実践を進めていきます。

## 言語活動を意識した授業づくり

伊賀市立柘植中学校

## 課題 リテラシーの側面から学力向上を目指す

柘植中学校では、「なかまづくり・学級集団づくり」を土台に、「エンパワメント」「リテラシー」「キャリアデザイン」の3つの側面から統合的な力をつけていくことを目指して取組を進めてきました。しかし、学力向上と関わりの強いリテラシーの側面、基礎的なことからの定着や家庭学習に課題がみられます。これらの課題を克服するため、言語活動を重視しながら、授業ミニマムの見直しや授業のタイムマネジメントの質の向上について日々研修と実践を行っています。

## 取組 ① 言語活動の充実

## ●全ての教職員が統一された意識で取り組む

- ・教職員の移動がある年度初めに、これまで研修の中で大事にしてきた「言語活動を意識する」とはどのようなことか、言語活動を重視した授業づくりについて確認する研修時間を設けています。
- ・全教員が年に1回教科の授業公開を行い、授業反省会でアドバイザーや外部講師から助言をいただいています。その際、それぞれの教科での気づきを、自分の教科に照らしてどう取り入れるか考えるようにしています。

## ●リテラシーの4観点を意識した授業づくり

- ①文章やグラフや資料などの情報を読み取り、整理する力をつける。(読む)
- ②伝えたいことを、根拠を明確にし、筋道を立てて書く力をつける。(書く)
- ③話し手の意図を考えて聞き取る力をつける。(聞く)
- ④図を使ったり聞き手の反応を見たりしながら、自分の考えを伝える力をつける。(話す)

4つの力をつけるため、より具体的な目標を立てて普段の授業づくりに生かすとともに、人権教育カリキュラムに反映するようにしました。

## 柘植中学校 1年生 人権教育カリキュラム

## リテラシーの力 教科の学力を高め、情報を正しく活用し、確かな判断力をもとに問題を解決していく力

- 【国語】「レポート 調べたことを整理して、分かりやすく」調べた情報を整理してレポートを書くことで、図表や文章をまとめ、効果的に相手に伝える力をつける。
- 【社会「北アメリカの農業」】～北アメリカの農業の特徴は何か～北アメリカの農業について、文章やグラフや資料などの情報から読み取り、自然環境と比較しながら整理する力をつける。
- 【数学】「反比例を利用して身近な問題を考えよう」数量関係を表や式にあらわすことで、反比例の関係であることを定義に基づいて説明する力をつける。
- 【理科】「力の大きさとばねのひき」力の大きさとばねのひきの関係が疎べる実験を通して、誤差を考えてデータをまとめる力をつける。
- 【音楽】「仲間とともに、明るい歌声を響かせよう」曲の内容を感じ取りながら声を合わせる喜びを感じ、明るく声でしっかり歌いあげることができる力をつける。
- 【体育】「マント運動」自己の動きを分析することを通して、情報を整理する力をつける。
- 【英語】「一年の思い出・過去形」ある日の出来事を自分自身の「持ちペーパー」で表現できる力をつける。
- 【学力の充実】 学力補充(スタディ・プロジェクト)、家庭学習ノート、家庭学習強調月間、朝の読書、「がんばりま表」

## 取組 ② 補充学習

## ●地域と連携した補充学習

生徒の学力向上を目指し、いがまち人権センターと連携しながら、火・金の週2回、夜間に学習会を行っています。講師は主にセンター職員と地域の方で、教員も関わっています。教科の学習だけでなく、学校では見過ごされがちな社会のマナーなどを指導してもらう良い機会にもなっています。

## ●「スタディプロジェクト」の取組

月曜日の放課後30分及び長期休業中に、希望した生徒や教員から参加を促された生徒を対象に補充学習を行っています。学習教材は自分で準備して取り組むことを基本としていますが、生徒の実態に応じて、教員が個々の能力に合わせたプリント等を準備することもあります。宿題を出して「やっておきなさい」では自分で取り組むことが難しい生徒への家庭学習習慣の定着支援としても有効だと考えます。

土曜授業では、学-Viva!!セットや全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックの過去問等に取り組み、問題の答え方や問題に対する考え方を学ばせました。

## 成果 考える力の向上

講師を招へいした授業研究を全教員が行い協議することで、「学校全体で目指すこと」と「一人ひとりの教員が工夫すること」の重なりが見えやすくなりました。また、50分の授業計画をきちんと立てることで、毎時間確実に振り返る活動をさせることができました。

1学期の学校評価アンケートでは、「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会が多い」「毎日の家庭学習で決められた時間を達成できた」と答えた生徒の割合が昨年度同時期よりそれぞれ4.4ポイント、2.5ポイント上昇しています。

「考える力」はついてきましたが、「伝える力」がまだまだ弱いため、伝えたい思いを表現する力、あるいは、自分から発信していく自主性を伸ばしていくことが今後の課題です。

# 第5章 「みえの学力向上県民運動」主な関連指標 (三重県の経年変化)

平成26・27・28・29年度の推移一覧

※表中のA・B・Cは、「全国との差」の変位を表し、Aは「改善・上昇」、Bは「変動なし」、Cは「下降」を示す。  
 ※表中の+・-は、三重県の割合の変位を表し、+は「改善・上昇」、-は「下降」を表す。  
 ※表中の○は、上記に示した「A、B、C」及び「+、-」の数値が±5ポイント以上離れていることを表す。  
 ※表中の網かけは、当該年度に同じ質問項目がなかったものである。

## 小学校

### 《児童質問紙》

質問紙番号	質問項目		H26	H26-H27	H27	H27-H28	H28	H28-H29	H29
①	基本的生活習慣の状況 「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」の平均値	三重県	88.3		88.3		89.1		88.6
		全国	88.7	B	88.7	A	88.8	C	88.8
		全国との差	-0.4		-0.4		0.3		-0.2
	(1) 朝食を毎日食べている	三重県	95.7		95.3		95.7		95.4
		全国	96.0	B	95.6	A	95.5	C	95.4
		全国との差	-0.3		-0.3		0.2		0.0
	(2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ている	三重県	78.3		79.0		80.2		79.3
		全国	79.2	A	79.5	A	80.1	C	79.8
		全国との差	-0.9		-0.5		0.1		-0.5
	(3) 毎日、同じくらいの時刻に起きている	三重県	90.9		90.7		91.4		91.1
全国		90.9	C	91.0	A	90.8	C	91.2	
全国との差		0.0		-0.3		0.6		-0.1	
②	子どもたちの自尊感情の状況 「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦する」「自分には、よいところがあるとと思う」の平均値	三重県	81.9		82.1		82.7		83.5
		全国	81.9	C	82.4	A	82.3	C	83.4
		全国との差	0.0		-0.3		0.4		0.1
	(4) ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある	三重県	94.6		94.5		94.9		95.1
		全国	94.4	C	94.5	A	94.4	C	94.8
		全国との差	0.2		0.0		0.5		0.3
	(5) 難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦する	三重県	75.4		76.6		77.6		78.1
		全国	75.1	C	76.4	A	76.1	C	77.4
		全国との差	0.3		0.2		1.5		0.7
	(6) 自分には、よいところがあるとと思う	三重県	75.7		75.1		75.5		77.4
全国		76.1	C	76.4	A	76.3	A	77.9	
全国との差		-0.4		-1.3		-0.8		-0.5	
③ (10) 将来の夢や目標を持っている	三重県	85.8		85.3		83.7		84.4	
	全国	86.7	C	86.5	C	85.3	A	85.9	
	全国との差	-0.9		-1.2		-1.6		-1.5	
④	平日の子どもたちのテレビ・テレビゲーム等の使用状況 「平日のテレビ等の視聴(3時間以上)」「平日のテレビゲーム等の使用(3時間以上)」の平均値	三重県	28.6		27.0		24.6		26.6
		全国	27.5	A	26.6	A	24.4	C	25.2
		全国との差	1.1		0.4		0.2		1.4
	(12) 平日のテレビ等の視聴(3時間以上)	三重県	38.4		35.8		32.4		33.7
		全国	38.0	A	36.1	A	32.8	C	32.7
		全国との差	0.4		-0.3		-0.4		1.0
	(13) 平日のテレビゲーム等の使用(スマホのゲームを含む)(3時間以上)	三重県	18.8		18.2		16.8		19.4
		全国	17.0	A	17.0	A	16.0	C	17.6
		全国との差	1.8		1.2		0.8		1.8
	⑤ (14) 平日のスマホの通話やメール、インターネットの使用(3時間以上)	三重県	5.6		6.3		5.9		7.9
全国		5.0	B	5.7	A	5.8	C	7.0	
全国との差		0.6		0.6		0.1		0.9	
⑥ (15) 平日の学習時間(1時間以上)	三重県	59.4		58.4		60.4		61.6	
	全国	62.0	C	62.7	A	62.5	C	64.4	
	全国との差	-2.6		-4.3		-2.1		-2.8	
⑦ (16) 休みの日の学習時間(1時間以上)	三重県	46.9		45.8		49.0		47.9	
	全国	55.9	C	56.7	A	57.0	C	57.3	
	全国との差	-9.0		-10.9		-8.0		-9.4	
⑧ (18) 授業時間以外の読書時間(平日10分以上)	三重県	62.5		61.1		62.4		61.8	
	全国	64.7	C	64.2	A	63.5	C	63.3	
	全国との差	-2.2		-3.1		-1.1		-1.5	
⑨ (24) 家の人(兄弟姉妹は含まない)と学校での出来事について話をする	三重県	78.9		78.6		78.2		77.6	
	全国	80.4	A	79.5	C	79.2	A	78.1	
	全国との差	-1.5		-0.9		-1.0		-0.5	
⑩ 削除	三重県					82.5			
	全国					82.8			
	全国との差					-0.3			
⑪ (29) 家で、自分で計画を立てて勉強している	三重県	59.4		60.5		61.7		62.8	
	全国	61.0	C	62.8	A	62.2	C	64.5	
	全国との差	-1.6		-2.3		-0.5		-1.7	
⑫ (32) 家で、学校の授業の復習をしている	三重県	48.7		50.1		54.2		51.1	
	全国	54.0	A	54.5	A	55.2	C	53.8	
	全国との差	-5.3		-4.4		-1.0		-2.7	
⑬ (33) 学校に行くのが楽しい	三重県	86.6		86.9		86.9		87.1	
	全国	86.6	C	87.0	A	86.3	A	86.3	
	全国との差	0.0		-0.1		0.6		0.8	
⑭ (38) 先生は、あなたのよいところを認めてくれると思う	三重県	80.1				83.8		87.2	
	全国	79.7				82.6	B	86.0	
	全国との差	0.4				1.2		1.2	
⑮ (39) 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる	三重県					87.8		87.7	
	全国					84.8	C	85.1	
	全国との差					3.0		2.6	

第5章 「みえの学力向上県民運動」主な関連指標

質問紙番号	質問項目		H 2 6	H26→H27	H 2 7	H27→H28	H 2 8	H28→H29	H 2 9
16	(40) 地域行事への参加	三重県	73.2		72.0	A +	73.1	A -	68.3
		全国	68.0	C -	66.9	A +	67.9	A -	62.6
		全国との差	5.2		5.1		5.2		5.7
17	(41) 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある	三重県	60.9		60.9	A +	71.3	C ⊖	62.0
		全国	62.9	C	63.9	A +	70.6	C ⊖	63.9
		全国との差	-2.0		-3.0		0.7		-1.9
18	(43) 地域社会などでボランティア活動に参加したことがある	三重県					30.8	A -	30.3
		全国					36.2	A -	35.4
		全国との差					-5.4		-5.1
19	子どもたちの規範意識の状況 「学校のきまりを守っている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」の平均値	三重県	93.5	A +	93.7	A +	94.4	C -	94.0
		全国	93.6	A	93.7	A +	94.0	C	93.7
		全国との差	-0.1		0.0		0.4		0.3
	(49) 学校のきまりを守っている	三重県	90.4	B +	91.0	A +	91.8	C +	92.8
		全国	90.5	B	91.1	A +	91.5	C	92.6
		全国との差	-0.1		-0.1		0.3		0.2
	(52) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	三重県	96.3	A +	96.5	C +	96.8	A -	96.4
		全国	96.4	A +	96.2	C	96.6	A -	96.1
		全国との差	-0.1		0.3		0.2		0.3
	(53) 人の役に立つ人間になりたいと思う	三重県	93.7	A	93.7	A +	94.5	C -	92.8
		全国	94.0	A	93.7	A +	93.8	C	92.5
		全国との差	-0.3		0.0		0.7		0.3
20	(58) 主体的・協動的な授業に取り組んでいる 授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	三重県			71.0	A +	75.0	C -	72.8
		全国			74.2	A +	75.7	C	75.1
		全国との差			-3.2		-0.7		-2.3
21	(61) 授業の中で目標（めあて・ねらい）の提示 ※H27までは「授業のはじめに」	三重県	75.7	A ⊕	83.0	A +	88.8	B +	89.4
		全国	82.0	A	86.3	A +	87.6	B	88.2
		全国との差	-6.3		-3.3		1.2		1.2
22	(62) 授業の最後に学習内容を振り返る活動の設定	三重県	67.1	A +	71.4	A ⊕	76.9	A +	78.8
		全国	71.9	A	75.3	A ⊕	76.1	A	76.2
		全国との差	-4.8		-3.9		0.8		2.6
23	(71) 国語の授業の内容がよく分かる	三重県	79.7	A +	82.2	A -	81.4	A +	83.4
		全国	80.1	A	82.0	A	80.7	A	82.2
		全国との差	-0.4		0.2		0.7		1.2
24	(80) 算数の授業の内容がよく分かる	三重県	79.0	A +	81.3	A +	82.6	A +	83.3
		全国	79.6	A	81.0	A +	80.2	A	80.6
		全国との差	-0.6		0.3		2.4		2.7
25	授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つ ※国語、算数の平均値	三重県	87.3	A +	89.0	A +	90.3	C -	89.0
		全国	88.2	A	89.5	A +	89.6	C	88.5
		全国との差	-0.9		-0.5		0.7		0.5
	(73) 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	三重県	86.4	A +	88.0	A +	90.0	B -	88.7
		全国	87.4	A	88.6	A +	89.2	B	87.9
		全国との差	-1.0		-0.6		0.8		0.8
(84) 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	三重県	88.2	A +	90.0	A +	90.5	C -	89.3	
	全国	89.0	A	90.3	A +	89.9	C	89.1	
	全国との差	-0.8		-0.3		0.6		0.2	

《学校質問紙》

質問紙番号	質問項目		H 2 6	H26→H27	H 2 7	H27→H28	H 2 8	H28→H29	H 2 9
26	(22) 対象児童に対して、前年度に、図書館資料を活用した授業を計画的に実施（学期に数回以上） ※H26までは「学校図書館を活用」	三重県	77.2	A +	81.8	A +	83.1	C -	82.8
		全国	80.5	A	82.6	A +	83.0	C	83.9
		全国との差	-3.3		-0.8		0.1		-1.1
27	(23) 対象児童に対して、前年度に、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施（週に2回以上）	三重県	18.9	A +	22.7	C -	21.8	A +	25.6
		全国	17.5	A	17.7	C	17.9	A	19.0
		全国との差	1.4		5.0		3.9		6.6
28	(33) 授業の中で目標（めあて・ねらい）の提示 ※H27までは「授業のはじめに」	三重県	91.3	A ⊕	97.8	A +	98.7	C +	98.8
		全国	96.9	A	98.1	A +	98.8	C	99.0
		全国との差	-5.6		-0.3		-0.1		-0.2
29	(34) 授業の最後に学習内容を振り返る活動の設定	三重県	76.3	A ⊕	89.9	A +	93.0	A +	95.3
		全国	91.6	A	93.9	A +	94.9	A	95.4
		全国との差	-15.3		-4.0		-1.9		-0.1
30	(51) 学校生活の中で子どもたち一人ひとりのよい点や可能性を見つけ、児童生徒に伝えるなど積極的に評価した	三重県	97.1	A +	97.6	A +	99.4	C -	98.1
		全国	96.9	A	96.7	A +	98.4	C	97.4
		全国との差	0.2		0.9		1.0		0.7
31	(56) 前年度全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を、学校全体で教育活動を改善するために活用	三重県	92.9	A ⊕	98.1	C -	97.6	A +	98.9
		全国	93.6	A	95.8	C	97.0	A	96.6
		全国との差	-0.7		2.3		0.6		2.3
32	(80) 地域等の人材を招へいた授業等の実施	三重県	81.9	A +	82.9	C ⊕	88.4	A +	90.4
		全国	76.3	A	76.3	C	82.4	A	84.2
		全国との差	5.6		6.6		6.0		6.2
33	(111) 校長の授業の見回り（週に2日以上）	三重県	84.5	A ⊕	95.4	A +	98.2	C -	96.6
		全国	91.6	A	93.1	A +	94.2	C	94.5
		全国との差	-7.1		2.3		4.0		2.1



中学校

《生徒質問紙》

質問紙番号	質問項目		H 2 6	H26-H27	H 2 7	H27-H28	H 2 8	H28-H29	H 2 9
①	基本的生活習慣の状況 「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に就寝している」「毎日、同じくらいの時刻に起床している」の平均値	三重県	86.9		86.8		87.4		87.1
		全国	86.6	C -	86.9	A +	86.9	C -	87.1
		全国との差	0.3		-0.1		0.5		0.0
	(1) 朝食を毎日食べている	三重県	93.3		93.1		93.8		93.6
		全国	93.5	C -	93.5	A +	93.3	C -	93.2
		全国との差	-0.2		-0.4		0.5		0.4
	(2) 毎日、同じくらいの時刻に就寝している	三重県	75.0		75.3		75.6		75.7
		全国	74.1	C +	75.2	A +	75.2	C +	75.6
		全国との差	0.9		0.1		0.4		0.1
	(3) 毎日、同じくらいの時刻に起床している	三重県	92.3		91.9		92.7		92.0
全国		92.1	C -	92.1	A +	92.3	C -	92.4	
全国との差		0.2		-0.2		0.4		-0.4	
②	子どもたちの自尊感情の状況 「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する」「自分には、よいところがあると思う」の平均値	三重県	77.7		78.1		79.0		80.6
		全国	76.3	C +	77.0	A +	77.7	A +	78.8
		全国との差	1.4		1.1		1.3		1.8
	(4) ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある	三重県	94.6		95.1		95.0		95.5
		全国	93.9	A +	94.2	C -	94.3	A +	94.7
		全国との差	0.7		0.9		0.7		0.8
	(5) 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する	三重県	69.5		69.7		70.8		73.2
		全国	68.0	C +	68.8	A +	69.6	A +	71.0
		全国との差	1.5		0.9		1.2		2.2
	(6) 自分には、よいところがあると思う	三重県	69.1		69.4		71.3		73.2
全国		67.1	C +	68.1	A +	69.3	A +	70.7	
全国との差		2.0		1.3		2.0		2.5	
③ (10) 将来の夢や目標を持っている	三重県	71.6		71.7		71.0		71.2	
	全国	71.4	C +	71.7	C -	71.1	A +	70.5	
	全国との差	0.2		0.0		-0.1		0.7	
④	平日の子どもたちのテレビ・テレビゲーム等の使用状況 「平日のテレビ等の視聴（3時間以上）」「平日のテレビゲーム等の使用（3時間以上）」の平均値	三重県	29.6		27.7		23.4		25.5
		全国	25.9	A +	25.5	A +	21.5	C -	23.4
		全国との差	3.7		2.2		1.9		2.1
	(12) 平日のテレビ等の視聴（3時間以上）	三重県	35.2		32.4		25.5		27.3
		全国	31.5	A +	30.5	A ⊕	24.1	C -	25.3
		全国との差	3.7		1.9		1.4		2.0
	(13) 平日のテレビゲーム等の使用（スマホのゲームを含む）（3時間以上）	三重県	24.0		22.9		21.2		23.6
		全国	20.3	A +	20.5	A +	18.9	A -	21.4
		全国との差	3.7		2.4		2.3		2.2
	⑤ (14) 平日のスマホの通話やメール、インターネットの使用（3時間以上）	三重県	24.5		21.5		18.6		20.6
全国		19.8	A +	18.2	A +	16.6	C -	18.1	
全国との差		4.7		3.3		2.0		2.5	
⑥ (15) 平日の学習時間（1時間以上）	三重県	64.4		66.5		65.2		66.5	
	全国	67.9	A +	69.0	C -	67.9	C +	69.6	
	全国との差	-3.5		-2.5		-2.7		-3.1	
⑦ (16) 休みの日の学習時間（1時間以上）	三重県	57.4		59.9		59.8		62.0	
	全国	67.4	A +	68.7	A -	67.8	A +	69.4	
	全国との差	-10.0		-8.8		-8.0		-7.4	
⑧ (18) 授業時間以外に読書をする子どもたちの割合（10分以上）	三重県	50.7		48.6		46.4		47.7	
	全国	53.0	C -	52.2	A -	49.7	C +	51.4	
	全国との差	-2.3		-3.6		-3.3		-3.7	
⑨ (26) 家の人（兄弟姉妹は含まない）と学校での出来事について話をする	三重県	72.5		73.4		73.7		74.0	
	全国	72.6	C +	73.7	C +	74.1	A +	74.3	
	全国との差	-0.1		-0.3		-0.4		-0.3	
⑩ 削除 家の手伝いをしていますか	三重県					66.8			
	全国					67.2			
	全国との差					-0.4			
⑪ (31) 家で、自分で計画を立てて勉強している	三重県	47.3		51.0		50.3		54.3	
	全国	46.6	A +	48.8	C -	48.4	A +	51.5	
	全国との差	0.7		2.2		1.9		2.8	
⑫ (34) 家で、学校の授業の復習をしている	三重県	45.5		48.9		48.5		48.6	
	全国	50.4	A +	52.0	A -	51.0	A +	50.5	
	全国との差	-4.9		-3.1		-2.5		-1.9	
⑬ (35) 学校に行くのが楽しい	三重県	84.8		83.9		84.0		82.9	
	全国	82.4	C -	82.1	A +	81.4	C -	80.9	
	全国との差	2.4		1.8		2.6		2.0	
⑭ (40) 先生は、あなたのよいところを認めてくれると思う	三重県	74.0				79.6		82.2	
	全国	74.1				78.0	A +	80.4	
	全国との差	-0.1				1.6		1.8	
⑮ (41) 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる	三重県					77.4		79.3	
	全国					74.1	A +	75.5	
	全国との差					3.3		3.8	

第5章 「みえの学力向上県民運動」主な関連指標

質問紙番号	質問項目		H 2 6	H26-H27	H 2 7	H27-H28	H 2 8	H28-H29	H 2 9
16	(42) 地域行事への参加	三重県	50.4		50.7		50.9		47.2
		全国	43.5	C +	44.8	C +	45.2	C -	42.1
		全国との差	6.9		5.9		5.7		5.1
17	(43) 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある	三重県	54.6		53.6		65.9		57.8
		全国	55.6	C -	55.9	A ⊕	65.8	C ⊖	59.2
		全国との差	-1.0		-2.3		0.1		-1.4
18	(45) 地域社会などでボランティア活動に参加したことがある	三重県					45.7		46.3
		全国					48.7	C +	49.7
		全国との差					-3.0		-3.4
19	子どもたちの規範意識の状況 「学校の規則を守っている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」の平均値	三重県	93.3		94.4		94.2		94.1
		全国	93.5	A +	93.9	B -	93.7	A -	93.3
		全国との差	-0.2		0.5		0.5		0.8
	(51) 学校の規則を守っている	三重県	93.4		95.2		95.9		96.5
		全国	93.0	A +	94.4	A +	94.7	A +	95.2
		全国との差	0.4		0.8		1.2		1.3
	(54) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	三重県	92.8		93.9		93.7		93.0
		全国	93.4	A +	93.7	C -	93.6	A -	92.8
		全国との差	-0.6		0.2		0.1		0.2
	(55) 人の役に立つ人間になりたいと思う	三重県	93.8		94.1		93.0		92.7
		全国	94.0	A +	93.7	C -	92.8	A -	91.9
		全国との差	-0.2		0.4		0.2		0.8
20	(60) 主体的・協働的な授業に取り組んでいる授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいる	三重県			69.9		73.1		74.1
		全国			65.7	C +	69.3	C +	71.3
		全国との差			4.2		3.8		2.8
21	(63) 授業の中で目標（めあて・ねらい）の提示 ※H27までは「授業のはじめに」	三重県	62.1		75.5		85.5		90.2
		全国	71.5	A ⊕	79.7	A ⊕	84.9	A +	87.8
		全国との差	-9.4		-4.2		0.6		2.4
22	(64) 授業の最後に学習内容を振り返る活動の設定	三重県	51.4		58.3		68.8		72.1
		全国	53.3	A ⊕	59.3	A ⊕	63.1	A +	66.1
		全国との差	-1.9		-1.0		5.7		6.0
23	(73) 国語の授業の内容がよく分かる	三重県	73.4		76.3		75.4		77.6
		全国	72.0	A +	74.3	C -	74.1	A +	74.9
		全国との差	1.4		2.0		1.3		2.7
24	(82) 数学の授業の内容がよく分かる	三重県	73.9		75.4		74.9		75.0
		全国	71.5	A +	71.6	A -	69.4	A +	69.4
		全国との差	2.4		3.8		5.5		5.6
25	授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つ ※国語、数学の平均値	三重県	76.5		79.1		79.3		79.8
		全国	77.0	A +	78.4	A +	78.1	A +	77.9
		全国との差	-0.5		0.7		1.2		1.9
	(75) 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	三重県	82.0		85.0		85.4		85.3
		全国	82.5	A +	84.2	B +	84.6	A -	83.3
		全国との差	-0.5		0.8		0.8		2.0
(86) 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	三重県	71.0		73.2		73.1		74.3	
	全国	71.4	A +	72.5	A -	71.5	A +	72.4	
	全国との差	-0.4		0.7		1.6		1.9	

《学校質問紙》

質問紙番号	質問項目		H 2 6	H26-H27	H 2 7	H27-H28	H 2 8	H28-H29	H 2 9
26	(22) 対象生徒に対して、前年度に、図書館資料を活用した授業を計画的に実施（学期に数回以上） ※H28までは「学校図書館を活用」	三重県	39.5		44.7		45.3		48.4
		全国	42.2	A ⊕	44.9	C +	46.5	B +	49.6
		全国との差	-2.7		-0.2		-1.2		-1.2
27	(23) 対象生徒に対して、前年度に、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施（「週に2回以上」）	三重県	11.8		13.7		12.0		15.3
		全国	14.1	A +	14.9	C -	15.6	A +	15.6
		全国との差	-2.3		-1.2		-3.6		-0.3
28	(33) 授業の中で目標（めあて・ねらい）の提示 ※H27までは「授業のはじめに」	三重県	88.3		87.6		100.0		98.8
		全国	94.0	C -	95.7	A ⊕	97.8	C -	98.3
		全国との差	-5.7		-8.1		2.2		0.5
29	(34) 授業の最後に学習内容を振り返る活動の設定	三重県	84.5		87.5		96.2		96.8
		全国	89.2	A +	90.9	A ⊕	93.0	C +	94.3
		全国との差	-4.7		-3.4		3.2		2.5
30	(51) 学校生活の中で子どもたち一人ひとりのよい点や可能性を見つけ、児童生徒に伝えるなど積極的に評価した	三重県	96.9		99.4		98.8		96.8
		全国	96.5	A +	95.8	C -	97.2	C -	95.5
		全国との差	0.4		3.6		1.6		1.3
31	(56) 前年度全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を、学校全体で教育活動を改善するために活用	三重県	91.4		94.4		95.5		94.2
		全国	90.4	A +	93.2	C +	94.8	C -	94.4
		全国との差	1.0		1.2		0.7		-0.2
32	(79) 地域等の人材を招へいた授業等の実施	三重県	61.7		64.0		74.2		75.8
		全国	58.5	A +	58.8	A ⊕	65.1	C +	68.9
		全国との差	3.2		5.2		9.1		6.9
33	(109) 校長の授業の見回り（週に2日以上）	三重県	69.2		81.4		88.1		88.5
		全国	79.3	A ⊕	81.4	A ⊕	82.6	C +	83.5
		全国との差	-10.1		0.0		5.5		5.0

## 第6章 今後の取組

子どもたちの「わからない」「できない」を「わかった」「できた」という実感につなげる取組が進められるよう、県教育委員会では、「全ては子どもたちのために」という強い思いで、広域教育行政の立場から創意工夫した取組を進め、より一層市町と連携しながら学校・家庭・地域の取組を支援してまいります。

### 授業改善に向けた取組

#### (1) 「めあての提示」と「振り返る活動」の効果的な実施

「めあての提示」では、「何を学ぶのか」「何を考えていくのか」を「問いの形」で提示することや提示のタイミングを工夫することで、子どもに思考の見通しを持たせることが重要です。その際、子どもが授業中にめあてを絶えず認識できるよう、必ず板書することが大切です。

「振り返る活動」では、「何がわかったか」「何ができるようになったか」を学習内容に沿って子ども一人ひとりに記述させます。教科や単元に応じて、文章、図、計算など多様な方法があります。文章で記述する場合は、書き出しを与えてその後を書かせたり、キーワード（重要語句や公式、なかまの考え）を使って書かせたりするなどの工夫が考えられます。

#### (2) 「校長の授業の見回り」の効果的な実施

「校長の授業の見回り」では、参観の視点（子どもの様子、授業規律、「めあての提示」と「振り返る活動」の内容、発問・指示、板書など）を持って1時限を通じた授業観察を行うことが効果的です。授業後には、授業者が意欲的に取り組むことができるよう具体的にアドバイスを行うことが大切です。

#### (3) 国の調査官による授業改善研修会の実施

子どもたちの実態に応じた習熟度別やTTなど、効果的な少人数指導についての授業公開を伴う実践的な研修会を、国の調査官を招へいし実施します。

### 各学校の課題に応じた学-Viva!!セットとワークシートの活用

本県の課題に対応した学-Viva!!セットやワークシートを提供していきます。各学校においては、全国学調の結果分析から明らかになった課題に応じて計画的に活用してください。なお、授業における繰り返しの指導、家庭学習、補充学習での活用が効果的です。

### みえスタディ・チェックの活用による検証と改善

みえスタディ・チェック実施後、自校採点を行い、その結果を授業改善サイクル支援ネット（以下「支援ネット」という。）に入力することで、リアルタイムに、各学校では設問ごとに自校と県の正答率が比較できます。このことにより、子どもたちのつまずきを把握し、授業改善や個に応じた指導につなげることができます。

県教育委員会では、設問ごとに対応したワークシートを支援ネットで提供していますので、子どもたちのつまずきに応じて活用し、課題の克服につなげてください。

### 経年的な課題を克服するための取組

子どもたちに見られる経年的な課題として、国語では「引用したり要約したりして書くこと」「根拠に基づいて自分の考えを書くこと」、算数・数学では「割合」「図形」につまずきがあります。

子どもたちがこれらのつまずきを克服できるよう、学習内容における各学年の系統性や子どもにつまずきに対応した指導のポイントを示した資料を配付しますので、授業改善につなげられるよう活用してください。

また、理科では「観察・実験の技能（実験器具の名称や操作方法等）」「科学的な用語（蒸発等）」「濃度、圧力、電気等の計算（質量パーセント濃度の問題等）」につまずきが見られました。これらの課題に対応したワークシートを提供していますので、繰り返し活用してください。また、平成24年度と27年度の全国学調の問題をワークシート化して提供していますので、あわせて活用してください。



### 家庭学習の支援（宿題用学-Viva!!セットの配付）

子どもたちの家庭学習の時間が短いという課題を踏まえ、家庭学習に自主的に取り組めるよう、自分の力で解けるヒントを掲載したワークシート（宿題用学-Viva!!セット）を配付しました。ワークシートは、国語では漢字や言葉の使い方、算数・数学では四則計算や図形の基礎的な問題を中心に作成していますので、家庭学習や補充学習で計画的に活用してください。

### 家庭・地域への情報発信

みえの学力向上県民運のチラシの配布を通じて家庭・地域へ周知・啓発を行います。チラシでは、全国学調の結果概要について、子どもたちの学習状況や自尊心の高まりとともに、スマホの使用時間が長いことや家庭学習の時間が短いこと、自主的な読書の時間が短いという状況を伝え、学校・家庭・地域それぞれの役割に応じた取組を呼びかけています。

### <参考> 「子どもの問題は、大人の問題」です。

子どもたちは、一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、将来、地域で輝き、世界で活躍する姿は、私たちの希望であり未来です。子どもたちの無限の可能性を最大限引き出すとともに、強みを伸ばして支えていくことは、子どもたちに関わる全ての大人の役割と責任です。子どもたちは、大人を見ており、「子どもの問題は、大人の問題」です。

教育は子どもたちの心に灯をともしることであり、大人が子どもたちを信じ、寄り添い、情熱を持って心を通わせる中で、希望の灯をともし、やる気にスイッチを入れることが大切です。また、子どもたちは、さまざまな場での学びをとおして成長していきますが、教育格差が原因となって貧困の連鎖が生まれ、子どもたちの将来が閉ざされることがないように、子どもたちを多面的にサポートする人びとのつながり（絆）が、これまで以上に求められています。

そこで三重県では、子どもたちの希望と未来を支える学力を育んでいくため、教育関係者のみならず、全ての県民が教育の当事者としての自覚を持ち、「毎日が未来への分岐点」という思いのもと、それぞれの役割を果たし、子どもたちと向き合っていきます。平成28年度からの4年間は、みえの学力向上県民運動セカンドステージとして、学校では授業改善等の取組を深め、家庭・地域では生活習慣・学習習慣・読書習慣の確立等の取組を広げ、家庭の状況により、対応が難しい問題については、地域による学習支援や居場所づくりなどにより、地域で支えるという方向性を基本としながら、県民力を結集し、全力で取り組みます。

（「みえの学力向上県民運動 基本方針」より一部抜粋）

### <参考>

「みえの学力向上県民運動セカンドステージ」(<http://www.mie-c.ed.jp/kenminundou/>)

#### ○基本方針

・県民運動の趣旨等をご覧ください。

#### ○生活習慣・読書習慣チェックシート

・ご家庭でダウンロードして活用していただけます。

#### ○みえの親スマイルワーク

・「みえの家庭教育応援プラン」に基づき作成された、学級・学年の懇談会、PTAの行事などの機会や、地域のサークルや企業内での集まりなど、研修会や学習会だけでなく、さまざまな場面で活用していただけるワークを掲載しています。

# 第7章 市町等別調査結果・分析と今後の取組

※各市町等の調査結果・分析及び今後の取組の公表については、基本的に各市町等の判断により行います。各市町等の情報は、以下の各市町等のホームページをご覧ください。  
 なお、市町等の情報をリンク等することについては、全市町等の同意を得ています。

- |               |               |               |                     |               |
|---------------|---------------|---------------|---------------------|---------------|
| ・ <u>桑名市</u>  | ・ <u>木曾岬町</u> | ・ <u>いなべ市</u> | ・ <u>東員町</u>        | ・ <u>四日市市</u> |
| ・ <u>朝日町</u>  | ・ <u>菰野町</u>  | ・ <u>川越町</u>  | ・ <u>鈴鹿市</u>        | ・ <u>亀山市</u>  |
| ・ <u>津市</u>   | ・ <u>松阪市</u>  | ・ <u>多気町</u>  | ・ <u>多気町松阪市学校組合</u> |               |
| ・ <u>明和町</u>  | ・ <u>大台町</u>  | ・ <u>伊勢市</u>  | ・ <u>玉城町</u>        | ・ <u>大紀町</u>  |
| ・ <u>南伊勢町</u> | ・ <u>度会町</u>  | ・ <u>鳥羽市</u>  | ・ <u>志摩市</u>        | ・ <u>伊賀市</u>  |
| ・ <u>名張市</u>  | ・ <u>尾鷲市</u>  | ・ <u>紀北町</u>  | ・ <u>熊野市</u>        | ・ <u>御浜町</u>  |
| ・ <u>紀宝町</u>  |               |               |                     |               |

<資料> 「平成29年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(平成28年12月8日 文部科学省)より抜粋

<p>5. 調査結果の取扱い</p> <p>(5) 調査結果の取扱いに関する配慮事項</p> <p>調査結果については、調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることに重要であることに留意し、適切に取り扱うものとする。</p> <p>調査結果の公表に関しては、教育委員会や学校が、保護者や地域住民に対して説明責任を果たすことが重要である一方、調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要である。このことを踏まえ、具体的な公表の手段等は、以下のとおりとする。</p> <p>ア 教育委員会及び学校による調査結果の公表</p> <p>(ア) 都道府県教育委員会においては、調査の実施主体が国であることや、市町村が基本的な参加主体であることなどに鑑みて、以下のとおり取り扱うこと。</p> <p>① 自らが設置管理する学校の状況については、それぞれの判断において、(エ)に基づき公表することは可能であること。</p> <p>② 域内の市町村教育委員会が設置管理する学校全体の状況及び各学校の状況については、市町村教育委員会の同意を得た場合は、(エ)に基づき、当該市町村名又は当該市町村教育委員会が設置管理する学校名を明らかにした公表(市町村名又は学校名を特定することが可能な方法による公表を含む。以下同じ。)を行うことは可能であること。</p> <p>なお、個々の市町村名・学校名が明らかとならない方法(例えば、教育事務所単位の状況の公表等)で、(エ)に基づき公表することは、都道府県教育委員会の判断において可能であること。</p> <p>③ ①又は②に基づき個々の市町村名・学校名を明らかにした公表を行うことについては、その教育上の影響等を踏まえ、必要性について慎重に判断すること。</p> <p>④ 自らが設置管理する学校に自校の結果を公表するよう指示する場合も、自らが個々の学校名を明らかにした公表を行う場合に準じて取り扱うこと。</p> <p>(イ) 市町村教育委員会においては、以下のとおり取り扱うこと。</p> <p>① 当該市町村教育委員会が設置管理する学校全体の結果について、それぞれの判断において、(エ)に基づき公表することは可能であること。</p> <p>② 自らが設置管理する学校の状況について、それぞれの判断において、(エ)に基づき公表することは可能であること。この場合、個々の学校名を明らかにした公表を行うことについては、その教育上の影響等を踏まえ、必要性について慎重に判断すること。</p> <p>③ 自らが設置管理する学校に自校の結果を公表するよう指示する場合も、自らが個々の学校名を明らかにした公表を行う場合に準じて取り扱うこと。</p> <p>(ウ) 学校においては、自校の結果について、それぞれの判断において、(エ)に基づき公表することは可能であること。</p> <p>(エ) 調査結果の公表に当たっては、以下の①から⑥までにより行うこと。</p>		<p>① 公表する内容や方法等については、教育上の効果や影響等を考慮して適切なものとなるよう判断すること。</p> <p>② 調査結果の公表を行う教育委員会又は学校においては、単に平均正答数や平均正答率などの数値のみの公表は行わず、調査結果について分析を行い、その分析結果を併せて公表すること。さらに、調査結果の分析を踏まえた今後の改善方策も速やかに示すこと。</p> <p>③ (ア)①又は(イ)②に基づき教育委員会が個々の学校名を明らかにした公表を行う場合、又は(ア)②において市町村教育委員会が学校名を明らかにした公表に同意する場合は、当該学校と公表する内容や方法等について事前に十分相談するとともに、公表を行う教育委員会は、当該調査結果を踏まえて自らが実施する改善方策を調査結果の公表の際に併せて示すこと。</p> <p>また、教育委員会において自らが設置管理する学校に自校の結果を公表するよう指示する場合は、教育委員会は自らが実施する改善方策を速やかに示すとともに、公表する内容等について学校に指示する場合は、教育委員会は当該学校とそれらについて事前に十分相談すること。</p> <p>なお、平均正答数や平均正答率などの数値について一覧での公表やそれらの数値により順位を付した公表などは行わないこと。</p> <p>④ 調査の目的や、調査結果は学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを明示すること。</p> <p>⑤ 児童生徒個人の結果が特定されるおそれがある場合は公表しないなど、児童生徒の個人情報の保護を図ること。</p> <p>⑥ 学校や地域の実情に応じて、個別の学校や地域の結果を公表しないなど、必要な配慮を行うこと。</p> <p>(オ) 教育委員会が独自に実施する学力調査の公表の取扱いについては、もとよりそれぞれの教育委員会の判断に委ねられること。</p> <p>イ 文部科学省が公表する内容以外の調査結果の取扱い</p> <p>(ア) 文部科学省は、調査結果のうち、自らが公表する内容及び別に定めるガイドラインに基づき利用・公表された内容を除くものについて、これが一般に公開されることになると、序列化や過度な競争が生じるおそれや学校の設置管理者等の実施への協力及び国民的な理解が得られなくなるなど正確な情報が得られない可能性が高くなり、全国的な状況を把握できなくなるなど調査の適正な遂行に支障を及ぼすおそれがあると考えられるため、行政機関の保有する情報の公開に関する法律(平成11年法律第42号)第5条第6号の規定を根拠として、同法における不開示情報として取り扱うこととする。</p> <p>(イ) 教育委員会等は、文部科学省から提供を受けた調査結果のうち公表する内容を除くものについて、上記(ア)を参考に、それぞれの地方公共団体が定める情報公開条例に基づく同様の規定を根拠として、情報の開示により調査の適正な遂行に支障を及ぼすことのないよう、本実施要領の趣旨、特に5.(5)ア(エ)を十分踏まえ、適切に対応する必要があること。</p>
---	--	---

平成 29 年度全国学力・学習状況調査結果 分析報告書

発行日	平成 29 年 12 月
発行者	三重県教育委員会 〒514-8570 三重県津市広明町 13 番地